

令和4年度実施事業における教育に関する事務の管理および
執行の状況の点検および評価等の報告書

令和5年12月

米 原 市 教 育 委 員 会

目 次

1	点検および評価制度の概要	
(1)	背景	1
(2)	目的	1
(3)	対象事業の考え方	1
(4)	評価の方法	1
(5)	学識経験者の知見の活用	2
2	教育委員会の活動状況	
(1)	教育委員	3
(2)	教育委員会の活動状況	3
(ア)	教育委員会議の開催および議決状況	3
(イ)	その他の活動状況	3
(ウ)	委員の就任状況	4
3	米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会	
(1)	趣旨	5
(2)	学識経験者	5
(3)	米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会	5
(4)	学識経験者による意見	7
4	事務の管理および執行状況の点検・評価	
(1)	施策の体系と事務事業一覧	13
(2)	点検および評価等の結果	21
	対象事業の評価一覧	23
	各事業の点検および評価等	
	教育総務課所管事業	25
	学校教育課所管事業	41
	学校給食課所管事業	56
	生涯学習課所管事業	59
	図書館所管事業	79
	スポーツ推進課所管事業	81
	子育て支援課所管事業	87
	保育幼稚園課所管事業	91
(3)	学校等の評価	93

認定こども園運営委員・幼稚園評議員による園評価・・・・・・・・	93
小・中学校運営協議会委員・学校評議員による学校評価・・・	108
図書館内部評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	132

1 点検および評価制度の概要

(1) 背景

平成 18 年 12 月の教育基本法の改正および平成 19 年 3 月の中央教育審議会の答申を踏まえ、平成 19 年 6 月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 126 号。以下「地教行法」という。）が改正され、平成 20 年 4 月に施行されました。

この地教行法の改正目的である、「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価（以下「点検および評価」という。）を行い、その結果を公表することが義務付けられました。

(2) 目的

教育委員会は、首長から独立した中立的・専門的な立場で、学校教育、生涯学習をはじめ文化、スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する合議制による行政機関として設置されています。点検および評価等は、教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、市民への説明責任を果たすことにより、市民の意向を踏まえながら、効果的・計画的な教育行政の推進に資することを目的とするものです。

なお、点検および評価の方法、議会への報告の方法などは、各自治体の教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

(3) 対象事業の考え方

本年度の点検および評価の対象は、令和 4 年度の事業実績を対象とし、その対象範囲は、地教行法第 21 条に基づく「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、市長の補助執行として行っている事務を含む全ての事務が対象となります。

事業のまとめ方については、「第 3 期米原市教育振興基本計画」の体系に基づく分類によりまとめることとしました。

(4) 評価の方法

評価の方法については、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 233 条第 5 項の規定に基づく、令和 4 年度における主要施策の成果説明書（以下「主要施策の成果説明書」という。）の主要な施策の実績の事業分類により、客観的な評価を行えるよう「第 3 期米原市教育振興基本計画」の目標指標など数値化された目標がある事業については数値化された達成状況を基に、数値化の難しい事業については事業の達成度を基に教育委員会事務局で自己点検および評価を行いました。

(5) 学識経験者の知見の活用

「教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書」の素案を基に、学識経験者と教育委員との懇話会を開催し、本市教育委員会の主な取組や課題について、様々な観点から議論しました。

『参考』

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」【抜粋】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況（期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（1）教育委員（委員定数：5人 任期：4年）

役 職	氏 名	任 期
教 育 長	馬 淵 均	R3.4.1～R5.8.13
教育長職務代理者	中 川 清 和	R3.3.28～R7.3.27
委 員	本 庄 通 子	H31.3.25～R5.3.24 R5.3.25～R9.3.24
委 員	膽 吹 照 子	R3.10.1～R7.9.30
委 員	法 戸 繁 利	R4.3.25～R8.3.24
委 員	井 口 英 知	R2.3.25～R6.3.24

（2）教育委員会の活動状況

（ア）教育委員会議の開催および議決状況

月 日 (定例・臨時の別)	議 決 事 項							協議 報告 事項 ほか
	条例	規則	訓令・ 要綱	委員等 任命・ 委嘱等	予算	後援等 名義使 用	その他	
令和4年4月22日(定例)		2				1	1	5
令和4年5月27日(定例)				2	2		1	3
令和4年6月24日(定例)				1		1		
令和4年7月25日(定例)						2	2	2
令和4年8月19日(定例)	1			1	1	1	1	2
令和4年9月28日(定例)			1	1		2		4
令和4年10月25日(定例)						2		4
令和4年11月18日(定例)					1	1	1	2
令和4年12月20日(定例)		2					1	3
令和5年1月23日(定例)				1		1		1
令和5年2月20日(定例)	1				2	1	2	1
令和5年3月3日(臨時)							1	
令和5年3月24日(定例)				4	2			4
合 計 (定例12回・臨時1回)	2	4	1	10	8	12	10	31

（イ）その他の活動状況

○学校園訪問（各小学校・中学校・幼稚園および認定こども園）

(ウ) 委員の就任状況

- ・米原市特別支援保育支援委員会
- ・米原市奨学金給付審査会
- ・米原市人権尊重のまちづくり審議会
- ・米原市民生委員推薦会
- ・青少年育成市民会議

3 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るために、米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会を開催し、意見交換を行い、2人の学識経験者から意見をいただきました。

(2) 学識経験者

- 大橋松行氏 滋賀県立大学名誉教授
- 高橋容子氏 彦根総合高等学校教育部長

(3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会

◆日 時 令和5年11月1日(水) 14時30分から17時00分まで

◆出席者：(学識経験者) 大橋松行氏、高橋容子氏

(教育委員) 中川清和委員、本庄通子委員、膽吹照子委員、法戸繁利委員、井口英知委員

(教育長) 馬淵均

(各所属長) 教育部長：口分田、学校教育課：北川、学校給食課：花部、生涯学習課：平山、山東図書館：梶川、スポーツ推進課：高木、子育て支援課：山田、保育幼稚園課：瀧上

(事務局) 教育総務課：梶田、中村

◆意見交換での主な意見

(全般)

- ・次年度の事業内容や予算において、懇話会での意見をしっかりと反映させるため、懇話会の開催時期の見直しを検討されてはどうか。
- ・小中学校や園では自己肯定感や自己有用感に着目した教育保育を進めているが、教育現場だけにとどまらず、生涯学習や芸術、スポーツ分野においてもこういった意識を高めていけるよう、各課の事業を通じて取組を具現化していくことが大切である。

(学校教育課)

- ・いじめ対策に関する事業について、事業実績に関しては教育委員会として実施した成果が記載されているが、成果指標に関しては、いじめについて児童がどう思うかの意識調査の結果が基準となっており、事業実績に対する評価基準として整合性が取れていないと感じる。評価基準をいじめ事案の報告件数や解決件数等、実態に即した数値として示した方が評価手法としては適しているのではないか。

- ・子どもサポート事業について、事業内容に不登校が密接に関わってくるため、成果指標として不登校児童生徒数の項目を再掲しても良いのではないかな。

(学校給食課)

- ・地場産品を使用する割合が県平均を大きく上回っているし、昨対比としても増加しており、素晴らしい成果が上がっている。
- ・学校給食費保護者負担金の未納額が前年度と比較し大幅に増加している。利用者の公平性も踏まえ、未納者に対しては厳しい対応をとっていくことが必要である。

(生涯学習課)

- ・芸術展覧会の審査員について、部門によっては1人で審査を行っているとのことであつたが、1人の審査で決定するのは適切ではないと感じる。少なくとも各部門2人以上で審査を行うのが望ましいのではないかな。

(図書館)

- ・子ども向けおたよりの作成等、情報発信において非常に力を入れてもらっている。引き続き、多くの人に図書館を利用してもらえよう工夫して取り組んでいってもらいたい。

(保育幼稚園課)

- ・山東幼稚園の閉園について、開園から20年で閉園となってしまうことは、非常に残念に思う。社会を取り巻く状況が変わっていく中で先の見通しを立てる事は大変難しいが、今後の施設利用についても、多くの市民にとって有意義な利用ができる施設となるよう考えていってもらいたい。

(4) 学識経験者の意見

滋賀県立大学名誉教授 大橋松行氏 の意見

米原市教育委員会の「令和4年度実施事業における教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等」について、以下に報告します。

本年度は「第3期米原市教育振興基本計画」の初年度の事業評価となります。昨年度までは対象事業を「米原市総合計画」の体系に基づく分類によってまとめられていましたが、本年度は「第3期米原市教育振興基本計画」の体系に基づく分類によりまとめられることになりました。対象事業の分類の変更に伴って、評価の方法も改められました（これについては、報告書のp.1、p.22に具体的に記載されています。）。「第3期米原市教育振興基本計画」の目標指標など数値化された目標がある事業については、数値化された達成状況を基に数値化が難しいか、あるいは数値化が適切でない事業については、事業の達成度を基に評価をすることになりました。これで、評価対象事業と評価方法との整合性が取れ、評価の客観性も高まったのではないかと思います。以下で、教育に関する事務の管理および執行の状況について具体的に意見を提示したいと思います。

まず、全般的には各主管課の事業評価において、全31事業中A評価が21、B評価が10、C評価が0となっています。評価基準が前年度と大きく異なっているため単純な比較はできませんが、全事業の3分の2以上がA評価となり、コロナ禍の制限緩和と相まって各主管課が事業内容に変更や工夫を加えて効果的に事業を実施されたことの結果が、このような高い評価となったと考えられます。

次に各主管課の事務事業について順次みていきます。最初に教育総務課です。8つの対象事業全てがA評価となりましたので、この点は非常に高く評価できます。個々の事務事業についてですが、まず小学校および中学校の施設整備事業では、毎年度、安心安全で快適な学習環境を確保するため、施設の改善や改修が適切に行われていることは高く評価できます。今後とも長寿命化計画に基づく改修工事や老朽化に伴う修繕などを計画的に進めていきたいと思います。「中学校教育振興事業」では、子どもが安心して中学校に入学し、学びや部活動など充実した学校生活が送れるよう、中学校入学支援金制度を新規に創設し、8割弱の生徒がその恩恵に浴することができたことは、特筆すべきことかと思います。次年度以降も必要とする生徒の多くが交付を受けられることを期待します。「事務局教育振興事業」の給付型奨学金制度について、令和4年度の給付者数は過去最高となりましたが、令和5年度は決定者数が大きく減少していますので、制度的見直しとともに、あらゆる機会を活用して制度の周知を行っていただきたいと思います。

第2に学校教育課です。本年度は7事業のうち5事業がA評価、2事業がB評価で、総じて高い評価がなされています。個別にみていきますと、「事務局教育振興事業」は、「取組ごとの評価」が12あり、うちC評価が5となっていますので、その改善が必要かと思われます。とりわけ「不登校に対する支援の充実」で不登校児童生徒数が小学校・中学校共に令

和4年度の目標値を大幅に上回っていますので、原因の解明と適切かつ効果的な対応が求められると思います。いじめ対策関係事業に関しては、「事業の実績」「事業の成果等」と「成果指標」との整合性が取れていないように思います。前者はいじめへの対応等について具体的に述べられていますが、後者は成果指標として意識調査の結果が使用されています。前者との整合性を取ろうとするならば、例えば、「いじめ事案報告件数」（事業の実績には記載されています）や「いじめ解決件数」といった成果指標に変更する方が適切であるように思います。「子どものサポート事業」ですが、「事業の成果等」の記述はほぼ昨年度と同じであるにもかかわらず、「取組ごとの評価」では昨年度は記載されていた「不登校児童生徒数」が本年度は削除されています。「事務局教育振興事業」に記載されてはいますが、ここでも成果指標の1つとして再掲しておくことが望ましいのではないかと思います。小学校および中学校の教育振興事業については、とりわけ学校経営予算制度が各学校の実情に応じた環境改善等に生かされていることは高く評価できます。ただ、担当課も指摘されていますが、校長の人事異動により事業の継続性に課題があるということであれば、人事異動後に改めて予算執行計画を提出していただくなどの措置を講ずることが必要かと思います。

第3に学校給食課です。「学校給食事業」では、食物アレルギーのある園児・児童・生徒に対してこれまでから適切な対応がなされ、アレルギーのある子どもに安全・安心で栄養バランスの取れた給食を提供しておられることに対しては高く評価できます。また、給食の食材については、地場産物の活用率が県の29.7%を大きく上回る39.6%であったことも担当課の努力の結果によるものと高く評価したいと思います。学校給食保護者等負担金徴収については、高い収納率を上げておられることは担当課の御尽力による成果と認められますが、未納者の中に特段生活に窮しているわけではなく、元々全く納入する意思のない未納者がおられた場合には、公平性の観点からも厳しく対処していただく必要があるのではないかと思います。

第4に生涯学習課です。事業評価はA評価4、B評価5となっており、コロナ後の制限緩和に伴って全般に回復傾向にあり、大変喜ばしいことだと思います。特に「市民交流プラザ管理運営事業」では、貸館事業においてはベルホール310およびスタジオとも令和3年度を下回っていますが、自主事業においては満席公演が2公演あり、入場料収入も令和3年度を大幅に上回っており、高く評価できるのではないかと思います。また、「次代を担う青少年育成事業」では、二十歳のつどいを2部制の分散開催で実施することによって、県内で一番の参加率となったことは大変喜ばしいことです。ただ、「図書館管理運営事業」では、「事業の実績」欄に令和3年度まで記載されていた「利用者数」の記載がありませんでした。この項目は重要な指標にもなり得るものであると考えられますので、記載する方向で御一考いただければと思います。

最後にスポーツ推進課、子育て支援課、保育幼稚園課です。スポーツ推進課の「体育施設管理運営事業」では、指定管理者が管理運営している全ての社会体育施設で、施設の利用者数が令和3年度を上回り、回復傾向にあることは喜ばしいことです。「スポーツ推進事業」

では、登山道の荒廃により 36 年間続いた「夢高原かつとび伊吹」が、ファイナル大会となったことは残念なことです。子育て支援課の「次代を担う青少年育成事業」ですが、「取組ごとの評価」の 2 つの事業で C 評価がついています。これらはコロナ禍の影響で事業を中止、あるいは制限せざるを得なかったことの結果であることを鑑みますと、やむを得ないと思います。「少年センター事業」では、教育センター事業で扱っている「ヤングケアラーの把握・支援」の取組が記述されていません。この件については今日的課題でもあり、学校教育との緊密な連携が求められると思いますので、御一考をお願いしたいと思います。保育幼稚園課の「幼稚園管理運営事業」ですが、園児数の減少等が課題となっていた山東幼稚園が令和 7 年 3 月末をもって公立幼稚園としての役割を終え、閉園するに至ったことは残念なことです、これも時代の流れと受け止めざるを得ないと思います。

以上、全般的な事業評価および各主管課の主たる事務事業について意見を付してきました。令和 4 年度の米原市教育委員会は、長引くコロナ禍にあって感染症対策を講じながらも創意工夫を施し、多くの事業を実施されました。事業によっては多少の課題が存在するものの、概ね十全に機能していると判断いたします。今後とも、市長部局と教育委員会が緊密に意思疎通を図り、連携して効率的で効果的な教育行政を推進するとともに、市民の声に十分耳を傾け、それらを施策に反映させていただくことを期待します。

彦根総合高等学校教育部長 高橋容子氏 の意見

米原市教育委員会の令和4年度実施事業における教育行政の点検評価に関しまして、以下に報告いたします。

令和4年度におきましてもコロナ禍が継続されている中、第3期米原市教育振興基本計画に基づき教育に関わる事業を幅広く取り組んでいただけたことにお礼を申し上げます。

コロナ禍以前より人との関りが希薄化し“話す・聞く・触れる・考える・感じる”等、“人やモノ、人と人”が関わる機会がみるみる減少していき、コミュニケーション力や地域との繋がり等に大きな影響を及ぼしていきました。そこに追い打ちを掛けるコロナ禍に突入し、社会や地域と孤立し、閉鎖感や孤独感を味わったり、または家庭内での虐待や貧困家庭が増加したり等、家庭生活や学校生活をはじめ社会のあらゆる場面で心を痛めたり、我慢をしたり閉ざされた空間の中で日々暮らしてきました。しかし、制限のある中においても視野を広げ角度を変えて見たり、聞いたり、触れてみることで温もりある声掛けや、人と人の会話や笑顔が繋がる楽しさ、あるいは困り感等プラス面やマイナス面等いろいろなことを感じて学びを繰り返していくことが“生きる力”に繋がっていくと考えます。そして、その中で“人やモノ”との出会いをきっかけに心が癒されたり笑顔が増したり、人の痛みに寄り添い励まし合い、心と心、人と人が行き交い合える教育現場であってほしいと願います。“人とモノ”との関りは教育に直結していきます。教育環境は人を育て、学びを深め教育の輪を広げていくと考えます。

31 事業と園学校等の評価の取組より感じた点につきまして、意見を述べさせていただきます。

令和4年度の事業管理および執行状況の点検・評価におきまして、施策および施策の方向により、基本目標1～5に明確に打ち出されおり、とても読み取りやすく、各事業における目標に応じた取組が計画されていたことにつきまして、高く評価します。

教育総務課の事業につきましては、園や学校設備環境の充実に力を入れられ、修繕や改修に力を注いでくださる中でも、ICT化が進む現在社会にマッチしたデジタル基礎整備に費やしてくださることで、米原市の子どもの未来に繋ぐ教育に直結していると考えます。

義務教育を終えた後の進学や就職にも引き続き生かされていきますので、今後も積極的な取組に期待しております。

教育総務課の事業は管理運営、施設設備の事業が主で形や物品として事業の実績に残るので、全てがA評価となりました。今後も幼児、児童、生徒が安心安全で快適な学習環境整備に努めていただきたいと願います。

基本目標1 「心豊かで、たくましく、しなやかに生きる力を育む教育」の事業につきましては、明確な数値が出しにくい事業であると考えます。

(1)就学前の教育・保育の充実の項目の就学前教育と小学校教育との円滑な接続と連携の推進におきまして、指標名が、認定こども園等と小学校が連携を行った最小回数と記載さ

れておりますが、事業番号 31 の目的内容や実績、成果、評価として記載されているのは連携の取組ではなく、山東幼稚園に関わるもののみの記載であり、総合評価が A になっている点と、(2) 確かな学力の向上の項目の小学校教育と中学校教育との連携の推進に関わる事業番号 9、10 につきましても、指標名に小、中学校の連携についてと記載されていますが、認定こども園と小学校の連携と同様、連携については何も記載されておられません。5 ページで紹介されてある内容との整合性を明確にすることが大事であると思います。保・幼・こども園と小学校、小・中学校の滑らかな接続は、互いの教員が子どもの育ちについて学び合う場であり、子ども達の学びの節目にあたる大事な取組であることと、指標に取組の回数と記載されていますが、回数が目的ではなく連携内容の取組や互惠性や教員同士の理解と学びが重要でありますので、成果指標の見直しも大事ではないかと考えます。

基本目標 2～5 における事業におきましても、実施回数や実施校数での総合評価は事業の全ての評価とは言えないものがありますので、取組の実態より考察や課題を基に、内容や環境、取組方法等につきまして検討をされ、次年度に繋いでいっていただきたいと思います。

園、学校等の評価におきましては、多くの方々からの御意見をいただきました。各園、小学校、中学校が保育、教育課程に基づき地域の特性を生かしながら目標を掲げ、園長、校長のリーダーシップの下、全教員が一丸となり園児、児童、生徒の個性を引き出しながら、日々取り組んでいくことに高い評価をいたします。今年度の内容におきましては、地域との繋がりを求めてくださる御意見や、園や学校への協力体制に力を注いでいこうと考えてくださる御意見より、地域と学校教育との協力体制の見直しが必要になってくるのではないかと考えます。挨拶運動もその 1 つです。元気に挨拶のできる子ども、タイミングが合わなかったり思いを伝えにくかったりする子ども、頷くだけの子ども等々、個々によって様々な子どもがいることを周りの人たちが理解した上での挨拶運動が大事になってきます。評価の中に、朝から気分が波があり時には無愛想な先生がいる、子どもに見せたくない」と記載されていた点はとても残念です。教員は常に子どもの手本となる言動に心掛けていただきたいと願います。特に幼児教育に関わる教員は、園生活において子ども達の親代わりであり、心を許して関わっていける人でありますので、信頼関係を築きながら子どもや保育に向き合っていただきたいと思います。

基本目標 4 「生涯にわたって豊かに学びあい、いきいきと活動が続けられる環境をつくれます」の施策の方向性は、子どもから高齢者までが人と関り自分磨きをしていける場であると考えます。人は幸せになるために世に誕生してきます。しかしながら、様々な環境の中で心を痛めたり傷付けられたり、疎外されたり等の現状を耳にすることがあります。積み重ねた研修より得たものを実践に繋いでいただくとともに、教員の資質向上を目指す学びの場となる研修の設定を今後も期待いたします。

(4) における子どもの読書環境設備・充実につきましては、通信機器や I C T 化の普及により読書に関心の薄い子ども・児童・生徒そして、大人が増してきていますのが現状です。また、幼児期や学童期におきまして、家庭では玩具やゲーム等子どもの要求に応じて購入を

されますが、親自ら本を購入したり、子どもに買い与えたりする機会は減少してきています。各園、学校では読書の機会を設けて取組が実施されています。本にじっくり向き合う時間と場の提供は、読書に関心が持てるきっかけとなっていくと思います。各園、学校、地域の環境の中で本との出会いの場の機会を更に広げていただき、感じる心、豊かな心、穏やかな心を育んでいってほしいと願います。

基本目標 5 「米原の自然・歴史・文化の保存・活用を進め、地域文化を育む」につきましては、米原市の地域資源や自然を生かした取組に大きな期待をしています。米原市ならではの文化財保護や地域の貴重な文化と、歴史を引き継ぐための維持管理や運営等に評価をいたします。文化や歴史は引き継がれていくことで、人の心に感動が残り良さや歴史の意味を学び次の世代に伝授すると同時に、新たな歴史も作られより幅が広がっていくことと思います。

事業番号 20 「文化のまちづくり事業」につきましては、例年開催され多方面から多種多様な芸術作品が出品されております。米原市におきましては、他市とは異なり市内外から応募者を募っておられ、全国の方々が応募できることは大変素晴らしい展覧会であると思います。全国からの作品が出品できることにも関わらず、出品数が年々横ばいであることには原因があるように思います。その1つに各部門における審査員が3つの部門で1人ずつ、絵画部門においてのみ3人であることを伺い、審査方法に偏りがあるのではないかと考えます。例えば出品作品数が少数でも、1人の方の審査で決定するのは的確ではないように感じます。1つの部門におきまして、複数の目で審査をしていただくことが大事であると考えます。少なくとも専門分野が異なる2人以上の審査員が必要です。また、総評におきましても市民や出品者の目に留まります。疑惑をもたれないような表現でなければなりません。審査員の決定や審査状況や総評内容におきまして関係者だけに任せないで、事業の担当者の方も含めて進めていただけると、気持ちの良い芸術展覧会になると同時に、出品数の増加にも繋がっていくのではないかと考えます。

芸術には答えがありません。答えがないだけに楽しく豊かな個性ある表現に挑戦していくことができます。そして、偉大なる可能性を引き出したり見る人の心を揺るがせたりして心地よさを味わうことができる素晴らしい場であります米原市の芸術展覧会が、今後益々発展していけますよう願っております。

4 事務の管理および執行状況の点検・評価

(1) 第3期米原市教育振興基本計画における政策施策の体系と事務事業一覧

基本目標 1 心豊かで、たくましく、しなやかに生きる力を育む教育を実現します

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1) 就学前の教育・保育の充実			
○子育て支援の充実	市民意識調査の「子育て・子育て支援の充実」についての満足度 市民意識調査の「米原市を子育てしやすいまちだ」と思う市民の割合	保育幼稚園課	31. 幼稚園管理運営事業
○子育て支援の充実	地域子育て支援センター利用者アンケートによる満足度	(保育幼稚園課) (子育て支援課)	(子ども・子育て支援事業)
○就学前教育・保育の量と質の充実	就学前施設の待機児童数	(保育幼稚園課)	(保育所・認定こども園管理運営事業)
○就学前教育と小学校教育との円滑な接続と連携の推進	認定こども園等と小学校が連携を行った最小回数	保育幼稚園課	31. 幼稚園管理運営事業
(2) 確かな学力の向上			
○基礎学力の向上 ○主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくり	全国学力・学習状況調査の国語科、算数科、数学科における正答率と回答率	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
○外国語教育・国際理解教育の推進	全国学力・学習状況調査の「5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」児童割合 (小学校) 全国学力・学習状況調査の「1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」生徒の割合 (中学校)	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
○子どもの読書活動の推進	1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合	生涯学習課	26. 図書館管理運営事業
○教育情報化の推進	全国学力・学習状況調査「学校でICT機器を友達との意見交換や調べることにほぼ毎日使用している」児童生徒の割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
○小学校教育と中学校教育との連携の推進	小学校と中学校が小中連携を行った最小回数	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(3)豊かな心の育成			
○道徳教育の推進 ○人権教育の推進	全国学力・学習状況調査「自分にはよいところがあると思う」児童生徒の割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
○キャリア教育の推進	全国学力・学習状況調査「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合	学校教育課	15. 中学校教育振興事業
○情報モラル教育の推進	全国学力・学習状況調査「スマートフォン等の使い方について、家族との約束を守っている」児童生徒の割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
○地域における学校園間・世代間交流の推進	地域学校協働活動ボランティア登録数	学校教育課	9. 事務局教育振興事業
○子ども等への暴力防止の推進	児童虐待防止に関する研修実施率	(子育て支援課)	(子ども家庭相談支援事業)
(4)健やかな体の育成			
○学校における体育指導等の充実	全国体力・運動能力調査「子ども(小学5年生)の体力・運動能力テスト」の体力合計点	学校教育課	9. 事務局教育振興事業
	全国体力・運動能力調査「子ども(中学2年生)の体力・運動能力テスト」の体力合計点		
○健康教育の推進	健康教育のため、小中学校で実施した出前講座の実施校数	(健康づくり課)	-
○基本的生活習慣の形成	全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べている」児童生徒の割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
○食育の推進	栄養教諭による食育の指導回数	学校給食課	16. 学校給食事業
○安全・安心な給食の提供	学校給食に地場産物を使用する割合(食材数ベース)	学校給食課	16. 学校給食事業
(5)地域の良さを生かした特色ある教育の推進			
○米原の自然・歴史を学ぶ機会の充実	伊吹山に登ろう・ふるさとを描こうのほか、ふるさと親子俳句事業を実施した学校の割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業
○環境学習の推進	学校給食に地場産物を使用する割合(食材数ベース)【再掲】	学校給食課	16. 学校給食事業
	伊吹山等における自然観察会の実施回数	(自治環境課)	-
○地域人材の活用 ○ふるさとを愛し、誇りに思う心の育成	全国学力・学習状況調査「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」児童生徒の割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業

基本目標 2 学校・家庭・地域がつながり、協働して地域全体の教育力を高め、ふるさとを愛する人を育てます

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1)子育て支援と家庭の教育力の向上			
○家庭の教育力向上の支援 ○家庭支援推進保育事業の推進 ○親子のつながり・親子活動の充実	子育てをテーマにした講演会の参加者数	子育て支援課	29. 次代を担う青少年育成事業
○PTA連絡協議会活動の充実	PTA連絡協議会の広報発行回数	子育て支援課	29. 次代を担う青少年育成事業
○要保護児童対策地域協議会活動の活性化	児童虐待防止のため、伊吹山TVによる周知回数	(子育て支援課)	(子ども家庭相談支援事業)
○インターネット・ゲーム・スマートフォン等の適切な利用の推進	全国学力・学習状況調査「スマートフォン等の使い方について、家族との約束を守っている」児童生徒の割合【再掲】	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
(2)子どもの育ちを支える家庭・地域づくり			
○社会活動・体験活動等を通じた交流機会の充実 ○学校園と地域団体等の連携	全国学力・学習状況調査「地域の行事に参加している」児童生徒の割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業
○地域における子育て支援活動・体験活動の充実	冒険遊び場の設置数	(子育て支援課)	(地域の子育て支援事業)
(3) 子どもや青少年の健全育成			
○放課後等の子どもの居場所づくり	放課後児童クラブの待機児童数(年間利用者分)	(子育て支援課)	(子ども・子育て支援事業)
○子ども会活動の充実	子ども会活動への参加者数	子育て支援課	29. 次代を担う青少年育成事業
○ヤングケアラーの把握・支援	貧困等に関する教職員への研修実施回数	学校教育課	10. 教育センター事業
○青少年の健全育成の推進	あいさつ運動実施率	子育て支援課	29. 次代を担う青少年育成事業
○子ども・若者支援地域協議会活動の推進	若者自立ルームあおぞらにおける就労または就労体験件数	(子育て支援課)	(子ども若者自立支援事業)

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(4) 学校支援活動や地域活動の推進			
○コミュニティ・スクールの推進 ○子どもの地域活動を支える担い手の確保	地域学校協働活動ボランティア登録数【再掲】	学校教育課	9. 事務局教育振興事業
○学校支援ボランティアの拡充	まなびサポーター登録者数	生涯学習課	17. 社会教育総務事業
○ジュニアリーダーの育成	ジュニアリーダー育成事業実施回数	子育て支援課	29. 次代を担う青少年育成事業
(5) 地域との協働による学校園づくり			
○信頼される学校園づくりの推進 ○地域連携に向けた学校園の環境・体制の充実	学校運営協議会委員年間活動平均回数	学校教育課	12. 小学校管理運営事業 14. 中学校管理運営事業

基本目標 3 一人一人が大切にされ、安全・安心で質の高い教育が受けられる環境をつくります

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1) 一人一人の特性に応じた教育の推進			
○学校園における発達障がいのある子どもへの支援 ○特別支援教育の充実 ○就学前の特別支援保育の充実	教員、保育者が出席する特別支援教育等に関する研修回数	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
○子どもケアサポーターの派遣	子どもケアサポーター派遣人数	学校教育課	11. 子どもサポート事業
○日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の支援	日本語指導が必要な、児童生徒に対する特別指導の実施割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業
○性的マイノリティの児童生徒の支援	性的マイノリティの課題を含む人権研修の実施回数	学校教育課	10. 教育センター事業
○乳幼児等を対象にした児童通所支援サービスの充実	児童発達支援事業の親子通園開設日数	(社会福祉課)	-
○新たな教育モデルについての研究	「子どもたちが自分でつかむ自分の未来」を実現するための研究および実績校数	学校教育課	10. 教育センター事業
○療育ネットワークの充実	発達障がいに関する研修会の参加人数	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(2)教育相談・教育支援の充実と学校支援体制の構築			
○就学指導・相談の充実 ○不登校・非行等に対する支援の充実	不登校児童生徒数	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 11. 子どもサポート事業
○児童虐待に対する支援の充実	児童虐待防止のため、伊吹山TVによる周知回数【再掲】	(子育て支援課)	(子ども家庭相談支援事業)
○学校支援専門職員の配置 ○いじめの防止等の取組	全国学力・学習状況調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」児童生徒の割合(小学校・中学校)	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
○就学・進学のための経済的支援	新たに給付型奨学金の支給を受けた者	教育総務課	2. 事務局教育振興事業
○子どもの貧困対策	生活・学習支援(ほたる一む)の実施件数	(子育て支援課)	(母子・父子家庭支援事業)
	貧困等に関する教職員への研修実施回数【再掲】	学校教育課	10. 教育センター事業
(3)安全・安心な教育環境の整備			
○子どもの安全の確保	子ども110番のおうち設置数	子育て支援課	29. 次代を担う青少年育成事業
	子ども110番のくるま設置数		
○通学等の安全確保	スクールガード登録者数	学校教育課	9. 事務局教育振興事業
○就学前教育・保育施設、学校教育施設の整備・改修	市民意識調査の「教育内容、施設の充実」の満足度	教育総務課	5. 小学校施設整備事業 8. 中学校施設整備事業
○給食施設の適正な維持管理	給食センターの稼働率	学校給食課	16. 学校給食事業
○学習環境における感染症対策の実施	常時、必要な感染症対策を実施している校園の割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業
(4)適切な教育環境の整備			
○通学区域の弾力的な対応 ○適切な教育環境の取組 ○指導内容に対応した教材、備品の配備	市民意識調査の「教育内容、施設の充実」の満足度【再掲】	教育総務課	1. 事務局総務事業 3. 小学校管理運営事業 4. 小学校教育振興事業 6. 中学校管理運営事業 7. 中学校教育振興事業
(5)質の高い教育の推進			
○教員・保育者の指導力の向上 ○教員・保育者の研究・研修の充実 ○新しい教育課題への対応	教育センター開講講座・研修会の延べ受講人数	学校教育課	10. 教育センター事業
○教員・保育者の働き方改革の推進	1か月の超過勤務時間が45時間を超える教職員の割合	学校教育課	9. 事務局教育振興事業

基本目標 4 生涯にわたって豊かに学びあい、いきいきと活動が続けられる環境をつくります

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1)生涯学び続けられる機会の充実			
○生涯学習講座の開催 ○ルッチまちづくり大学の活用 ○生涯学習情報の発信	市民意識調査の「生涯学習の推進」の満足度	生涯学習課	17. 社会教育総務事業 19. 地域人材育成事業 22. 学びあいステーション管理運営事業
○市民相互の学びの場の提供	学びあいステーションの講座受講者がサークル化した団体数	生涯学習課	22. 学びあいステーション管理運営事業
(2)多様性の理解および人権文化の確立			
○人権教育・人権啓発の推進	ハートフル・フォーラムの実施率	生涯学習課	18. 人権教育推進事業
○人権教育の担い手の育成	地域人権リーダー研修会の参加者数	生涯学習課	18. 人権教育推進事業
○人権に関する情報提供	各種啓発週間・月間における情報提供回数	(人権政策課)	-
○多文化共生の推進	外国籍市民の日本語教室への参加延べ人数	(人権政策課)	-
○男女共同参画の推進	市の審議会等における女性委員の登用(割合)	(人権政策課)	-
○いじめの防止等の取組(再掲)	全国学力・学習状況調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」児童生徒の割合(小学校・中学校)【再掲】	学校教育課	9. 事務局教育振興事業 10. 教育センター事業
(3)地域で活躍する人材の育成			
○まちづくりの担い手の育成 ○学習成果を生かす仕組みづくり	まなびサポーター登録者数【再掲】	生涯学習課	17. 社会教育総務事業
○学習活動とまちづくり活動のマッチング	生涯学習まちづくり出前講座年間実施回数	生涯学習課	17. 社会教育総務事業
○地域における男女共同参画社会づくりの推進	市の審議会等における女性委員の登用(割合)【再掲】	(人権政策課)	-
○各分野における指導者や支援人材の確保	スポーツボランティア参加者数	スポーツ推進課	28. スポーツ推進事業
(4)読書を通じた学びの機会の提供			
○子どもの読書環境の整備・充実	15歳以下の市民一人当たり図書館貸出冊数	生涯学習課	26. 図書館管理運営事業
○図書館利用の促進	市民一人当たり図書館貸出冊数	生涯学習課	26. 図書館管理運営事業
	図書館のレファレンス満足度		

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(5)生涯スポーツの振興			
○スポーツ少年団・総合型 地域スポーツクラブ・学 校部活動の連携	休日における学校部活動の地域活 動への移行部活動数	学校教育課	15. 中学校教育振興事業
○(仮称)米原市スポーツ推 進連絡協議会の設立	(仮称)米原市スポーツ推進連絡協 議会の設立	スポーツ推進課	28. スポーツ推進事業
○競技スポーツの振興	オリンピック・パラリンピックの 強化選手数	スポーツ推進課	28. スポーツ推進事業
○特色を生かしたスポーツ の推進	スポーツボランティア参加者数 【再掲】	スポーツ推進課	28. スポーツ推進事業
	ホッケー競技人口		
○地域スポーツの振興	地域スポーツクラブ会員数(延べ人 数)	スポーツ推進課	28. スポーツ推進事業
○スポーツ活動等への支援	スポーツ協会加盟人数	スポーツ推進課	28. スポーツ推進事業
○自然環境を生かしたスポ ーツの推進	自然を生かしたスポーツ教室の実 施回数	スポーツ推進課	28. スポーツ推進事業
○健康づくりの推進	3歳6か月健康診査時の調査にお いて、1時間以上外遊びをしてい る子どもの割合	(健康づくり課)	-
	20歳～64歳で1日30分以上の運 動を週2回以上、1年以上してい る人の割合(男女別)		
(6)生涯学習施設やスポーツ施設の整備・活用			
○社会教育施設の適正な維 持管理 ○スポーツ施設の整備・活 用 ○国民スポーツ大会滋賀県 開催に向けた環境整備	米原市市民意識調査「スポーツの 推進」の満足度	スポーツ推進課	27. 体育施設管理運営事業

基本目標 5 米原の自然・歴史・文化の保存・活用を進め、地域文化を育みます

施策および施策の方向	指標名	担当課	事業名
(1) 自然環境保全意識の醸成			
○地域資源を生かした学習機 会の創出	市民意識調査の「自然環境の保 全」の満足度	(自治環境課)	-
	伊吹山に登ろう事業実施率	学校教育課	9. 事務局教育振興事業
	伊吹山等における自然観察会【再 掲】	(自治環境課)	-
○食育を通じた自然環境保全 意識の向上	給食センターにおける収穫体験実 施校数	学校給食課	16. 学校給食事業
(2) 市民の文化・芸術活動の促進			
○文化のまちづくりの推進	芸術展覧会への市民作品出展数	生涯学習課	20. 文化のまちづくり事業
○文化施設の運営と利用促進	文化協会事業への参加団体数	生涯学習課	20. 文化のまちづくり事業
○地域文化の担い手の育成 ○文化協会の組織強化の推進	文化協会加盟団体数	生涯学習課	20. 文化のまちづくり事業
(3) 歴史・文化財の保全活動と学習機会の充実			
○歴史文化遺産の保存・継 承と活用	文化財等保存・伝承活動団体数	生涯学習課	24. 文化財保護事業
○埋蔵文化財の発掘調査・ 未指定文化財の調査の実 施 ○文化財保存活動の充実	市民意識調査の「歴史・文化の継 承と活用」の満足度	生涯学習課	24. 文化財保護事業
○歴史・文化の魅力発信	歴史講座受講者数	生涯学習課	24. 文化財保護事業
○資料館・歴史館の管理・ 運営	歴史イベント開催回数	生涯学習課	25. 文化財施設管理運営事業

(2) 点検および評価等の結果

主要施策の成果説明書の事業に基づき、教育委員会に関連する事務を 31 に分類し、事業ごとに点検および評価を行いました。

○事業評価資料の各項目概要

事業名	令和4年度主要事業説明書に記載した事業区分としました。
主管課	令和5年4月1日現在の事業主管部課名で表記しました。
予算額	決算時の予算額(当初予算に補正予算と前年度からの繰越額を加減した総額)を表記しました。 下段には、前年度からの繰越額を再掲しました。
決算額	事業に要した経費の合計額を表記しました。 下段には、前年度からの繰越額を再掲しました。
執行率	決算額を予算額で除した数値を百分率で表記しました。 ①80%以下の事業については、その理由を表記しました。
増減率	当年度決算額を前年度決算額で除し、1(100%)を引いた数値を百分率で表記しました。 ②50%以上の増減がある事業については、その理由を表記しました。
財源内訳	決算額の財源内訳を表記しました。 その他については、内訳を表記しました。
事業コスト	決算額を年度末の人口(37,593人)で除し、市民1人当たりのコストを掲載しました。その他参考となる測定指標がある場合は、その下欄に表記しました。
人件費	一般会計については、事業主管課における各事業の従事職員数を「〇.〇〇人役」で表し、当該職員数に令和4年度決算における平均人件費を乗じることで算出しました(令和4年度平均人件費:6,949千円)。
事業の実績	主な事業の実績を数値で示すなど具体的に記載しています。 事業の経費については、主な事業の経費を記載しているため、決算額と同額にならないことがあります。

成 果 指 標	評価を実施するに当たり、第3期米原市教育振興基本計画に目標指標の設定があり、明確な数値目標がある場合は、評価の基となる成果指標と目標達成率を記載しています。
評 価	<p>①まずは主な取組ごとに分けて以下のとおり評価を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3期米原市教育振興基本計画に目標指標の設定があり、明確な数値目標がある場合、成果指標の目標達成率に応じ評価を行いました。 ・明確な数値目標がない場合や、数値による評価が難しい場合は、事業の達成度合いに応じて評価を行いました。 <p>②取組ごとの評価ランクを点数化した上で事業全体の平均点を算出し、平均点に応じて事業全体の総合評価を3段階ランクで評価しました。</p>

【評価ランク】

①取組ごとの評価

評価	数値で評価する場合	点数
A	目標達成率 80%以上～100%超	3点
B	目標達成率 60%以上～80%未満	2点
C	目標達成率 60%未満	1点

評価	数値での評価が難しい場合	点数
A	具体的な施策を通して、基本目標が達成できた。	3点
B	概ね達成できたが、課題が残った。	2点
C	基本目標が達成できなかった。	1点

②事業の総合評価

総合評価	評価基準
A	平均点が3点以上(端数の場合は四捨五入して3点)
B	平均点が2点以上(端数の場合は四捨五入して2点)
C	平均点が1点以下(端数の場合は四捨五入して1点)

【対象事業の評価一覧】

対象事業の評価結果は以下のとおりとなりました。

番 号	事 務 事 業 名	評 価	主 管 課
1	事務局総務事業	A	教育総務課
2	事務局教育振興事業	A	〃
3	小学校管理運営事業	A	〃
4	小学校教育振興事業	A	〃
5	小学校施設整備事業	A	〃
6	中学校管理運営事業	A	〃
7	中学校教育振興事業	A	〃
8	中学校施設整備事業	A	〃
9	事務局教育振興事業	B	学校教育課
10	教育センター事業	A	〃
11	子どもサポート事業	A	〃
12	小学校管理運営事業	A	〃
13	小学校教育振興事業	A	〃
14	中学校管理運営事業	A	〃
15	中学校教育振興事業	B	〃
16	学校給食事業	A	学校給食課
17	社会教育総務事業	B	生涯学習課
18	人権教育推進事業	B	〃
19	地域人材育成事業	A	〃
20	文化のまちづくり事業	B	〃
21	市民交流プラザ管理運営事業	A	〃
22	学びあいステーション管理運営事業	B	〃
23	次代を担う青少年育成事業	A	〃
24	文化財保護事業	A	〃
25	文化財施設管理運営事業	B	〃
26	図書館管理運営事業	B	図 書 館
27	体育施設管理運営事業	A	スポーツ推進課
28	スポーツ推進事業	B	〃
29	次代を担う青少年育成事業	B	子育て支援課

3 0	少年センター事業	A	〃
3 1	幼稚園管理運営事業	A	保育幼稚園課

【課別対象事業評価集計表】

主 管 課 名	A	B	C	対象事業数
教育総務課	8	0	0	8
学校教育課	5	2	0	7
学校給食課	1	0	0	1
生涯学習課	4	5	0	9
図 書 館	0	1	0	1
スポーツ推進課	1	1	0	2
子育て支援課	1	1	0	2
保育幼稚園課	1	0	0	1
計	2 1	1 0	0	3 1

事業番号		1			
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	2 事務局費
決算書		134 ~ 135 ページ			
事業名		事務局総務事業			主管課
					教育部 教育総務課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	2,829,000	3,954,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	87,000	96,000
決算額	2,570,744	3,476,683	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0
執行率(%) / 増減率(%)	90.9 ▲ 26.1	87.9	一般財源	2,483,744	3,380,683
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
事業コスト		事業費	人件費(0.40 人 役)	計	
決 算 額		2,571 千円	2,780 千円	5,351 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		68 円	74 円	142 円	
事業の目的および内容					
第3期教育振興基本計画に基づき、更なる教育施策の推進に努めます。					
事業の実績					
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、令和3年度の教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価等を行い、報告書を公表しました。					
【点検、評価の目的】					
教育委員会は、首長から独立した中立的かつ専門的な立場で、学校教育、生涯学習、文化・スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する行政機関として設置しています。教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、効果的かつ計画的な教育行政の推進に資することを目的としています。					
【点検、評価の方法】					
令和3年度における主要施策の成果説明書の事業分類により、外部評価者2人と教育委員会で自己点検および評価を行いました。なお、評価に当たっては外部評価者の意見を基に、今回から評価基準を見直しています。					
【教育事務事業の評価】 計 31 (32) 事業					
評 価 ラ ン ク			対象事業数		
A	期待以上に達成できた	・ 目標達成率 100%超 ・ 当該年度の当該計画以上に成果が上げられた。 ・ 当初計画以上に早く事業が完了した。	3 (2)		
B	期待どおり	・ 目標達成率 80%~100% ・ 初期の目的を達成できた。	21 (10)		
C	おおむね期待どおり	・ 目標達成率 60%~80%未満 ・ おおむね計画どおり事業を実施でき、おおむね期待どおりの成果があった。	7 (20)		
D	やや不十分である	・ 目標達成率 40%~60%未満 ・ 事業は実施できたが、成果についてはやや課題が残った。	0 (0)		
E	不十分である	・ 目標達成率 40%未満 ・ 当該年度の計画が実施できなかった。	0 (0)		
※ () 内は前年度数値					

事業の成果等

学校の施設整備のほか、各ソフト事業については、新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあった中で、感染防止対策を講じ内容変更や工夫により効果的に事業を実施する機会を確保できていたことについて、高い評価をいただきました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
教育事務事業の評価	-	-	-	-	A
学校施設整備	-	-	-	-	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価



評価の理由	総合評価
教育事務事業の評価については、全ての事業が評価ランク「おおむね期待通り」以上の評価となったことから、学校施設整備についても感染症対策に関する取組において高い評価を得たことから、A評価としました。	A

③事業の課題と今後の取組

教育事務事業の評価については、評価の客観性を更に高めるため、常に評価方法のブラッシュアップが必要と考えられます。

事業番号		2									
款	10 教育費		項	1 教育総務費		目	3 教育振興費		決算書	134 ～ 139 ページ	
事業名		事務局教育振興事業							主管課	教育部 教育総務課	
事業費(円)		令和4年度		令和3年度		財源内訳(円)		令和4年度	令和3年度		
予算額		68,763,000		74,614,000		国 費		0	10,710,000		
うち繰越		0		0		県 費		0	0		
決算額		63,552,297		71,718,169		市 債		0	0		
うち繰越		0		0		そ の 他		0	0		
執行率(%) / 増減率(%)		92.4	▲ 11.4	96.1			一般財源	63,552,297	61,008,169		
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)					その他の内訳(令和4年度)						
事業コスト			事業費		人件費(1.15 人 役)			計			
決 算 額			63,552 千円		7,991 千円			71,543 千円			
市民1人当たり (37,593 人)			1,691 円		213 円			1,904 円			
児童・生徒1人当たり (3,077 人)			20,654 円		2,597 円			23,251 円			
事業の目的および内容											
(1) 子どもたちが総合的な学習を通じ、幅広い体験ができるよう、各学校の校外活動の充実や学校間の交流促進のため、バスを運行します。											
(2) 徒歩通学が困難な児童のため、路線バスなどによる通学児童の支援を行い、通学環境の充実を図ります。											
(3) 給付型奨学金制度により、修学上必要な学資金の給付を行うことで、将来を担う人材の育成および市への定住を促進します。											
事業の実績 ※小学校児童数 2,052人、中学校生徒数 1,025人 (令和4年5月1日現在…学校基本調査基準日)											
(1) スクールバス5台(伊吹地域3台、山東小学校および河南小学校各1台)を通学および校外活動等のために運行しました。また、バス事業者へ委託し学校支援バスを運行しました。 スクールバス運行管理経費(燃料費、運転手給料等) 14,549,604 円 校外活動バス借上料(延べ74台) 3,485,053 円											
(2) 安全な通学環境を確保するため、路線バスおよびまいちゃん号で通学する児童への助成を行いました。(70人) 柏原小：23人 山東小：2人 米原小：15人 3,586,700 円 息長小：27人 河南小：3人											
(3) 将来を担う人材の育成および市への定住促進を図るため、令和4年度分の奨学金の給付を行いました。また、令和5年度分の奨学生を募集し、審査を行いました。											
年度	決定者数 A+B+C+D	廃止者数 A	停止中 B	令和4年度		給付 終了者数 D	定住者 数 E	定住率 E/D			
				給付者数 C	給付額						
平成30年度分	29人	0人	0人	—	給付終了	29人	26人	89.7%			
令和元年度分	26人	1人	0人	15人	5,400,000円	11人	10人	90.9%			
令和2年度分	32人	1人	0人	21人	7,380,000円	10人	8人	80.0%			
令和3年度分	40人	2人	1人	37人	13,500,000円	—	—	—			
令和4年度分	47人	4人	0人	43人	15,570,000円	—	—	—			
令和5年度分	33人	—	0人	—	—	—	—	—			
合計	207人	8人	1人	116人	41,850,000円	50人	44人	88.0%			
※ 令和元年度については給付後に退学者があり、決定者数に対して給付者数等の合計が不一致となっています。											
※ 定住要件を満たさないことによる奨学金の返還金については、適正に債権管理を行っています。											

事業の成果等					
(1) 市内外への校外活動の実施により、日常の学校生活では得ることのできない体験学習や環境学習など様々な体験を通じて子どもたちの社会性を養う一助となりました。 (2) 小学校児童の遠距離通学に対して路線バス等の定期券を購入し、安全な通学環境の確保につなげることができました。 (3) 給付型奨学金の給付により、市への愛着と誇りを持った意欲のある若者に対し、進学へのバックアップが図れました。給付終了後の定住率についても9割近くを維持できています。					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
校外活動バスの運行	-	-	-	-	A
通学定期券補助事業	-	-	-	-	A
給付型奨学金制度	新たに給付型奨学金の支給を受けた者	40人	43人	108%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
学習環境を確保するため引き続き各種整備を行うとともに、施設運営等に必要な備品を計画的に更新・配					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
定期券補助や校外活動バスの運行については計画通り事業を実施することができました。また、給付型奨学金制度については目標値を上回ることができたことからA評価としました。					A
③事業の課題と今後の取組					
児童数の減少や保護者の就労により少人数で下校する生徒が増えています。また、米原市内小中学校における通学に関する基本方針を定めてから5年以上が経過していることから、基本方針の見直しが必要となっています。					

事業番号		3			
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	1 学校管理費
決算書					138 ~ 139 ページ
事業名		小学校管理運営事業			主管課
					教育部 教育総務課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	29,674,000	24,622,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	27,151,696	24,565,608	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	15,000,000	0
執行率(%) / 増減率(%)	91.5	+10.5	99.8	一般財源	12,151,696
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
			米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 15,000,000円		
事業コスト		事業費	人件費(0.45 人 役)	計	
決 算 額		27,152 千円	3,127 千円	30,279 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		722 円	83 円	805 円	
児童1人当たり(2,052 人)		13,232 円	1,524 円	14,756 円	
事業の目的および内容					
小学校施設の適切な維持管理を行い、安心安全な学習環境を確保します。					
事業の実績					
<p>(1) 小学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。 警備保障業務、設備保守点検業務等 15,902,767 円</p> <p>(2) 事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。 事務機器リース料(カラー複合機、印刷機) 1,507,968 円</p> <p>(3) 施設の運営等に必要な備品を購入しました。 事務用備品、施設管理用備品、児童用机・椅子ほか 8,211,896 円</p>					
					
【更新した伊吹小学校の除雪機】			【児童用机・椅子】		

<div>事業の成果等</div> <p>各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。</p>					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
小学校施設維持管理	-	-	-	-	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
警備保障等の維持管理業務を予定通り実施できたことや、備品購入を適切に進められたことから、評価をAとしました。					A
今後も安全安心な学習環境を確保するため引き続き各					
<p>今後も安全安心な学習環境を確保するため引き続き各種整備を行うとともに、施設運営等に必要な備品を計画的に更新・配備していきます。</p>					

事業番号		4			
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	2 教育振興費
決算書					138 ～ 141 ページ
事業名		小学校教育振興事業			主管課 教育部 教育総務課
事業費(円)		令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度 令和3年度
予算額		143,232,000	17,858,000	国 費	86,193,000 1,047,000
うち繰越		0	0	県 費	0 0
決算額		141,102,089	16,409,442	市 債	0 0
うち繰越		0	0	そ の 他	29,292,000 0
執行率(%) / 増減率(%)		98.5 +759.9	91.9	一般財源	25,617,089 15,362,442
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度) ② 教育のICT化のためのデジタル基盤整備や教員用パソコンの購入等の経費が増大したため。				その他の内訳(令和4年度) 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 28,792,000円 教育振興費寄附金 500,000円	
事業コスト		事業費		人件費(0.65 人役)	計
決 算 額		141,102 千円		4,517 千円	145,619 千円
市民1人当たり(37,593 人)		3,753 円		120 円	3,873 円
児童1人当たり(2,052 人)		68,763 円		2,201 円	70,964 円
事業の目的および内容					
(1) 経済的、身体的な理由により、就学が困難な児童への援助を行い、安心して学習できる環境となるよう支援します。 (2) 教育のICT化の推進のため、統合型校務支援システムおよび学校間ネットワークの構築、特別教室等のWi-Fi環境の拡充を行います。また、更新対象となっている教員用ノートパソコンの更新を行います。					
事業の実績		※小学校児童数 2,052人 (令和4年5月1日現在…学校基本調査基準日)			
(1) 経済的、身体的な理由により、就学が困難な児童が安心して学習できる環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。併せて、新入学児童学用品費を入学準備金として支給しました。 要保護準要保護児童就学援助費 12,550,368 円 令和5年度入学準備金 1,405,560 円 特別支援教育就学奨励費 1,935,789 円 支給対象者の5年間の推移 (単位：人)					
区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 令和4年度
要保護児童就学援助		2	0	0	0
準要保護児童就学援助		196	203	218	221 220
入学準備金		23	28	20	22 24
特別支援教育就学奨励		48	47	59	62 61
(2) 教育のICT化推進のため、統合型校務支援システムの導入など、デジタル基盤の整備を行いました。また、教員用ノートパソコンの更新および電子黒板の導入を行いました。 米原市学校ネットワーク再構築業務委託 (小学校分) 90,789,000 円 教員用ノートパソコン購入 (124台) 17,187,000 円 電子黒板購入 (21台) 15,933,130 円					

事業の成果等

- (1) 経済的、身体的な理由により就学が困難な児童を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。特に、入学準備金については、時機に合わせて支給することで、より有益な援助につながりました。
- (2) デジタル基盤の整備により、教育全般のICT化に取り組む体制を整えることができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
小学校就学援助業務	-	-	-	-	A
教育のICT化推進	-	-	-	-	A



C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
就学援助制度により、経済的・身体的理由により就学が困難な家庭を援助することで、学習環境の確保に寄与することができました。また、校務支援システムの導入等を行い教育のICT化に積極的に取り組めたことから、評価をAとしました。	A

③事業の課題と今後の取組

就学援助制度については、経済的支援を必要とする世帯に支援が行き届くよう、情報発信や制度の周知をしっかりと行う必要があります。

事業番号		5			
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	3 施設整備費
事業名		小学校施設整備事業			決算書 140 ～ 141 ページ
					主管課 教育部 教育総務課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度		財源内訳(円)	令和4年度 令和3年度
予算額	653,600,000	404,100,000		国 費	48,972,000 24,900,000
うち繰越	218,500,000	144,500,000		県 費	0 2,731,000
決算額	217,503,240	170,205,580		市 債	116,300,000 107,230,000
うち繰越	172,240,200	131,031,000		そ の 他	23,268,200 81,000
執行率(%) / 増減率(%)	33.3 +27.8	42.1		一般財源	28,963,040 35,263,580
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)				その他の内訳(令和4年度)	
② 国の補正予算に伴う事業実施により、坂田小学校長寿命化改良建築工事外9件を令和5年度へ繰越したため。 ＜令和5年度への繰越額＞ 382,900,000円				繰越事業費等充当財源繰越金 23,268,200円	
事業コスト		事業費		人件費(0.70 人 役)	計
決 算 額		217,503 千円		4,864 千円	222,367 千円
市民1人当たり (37,593 人)		5,786 円		129 円	5,915 円
児童1人当たり (2,052 人)		105,996 円		2,370 円	108,366 円
事業の目的および内容					
安心安全で快適な学習環境を確保するため、施設の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設の点検等を行い、不具合を未然に防止します。					
事業の実績 ※小学校児童数 2,052人 (令和4年5月1日現在…学校基本調査基準日)					
(1) 息長小学校体育館照明他改修工事 快適な学習環境を確保するため、体育館照明をLEDに改修しました。 照明改修 55か所 放送設備改修 1式 8,419,400 円					
(2) 米原小学校大規模改造工事(繰越) 安心安全で快適な学習環境を確保するため、学校施設長寿命化計画に基づき、米原小学校大規模改造工事を行いました。 監理委託費：1,980,000円、工事費：110,422,400円 外壁改修 面積5,190㎡ 高圧受電設備改修 1式ほか 合計：112,402,400 円					
(3) 柏原小学校校舎照明改修工事(繰越) 快適な学習環境を確保するため、校舎照明をLEDに改修しました。 照明改修 572か所 高圧受電設備改修 1式 28,622,000 円					
(4) 河南小学校校舎照明改修工事(繰越) 快適な学習環境を確保するため、校舎照明をLEDに改修しました。 照明改修 550か所 高圧受電設備改修 1式 31,215,800 円					
					
【米原小学校大規模改造工事】			【柏原小学校校舎照明改修工事】		

事業の成果等

各種の整備工事や不具合箇所の補修により、児童に安心安全で快適な学習環境を提供するとともに、学校施設の長寿命化を図ることができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
小学校施設整備事業	-	-	-	-	A


C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
学校施設の長寿命化にかかる大規模改修工事や照明のLED化等を実施し、安全で快適な学習環境の確保に寄与できたことから、評価をAとしました。	A

③事業の課題と今後の取組

米原市学校施設長寿命化計画に基づく改修工事や、老朽化に伴う修繕等を計画的に進めるとともに、交付金等の財源確保に努める必要があります。

事業番号		6			
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費
決算書					140 ~ 143 ページ
事業名		中学校管理運営事業			主管課
					教育部 教育総務課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	14,727,000	20,389,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	14,413,707	19,326,078	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	9,000,000	0
執行率(%) / 増減率(%)	97.9	▲ 25.4	94.8	一般財源	5,413,707
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
			米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 9,000,000円		
事業コスト		事業費	人件費(0.50 人 役)	計	
決 算 額		14,414 千円	3,475 千円	17,889 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		383 円	92 円	475 円	
生徒1人当たり(1,025 人)		14,062 円	3,390 円	17,452 円	
事業の目的および内容					
中学校施設の適切な維持管理を行い、安心安全な学習環境を確保します。					
事業の実績 ※中学校生徒数 1,025人 (令和4年5月1日現在…学校基本調査基準日)					
(1) 中学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種設備等の管理業務を委託しました。 警備保障業務、設備保守点検業務等 10,643,972 円					
(2) 事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。 事務機器リース料(カラー複合機、印刷機) 1,005,312 円					
(3) 施設の運営等に必要な備品を購入しました。 事務用備品、施設管理用備品、生徒用机・椅子ほか 1,369,539 円					
					
【生徒用机・椅子】					

事業の成果等

各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
中学校施設維持管理	-	-	-	-	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					

②事業の総合評価



評価の理由	総合評価
警備保障等の維持管理業務を予定通り実施できたことや、備品購入を適切に進められたことから、評価をAとしました。	A

③事業の課題と今後の取組

今後も安全安心な学習環境を確保するため引き続き各種整備を行うとともに、施設運営等に必要な備品を計画的に更新・配備していきます。

事業番号		7			
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	2 教育振興費
				決算書	142 ～ 143 ページ
事業名		中学校教育振興事業			主管課 教育部 教育総務課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度		財源内訳(円)	令和4年度
予算額	139,819,000	19,004,000		国 費	83,171,500
うち繰越	0	0		県 費	0
決算額	128,926,838	17,473,105		市 債	0
うち繰越	0	0		そ の 他	26,566,470
執行率(%) / 増減率(%)	92.2	+637.9	91.9	一般財源	19,188,868
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)				その他の内訳(令和4年度)	
② 教育のICT化のためのデジタル基盤整備や教員用パソコンの購入等の経費が増大したため。 中学校入学支援金、部活動用具等購入補助金の新設に伴う経費が増大したため。				米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 26,566,470円	
事業コスト		事業費		人件費(0.65 人 役)	計
決 算 額		128,927 千円		4,517 千円	133,444 千円
市民1人当たり (37,593 人)		3,430 円		120 円	3,550 円
生徒1人当たり (1,025 人)		125,782 円		4,407 円	130,189 円
事業の目的および内容					
(1) 経済的、身体的な理由により、就学が困難な生徒への援助を行い、安心して学習できる環境となるよう支援します。					
(2) 教育のICT化の推進のため、統合型校務支援システムおよび学校間ネットワークの構築、特別教室等のWi-Fi環境の拡充を行います。また、更新対象となっている教員用ノートパソコンの更新を行います。					
(3) 子どもが安心して中学校に入学し、学びや部活動など充実した学校生活が送れるよう、中学校入学支援金制度を新設し、入学時の制服や自転車等の購入費および部活動の用具費等について、支援を行います。					
事業の実績		※中学校生徒数 1,025人 (令和4年5月1日現在…学校基本調査基準日)			
(1) 経済的、身体的な理由により、就学が困難な生徒が安心して学習できる環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。					
要保護準要保護生徒就学援助費				11,180,901 円	
特別支援教育就学奨励費				1,048,025 円	
支給対象者の5年間の推移				(単位：人)	
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
要保護生徒就学援助	0	0	0	2	1
準要保護生徒就学援助	105	106	106	124	129
入学準備金	31	30	35	36	0
特別支援教育就学奨励	23	21	19	21	24
(2) 教育のICT化推進のため、統合型校務支援システムの導入など、デジタル基盤の整備を行いました。また、教員用ノートパソコンの更新および電子黒板の導入を行いました。					
米原市学校ネットワーク再構築業務委託（中学校分）				64,707,000 円	
教員用ノートパソコン購入（77台）				10,610,000 円	
電子黒板購入（7台）				6,878,000 円	
(3) 新中学1年生が充実した学校生活を開始できるよう、中学校入学支援金および部活動用具等購入補助金を交付し、入学時の学用品費等の購入に対する支援を行いました。					
中学校入学支援金				(R4入学者：258人/330人 交付率 78.2%) 15,990,000 円	
				(R5入学者：216人/283人 交付率 76.3%) 15,030,000 円	
部活動用具等購入補助金				(195人/401人 交付率48.6%) 2,806,470 円	

事業の成果等					
(1) 経済的、身体的な理由により就学が困難な生徒を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。 (2) デジタル基盤の整備により、教育全般のICT化に取り組む体制を整えることができました。 (3) 中学校入学時の経済的負担の軽減により、新中学1年生の充実した学校生活のスタートを支援することができました。					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
中学校就学援助業務	-	-	-	-	A
入学支援金・ 部活動用具等購入補助金	-	-	-	-	A
教育のICT化推進	-	-	-	-	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
今後も安全安心な学習環境を確保するため引き続き各					
評価の理由					総合評価
就学援助制度により、経済的・身体的理由により就学が困難な家庭を援助することで、学習環境の確保に寄与することができました。また、校務支援システムの導入等を行い教育のICT化に積極的に取り組みました。さらに、令和4年度からの新たな取組として、中学校入学支援金および部活動用具等購入補助金制度を開始し、充実した学校生活を送れるよう更なる支援を行うことができました。					A
③事業の課題と今後の取組					
就学援助制度や入学支援金制度等については、必要とする世帯に支援が行き届くよう、情報発信や制度の周知をしっかりと行う必要があります。					

事業番号		8			
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	3 施設整備費
				決算書	142 ～ 145 ページ
事業名		中学校施設整備事業			主管課 教育部 教育総務課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	417,664,000	600,200,000	国 費	86,978,000	65,831,000
うち繰越	319,300,000	252,900,000	県 費	0	0
決算額	318,314,322	262,552,835	市 債	202,500,000	177,470,000
うち繰越	301,790,500	236,551,700	そ の 他	14,612,500	70,700
執行率(%) / 増減率(%)	76.2	+21.2	43.7	一般財源	14,223,822
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
① 国の補正予算に伴う事業実施により、米原中学校特別支援教室他改修工事外4件を令和5年度へ繰越したため。 ＜令和5年度への繰越額＞ 80,900,000円			繰越事業費等充当財源繰越金 14,612,500円		
事業コスト		事業費	人件費(0.75 人 役)	計	
決 算 額		318,314 千円	5,212 千円	323,526 千円	
市民1人当たり (37,593 人)		8,467 円	139 円	8,606 円	
生徒1人当たり (1,025 人)		310,550 円	5,085 円	315,635 円	
事業の目的および内容					
安心安全で快適な学習環境を確保するため、施設の修繕や改修など緊急性の高いものから順次計画的に整備します。また、予防保全型の維持管理へ転換し、計画的に施設の点検等を行い、不具合を未然に防止します。					
事業の実績 ※中学校生徒数 1,025人 (令和4年5月1日現在…学校基本調査基準日)					
(1) 河南中学校校舎照明改修工事(繰越) 快適な学習環境を確保するため、校舎照明をLEDに改修しました。 照明改修 634か所 高圧受電設備改修 1式 33,111,100 円					
(2) 双葉中学校長寿命化改良工事(Ⅳ期工事)(繰越) 安心安全で快適な学習環境を確保するため、学校施設長寿命化計画に基づき、双葉中学校長寿命化改良工事を行いました。 監理委託費：1,518,000円、工事費：152,270,800円 外壁改修 面積4,130㎡ 教室等改修 7室 合計：153,788,800 円					
(3) 大東中学校大規模改造工事(繰越) 安心安全で快適な学習環境を確保するため、学校施設長寿命化計画に基づき、大東中学校大規模改造工事を行いました。 監理委託費：979,000円、工事費：113,719,100円 外壁改修 面積5,190㎡ 高圧受電設備改修 1式ほか 合計：114,698,100 円					
					
【双葉中学校長寿命化改良工事(Ⅳ期)】			【大東中学校大規模改造工事】		

事業の成果等

各種の整備工事や不具合箇所の補修により、生徒に安心安全で快適な学習環境を提供するとともに、学校施設の長寿命化を図ることができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
中学校施設整備事業	-	-	-	-	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
学校施設の長寿命化にかかる大規模改修工事や照明のLED化等を実施し、安全で快適な学習環境の確保に寄与できたことから、評価をAとしました。	A

③事業の課題と今後の取組

米原市学校施設長寿命化計画に基づく改修工事や、老朽化に伴う修繕等を計画的に進めるとともに、交付金等の財源確保に努める必要があります。

事業番号		9				
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	
				決算書	134 ～ 139 ページ	
事業名		事務局教育振興事業			主管課	教育部 学校教育課
事業費(円)		令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額		114,980,000	118,277,000	国 費	6,954,000	12,224,536
うち繰越		14,408,000	13,600,000	県 費	6,177,545	6,068,545
決算額		90,228,906	94,750,252	市 債	0	0
うち繰越		12,685,641	13,598,569	そ の 他	12,312,673	18,576,569
執行率(%) / 増減率(%)		78.5	▲ 4.8	80.1	一般財源	64,784,688
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)				その他の内訳(令和4年度)		
① 国の補正予算に伴い、小中学校感染症対策に係る経費を令和5年度へ繰越したため。 ＜令和5年度への繰越額＞ 15,300,000円				地域の絆でまちづくり基金繰入金 5,658,927円 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 202,000円 家庭学習用Wi-Fi通信費保護者負担金 18,150円 ALT家賃清算金 16,955円 繰越事業費等充当財源繰越金 6,416,641円		
事業コスト		事業費		人件費(5.50 人 役)		計
決 算 額		90,229 千円		38,220 千円		128,449 千円
市民1人当たり (37,593 人)		2,400 円		1,017 円		3,417 円
児童生徒1人当たり (3,077 人)		29,324 円		12,421 円		41,745 円
事業の目的および内容						
(1) コミュニティ・スクール推進事業、地域学校協働活動推進事業、小規模校における交流活動等の各事業への取組を通して、学校と地域が力を合わせ、「地域とともにある学校」づくりを進めます。						
(2) いじめの防止、早期発見、解決する体制を強化するため、いじめ等対応支援員を配置し、いじめ問題専門委員会およびいじめ問題調査委員会を定期的に開催します。						
(3) 基礎学力の確かな定着と生活困窮世帯の子どもの学習規律や学習習慣の定着を図るため、小学校3年生を対象とした学びっ子事業(放課後補充教室)を実施します。						
(4) 学校図書館に問題解決的な学習を支援する学校図書館司書を配置し、学習センターとしての機能を強化します。						
(5) 免許外指導を解消するため、中学校へ専門教科指導の非常勤講師を派遣し、学習指導の充実を図ります。						
(6) 特別支援教育支援委員会で、障がいのある幼児・児童・生徒の望ましい就学先等の協議や支援を行います。						
(7) 通常学級在籍の支援が必要な児童に対して、通級指導教室を開設し、課題に応じた指導を行います。						
(8) スクールカウンセラーを配置し、児童生徒の諸課題解決に向けた相談助言や保護者に対する相談等を行います。						
(9) 不登校児童生徒数が増加傾向にある中、フリースクールの利用に係る経費に対して支援することにより、不登校の子どもたちの通いの場を確保し、将来の社会的自立に向けた学びを支援します。						
(10) 教員業務支援員を配置して、担任等の業務負担を軽減するなど働き方改革を推進し、学校教育活動の充実に努めます。						
(11) ALT等の活用により、本市独自の教育課程による小学校1年生からの英語教育の充実に努めます。						
(12) 登下校時において地域のスクールガードによる付き添いや見守り活動、8・3（はちさん）運動を引き続き実施し、地域ぐるみで子どもたちを事件や事故から守ります。						
(13) 新型コロナウイルス感染症対策のための環境を整備し、学校における感染症予防の徹底を図ります。						
(14) ICT推進員を配置するなど、各学校のICT教育への支援を行い、ICTを活用した授業を積極的に取り入れます。						

事業の実績

- (1) コミュニティ・スクール推進事業、地域学校協働活動推進事業
保護者や地域の人々の持つ豊かで専門的な力を取り入れ、地域に根ざしたコミュニティ・スクール推進事業を全小中学校で進めました。また、全ての中学校区で地域学校協働本部を運営し、地域コーディネーターを中心に学校のニーズに応じた支援を行いました。

コミュニティ・スクール推進事業	5,658,927 円
地域コーディネーター等謝礼	2,070,160 円
地域学校協働本部事務経費（消耗品等）	381,798 円
- (2) いじめ対策関係事業
いじめ等対応支援員の配置やいじめ問題専門委員会等を開催し、いじめの早期発見、対応策や未然防止策などを検討し、各校に発信しました。また、いじめ問題調査委員会を開催し、調査事案について調査審議を行いました。※いじめ事案報告件数122件（令和3年度：119件）

いじめ等対応支援員報酬等（1人）	532,392 円
いじめ問題調査委員会（2回）	いじめ問題専門委員会（5回）
- (3) 学びっ子事業
基礎学力の確かな定着と生活困窮世帯の子どもの学習規律や学習習慣の定着を図るため、小学3年生を対象に、全ての小学校で週1回、年間25回実施しました。

学びっ子指導員報酬等	2,378,386 円
------------	-------------
- (4) 学校図書館司書配置事業
児童生徒が図書に親しむことや読解力の向上を目指し、学校図書館司書を全校に配置しました。

学校司書報酬等（12人）	3,887,083 円
--------------	-------------
- (5) 非常勤講師配置事業
教科を指導する非常勤講師を派遣し、学習指導の充実に努めました。

中学校非常勤講師報酬等(35人)	16,939,407 円
------------------	--------------
- (6) 特別支援教育支援委員会（6回）
医師や専門的識見者等20人が委員となる特別支援教育支援委員会を開催し、特別支援が必要な幼児や児童生徒75人(令和3年度：80人)について調査、審議を行い、適切な就学先等を答申しました。

就学相談等	251,720 円
-------	-----------
- (7) 通級指導教室（小学校4教室、中学校2教室）
145人（令和3年度：137人）の児童生徒に対し、発音や発達障がいに関わる支援等、児童生徒の個々の状況に応じた指導を行いました。また、発達検査や教育相談を実施しました。

通級指導教室（事務費）	682,505 円
-------------	-----------
- (8) スクールカウンセラー配置事業
延べ426人の面談を実施し、課題解決に取り組みしました。

スクールカウンセラー配置事業（4人）	2,115,905 円
--------------------	-------------
- (9) フリースクール利用支援補助事業
フリースクールに通う児童生徒4人への財政支援を行い、不登校児童生徒の学びの場の確保に努めました。

フリースクール利用支援補助金	202,000 円
----------------	-----------
- (10) 教員業務支援員配置事業
教職員の働き方改革を推進するため、教員業務支援員を全15校に配置しました。

教員業務支援員報酬等（20人）	5,676,816 円
-----------------	-------------
- (11) 外国語指導助手配置事業
小中学校に外国語指導助手（6人）を配置し、英語学習の推進を図りました。また、ALTによる英語レッスン動画の作成と配信を行いました。

外国語指導助手報酬等	24,310,685 円
------------	--------------
- (12) スクールガードによる見守り活動の実施（842人）
登下校時において地域のスクールガードによる付き添いや見守り活動、8・3（はちさん）運動を引き続き実施し、地域ぐるみで子どもたちを事件や事故から守る活動を行いました。

地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業	239,290 円
--------------------	-----------
- (13) 新型コロナウイルス感染症対策事業
新型コロナウイルス感染症対策に必要な物品を各学校の必要に応じ購入しました。

消耗品	5,166,704 円	備品購入費	1,673,522 円
-----	-------------	-------	-------------
- (14) ICT推進員配置、ICT支援員派遣事業
ICT推進員の配置やICT支援員の派遣により、ICTを活用した授業を積極的に取り入れました。

ICT推進員報酬等	2,684,045 円	学校ICT支援等業務委託料	5,880,000 円
-----------	-------------	---------------	-------------

事業の成果等					
(1) いじめ等対応支援員の配置、いじめ問題専門委員会の実施等により、いじめの早期発見、未然防止に対する組織対応について検討することができました。					
(2) 外国語指導助手の配置により、児童生徒の外国語に対する理解を深めることができました。					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
基礎学力の向上	全国学力・学習状況調査の国語科、算数科、数学科における正答率と回答率	県平均を上回る	小× 中○	50.0%	C
外国語教育の推進	全国学力・学習状況調査「前学年に受けた英語の授業で、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」児童生徒の割合	小75% 中80%	小45.4% 中20.0%	小61% 中25%	C
教育情報化の推進	全国学力・学習状況調査「学校でICT機器を友達との意見交換や調べることにほぼ毎日使用している」児童生徒の割合	80%	35.7%	45%	C
道徳教育・人権教育の推進	全国学力・学習状況調査「自分には良いところがあると思う」児童生徒の割合	小85% 中85%	小82.7% 中82.0%	小98% 中97%	A
地域における学校園間・世代間交流の推進	地域学校協働ボランティア登録数	1,000 人	392人	40%	C
学校等における体育指導等の充実	「子ども（小5・中2）の体力・運動能力テスト」の体力合計点	全国平均点を上回る	小5男子以外は上回った。	75%	B
基本的生活習慣の形成	全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べている」児童生徒の割合	小98% 中98%	小97.3% 中91.0%	小100% 中93%	A
ふるさとを愛し、誇りに思う心の育成	全国学力・学習状況調査「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」児童生徒の割合	小55% 中45%	小75.6% 中69.3%	小138% 中154%	A
学校園と地域団体等との連携	全国学力・学習状況調査「地域の行事に参加している」児童生徒の割合	小88% 中65%	小71.0% 中50.0%	小81% 中77%	B
不登校に対する支援の充実	不登校児童生徒数	小15 人 中30 人	小24人 中42人		C
いじめの防止等の措置	全国学力・学習状況調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合	小100% 中100%	小96.7% 中95.0%	小97% 中95%	A
通学路の安全確保	スクールガード登録者数	1,000 人	852人	86%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
全国学力・学習状況調査の結果については、急激な向上はなかなか難しいです。令和8年度には目標値に到達できるよう、徐々に上げていく必要があります。					
②事業の総合評価					
評価の理由				総合評価	
地域学校協働ボランティア登録数や不登校児童生徒数については、各学校の個別の努力の積み上げの結果で達成できるものであるため、引き続き市全体の課題として取り組んでいきたいと考えています。				B	
③事業の課題と今後の取組					
本事業の取組内容が多岐にわたるため、一括した総括が難しいものの、市で取り組んでいる「自己肯定感・自己有用感の育成」について、各学校が工夫した教育活動を取り組み続けることにより、少しずつ数値も上がっていくものと考えています。					

事業番号		10								
款	10 教育費		項	1 教育総務費		目	3 教育振興費	決算書	134 ~ 139 ページ	
事業名		教育センター事業					主管課	教育部 学校教育課		
事業費(円)		令和4年度		令和3年度		財源内訳(円)		令和4年度	令和3年度	
予算額		1,362,000		1,367,000		国 費		0	0	
うち繰越		0		0		県 費		0	0	
決算額		1,153,904		1,077,547		市 債		0	0	
うち繰越		0		0		そ の 他		0	0	
執行率(%) / 増減率(%)		84.7	+7.1	78.8		一般財源		1,153,904	1,077,547	
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)					その他の内訳(令和4年度)					
事業コスト			事業費		人件費(1.10 人 役)			計		
決 算 額			1,154 千円		7,644 千円			8,798 千円		
市民1人当たり (37,593 人)			31 円		203 円			234 円		
児童生徒1人当たり (3,077 人)			375 円		2,484 円			2,859 円		
事業の目的および内容										
<p>(1) 市独自の学力状況調査(小学4年生:国語、算数)を実施し、その分析結果を基に課題を明確にし、学力の定着を目指した授業改善につなげます。また、ICTを活用した授業に関する調査研究等を実施します。</p> <p>(2) 教職員全員研修会や教育研究発表大会を実施し、教育に関する諸課題について研鑽を深めます。また、若手教職員研修や教頭研修等の職層別研修を行い人材育成に努めます。</p> <p>(3) 研修講座では、授業力向上研修に加え、今日的な課題である特別支援教育やICTを活用した授業に関する講座等、教職員のニーズに応じた講座を実施します。</p> <p>(4) 教職員の自主研修の場である「チームまいばら先生の会(TMT)」において、若手教職員を中心とした人材育成を行います。</p>										
事業の実績										
<p>(1) 教育センター主催の全員研修会(8月)、調査研究発表大会(2月)は、動画配信で行いました。また、市の初任者研修や教頭研修、保幼認定若手職員研修および2年次教職員研修、夏季研修講座、TMT研修など、全44回の研修および講座を実施しました。さらに、ICTに関する調査研究部会では、令和3年度から本格実施となった「一人一台タブレット端末」の効果的な活用について、モデル指導案の作成と授業実践を行い、その成果と課題を各学校と共有しました。</p> <div><div>小中教職員全員研修会 調査研究発表大会 教育センターおよび各部研修会講師謝礼</div><div>令和4年8月18日動画配信 令和5年2月15日動画配信 167,520 円</div></div> <p>(2) 児童の学力状況調査を6月に実施し、その分析結果を基に指導法の工夫改善に関する実践研究を行いました。</p> <div><div>学力状況調査委託料</div><div>395,200 円</div><div>【ICT活用研修(TMT)】</div></div> <p>(3) 教育資料の作成に関する事業として、教育センターだより「はぐくみ」、研究紀要「米原教育」、研究論文集の発刊(DVD配布)を行いました。</p> <div><div>消耗品等</div><div>99,492円</div></div> <p>(4) その他 各教育関係部会補助金および負担金</p> <div><div>376,163 円</div></div>										

事業の成果等

- (1) 小中学校の教職員対象に各種研修および講座を開催し、指導力の向上につなげることができました。また、小中教職員全員研修会では96%、教育研究発表大会では95%の参加者から、内容が分かりやすいなどの肯定的な評価を得ました。
- (2) 学力状況調査は、基礎的な学力の定着と主体的・対話的で深い学びを視点とする授業改善のための基礎資料として活用し、より良い授業につなげることができました。
- (3) 教職員の専門性や指導力の向上を目標にICTに関する調査研究部会を開催し、「主体的・対話的で深い学びを実現するICTを活用した授業づくり」をテーマに調査・研究を進め、市内に発信しました。参加者からは、「個別最適化された学びを実現するために、タブレットを活用していきたい」、「アプリ等の紹介が参考になった」などの感想が寄せられました。
- (4) 教育研究奨励事業として31点の研究論文（個人、グループ）の応募があり、自主的な教育研究や自己研鑽により、教職員の指導力向上につながりました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
ヤングケアラーの把握・支援	貧困等に関する教職員への研修実施回数	1回	1回	100.0%	A
特別支援教育の充実	教員、保育者が出席する特別支援教育等に関する研修会数	4回	3回	75%	B
性的マイノリティの児童生徒の支援	性的マイノリティの課題を含む人権研修の実施回数	1回	1回	100%	A
教員・保育者の指導力の向上	教育センター開講講座・研修会の延べ受講人数	1,000 人	1222人	123%	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
集合研修や動画配信、研究授業や講義等、研修の形式や内容も工夫を行い、教職員の資質向上に努めることができたと考えています。	A

③事業の課題と今後の取組

ヤングケアラーや性的マイノリティの課題は、社会的に関心の高い内容であるため取り扱っているが、今後表面化する新たな課題についてももれなく取り扱う必要がある。その際のテーマの取捨選択は慎重に行うことが大事だと考えます。

事業番号		11						
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費			
決算書				134 ～ 139 ページ				
事業名		子どもサポート事業			主管課	教育部 学校教育課		
事業費(円)		令和4年度		令和3年度		財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額		57,975,000		51,989,000		国 費	0	0
うち繰越		0		0		県 費	779,000	1,527,000
決算額		53,783,245		50,378,895		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	0	0
執行率(%) / 増減率(%)		92.8	+6.8	96.9		一般財源	53,004,245	48,851,895
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)					その他の内訳(令和4年度)			
事業コスト			事業費		人件費(1.00 人 役)		計	
決 算 額			53,783 千円		6,949 千円		60,732 千円	
市民1人当たり (37,593 人)			1,431 円		185 円		1,616 円	
児童生徒1人当たり (3,077 人)			17,479 円		2,258 円		19,737 円	
事業の目的および内容								
<p>(1) 特別な支援が必要な児童生徒や不登校傾向の児童生徒に対して、子どもケアサポーターを小中学校へ派遣し、担任と連携してきめ細かな指導および支援を行います。</p> <p>(2) 小中学校の不登校児童生徒に対して、心の安定を図るとともに、学力や生活力の向上に向けた支援を行うため、教育支援センターを運営します。</p> <p>(3) 小中学校の児童生徒および保護者の教育相談、児童生徒の発達検査を実施し、学校との連携を深めます。</p>								
事業の実績								
<p>(1) ケアサポーター配置事業 (延べ43人 実質30人)</p> <p>子どもケアサポーター30人を市内9小学校、6中学校に年間210日派遣しました。また、2人のスクーリングケアサポーターを小中学校に年間222回 (886時間) 派遣しました。</p> <p>子どもケアサポーター報酬等 49,960,900 円</p> <p>スクーリングケアサポーター報酬等 937,417 円</p> <p>(2) 不登校児童生徒に対する教育支援センターの運営 指導員報酬等 2,704,411 円</p> <p>教育支援センターでは、5人の入級児童生徒を2人の指導員が週5回、年間200回の指導を行いました。そのうち、1人が高校進学し、1人が学校復帰しています。また、教育支援センターへの通級希望者のため体験見学の機会を設けました。入級には至りませんでした。6人が体験しました。</p> <p>(3) 児童生徒の心の安定を図る教育相談</p> <p>こころの教育相談事業では、心理判定員 (臨床心理士) 1人が本庁舎、山東支所、ルッチプラザ、電話相談のいずれかの会場において、年間相談延べ回数5回、2件 (令和3年度: 15回、5件) の児童生徒や保護者の相談を受けました。</p>								

事業の成果等

- (1) 特別な支援を必要とする児童生徒や不登校による別室登校の児童生徒への個別支援をすることにより、心の安定を図り、学習課題に意欲を持って取り組む姿が見られるようになりました。
- (2) 保護者と学校、適応指導教室指導員、心理判定員との連携や相談を密にすることにより、不登校傾向の児童生徒が教育支援センターへの通所や在籍校への復帰、放課後登校ができるようになるなどの成果が見られました。また、教育支援センターにおける体験や見学は、児童生徒の自立を助けるための有効な機会となりました。
- (3) 児童生徒の不登校、うつ状態や学校不適応等の様々な心配について相談対応し、ひきこもりの改善、再登校、症状の緩和、保護者の不安の緩和といった成果が見られました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
子どもケアサポーターの派遣	子どもケアサポーターの派遣人数	35人	30人	86.0%	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)


②事業の総合評価


評価の理由	総合評価
目標値には届いていないものの、学校のニーズに応じた配置ができたと考えています。	A

③事業の課題と今後の取組

配置人数とともに、配置されたサポーターの力量が重要です。個別の支援が必要な児童生徒が増えているため、配置人数の増加とともに、サポーターの資質向上にも引き続き務めていきたいと考えています。

事業番号		12					
款	10 教育費		項	2 小学校費			
目	1 学校管理費		決算書		138 ～ 139 ページ		
事業名			小学校管理運営事業		主管課 教育部 学校教育課		
事業費(円)		令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度	
予算額		82,515,000	65,037,000	国 費	0	0	
うち繰越		0	0	県 費	0	0	
決算額		75,827,622	64,957,458	市 債	0	0	
うち繰越		0	0	そ の 他	1,125,570	1,094,530	
執行率(%) / 増減率(%)		91.9	+16.7	99.9	一般財源	74,702,052	63,862,928
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)				その他の内訳(令和4年度)			
				小学校共済掛金保護者負担金 853,000円			
				要保護児童生徒共済掛金補助金 8,270円			
				小学校施設使用料 264,300円			
事業コスト		事業費		人件費(0.20 人 役)	計		
決 算 額		75,828 千円		1,390 千円	77,218 千円		
市民1人当たり(37,593 人)		2,017 円		37 円	2,054 円		
児童1人当たり(2,052 人)		36,953 円		677 円	37,630 円		
事業の目的および内容							
(1) 小学校の児童が安全・安心で質の高い教育が受けられるよう、適切に学校管理を行うとともに、健やかに学校生活を過ごせるように児童および教職員の健康管理を行います。							
(2) 開かれた学校づくりを一層推進するために、学校運営協議会を開催し、地域からの意向を反映することで地域とともにある学校づくりを進めます。							
事業の実績							
(1) 一般管理							
小学校の児童が安全安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行いました。							
学校運営協議会委員報酬等				580,170 円			
光熱水費				40,753,895 円			
通信運搬費				3,174,692 円			
葉刈り、剪定、雪つりなどの委託料				554,673 円			
事務機器使用料				1,325,137 円			
学校校務員給料、手当等				14,078,735 円			
(正規学校校務員の配置のない小学校8校に配置)							
(2) 健康管理							
小学校の児童が健やかに学校生活を過ごせるように、児童および教職員の健康管理を行いました。							
児童、教職員健康診断業務委託料				3,090,186 円			
校医、歯科医、薬剤師報酬				3,890,580 円			
日本スポーツ振興センター共済掛金				1,920,490 円			
飲料水検査委託料(年1回)				87,120 円			







事業の成果等

- (1) 各学校施設、設備について適切に管理運営することができました。
- (2) 児童の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を実施し、児童および教職員の健康管理を行うことができました。
- (3) 学校運営協議会を開き、学校と家庭、地域との連携の在り方について協議を行うとともに、学校運営協議会委員からの意見や学校経営の評価等により、地域の声を的確に把握しながら学校経営を行うことができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
地域連携に向けた学校 校庭の環境・体制の 充実	学校運営協議会委員年間活動平均回数	4回	4.7回	118.0%	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
どの学区においても目標値を超えています。今後も継続して取り組めるよう支援していきます。	A

③事業の課題と今後の取組

実施回数とともに、協議・活動内容にも注視していく必要があります。それぞれの学区の取組内容を交流しあうなど、市全体でレベルアップしていけるよう取り組んでいきます。

事業番号		13			
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	2 教育振興費
決算書					138 ~ 141 ページ
事業名		小学校教育振興事業			主管課 教育部 学校教育課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	21,661,000	39,030,000	国 費	122,000	131,300
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	20,515,705	37,654,532	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	4,300,000	0
執行率(%) / 増減率(%)	94.7	▲ 45.5	96.5	一般財源	16,093,705
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度) 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 4,300,000円		
事業コスト		事業費	人件費(0.90 人 役)	計	
決 算 額		20,516 千円	6,254 千円	26,770 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		546 円	166 円	712 円	
児童1人当たり(2,052 人)		9,998 円	3,048 円	13,046 円	
事業の目的および内容					
<p>(1) デジタル教科書を整備して、映像等のデジタルならではの教材を提示することにより主体的かつ対話的で深い学びを推進します。</p> <p>(2) 文部科学省から教育課程特例校の認定を得て、全ての小学校で英語教育の充実を図ります。現行の外国語活動に加え、つづりと発音の関係の理解を深める教材や、スピーキング力を上達させる教材等を使ったモジュール学習（短時間の反復学習）を実施します。</p> <p>(3) 学校における読書活動の推進を図るため、図書館図書を購入し、図書館の充実に努めます。</p> <p>(4) 学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度において、校長の思いを踏まえた学校づくりを進めます。</p> <p>(5) 修学旅行および校外活動等に対する支援を行い、教育活動の充実、教育の振興に努めます。</p> <p>(6) より良い学習環境を整えるため、各教科の教材備品を購入します。</p>					
事業の実績					
<p>(1) より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。デジタル教科書を購入し、児童生徒の学力向上に努めました。また、理科備品については、国庫補助を受け充実を図りました。</p> <div><div>理科教材備品</div><div>244,760 円</div><div>デジタル教科書（9校分）</div><div>4,029,300 円</div></div> <p>(2) スピーキング力を上達させる教材等を使ったモジュール学習（短時間の反復学習）を実施しました。</p> <div><div>小学校英語モジュールDVD（SWITCH ON! Grade 5）</div><div>387,200 円</div></div> <p>(3) 各学校に図書を購入し、学校図書館の充実を図りました。</p> <div><div>図書購入費</div><div>2,123,957 円</div></div> <p>(4) 各学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行を行いました。授業力向上を目的とした教材の購入や、体力向上を目的とした体育備品整備など、各校の実状や教育目標に合わせた取組を全ての小学校で実施しました。</p> <div><div>学校経営予算制度（消耗品・備品購入費等）</div><div>1,610,332 円</div></div> <p>(5) 修学旅行や校外活動に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。コロナ禍における修学旅行の実施については、計画変更に伴う経費に対し補助額を増額し、実施に向けた支援を行いました。</p> <div><div>修学旅行、校外活動補助金</div><div>1,329,913 円</div></div>					



事業の成果等					
(1) 教育活動の充実のために必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。また、校長に一定の予算執行権限を設ける学校経営予算制度により、各校の実状に応じた環境改善や校長の思いに沿った学校経営を支援することができました。 (2) ICT機器の充実により、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善を推進することができました。 (3) 修学旅行について、行先変更等の工夫により、コロナ禍においても実施することができました。					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
修学旅行・校外学習補助金の執行	-	-	-	-	A
学校経営予算の執行	-	-	-	-	B
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
校外学習補助は、全ての学校において適正に申請され、執行ができています。					A
③事業の課題と今後の取組					
学校経営予算については、校長の人事異動により、事業の継続性に課題があると考えています。人事異動後に改めて予算執行計画を提出させるなど、校長の考えの実現のために必要な物品の購入となるよう、指導していきたいと考えています。					

事業番号		14			
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費
決算書					140 ~ 143 ページ
事業名		中学校管理運営事業			主管課 教育部 学校教育課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	60,045,000	44,763,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	53,833,855	44,420,123	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	1,127,480	918,410
執行率(%) / 増減率(%)	89.7	+21.2	99.2	一般財源	52,706,375
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
			中学校共済掛金保護者負担金 414,000円		
			要保護児童生徒共済掛金補助金 5,080円		
			中学校施設使用料 708,400円		
事業コスト		事業費	人件費(0.20 人 役)	計	
決 算 額		53,834 千円	1,390 千円	55,224 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		1,432 円	37 円	1,469 円	
生徒1人当たり(1,025 人)		52,521 円	1,356 円	53,877 円	
事業の目的および内容					
(1) 中学校の生徒が安全・安心で質の高い教育が受けられるよう、適切に学校管理を行うとともに、健やかに学校生活を過ごせるように生徒および教職員の健康管理を行います。					
(2) 開かれた学校づくりを一層推進するために、学校運営協議会を開催し、地域からの意向を反映することで地域とともにある学校づくりを進めます。					
事業の実績					
(1) 一般管理					
中学校の生徒が安全安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行いました。					
学校運営協議会委員報酬等 363,224 円					
光熱水費 30,601,833 円					
通信運搬費 2,035,856 円					
葉刈り、剪定などの委託料 578,650 円					
事務機器使用料 1,203,893 円					
学校校務員給料、手当等 9,193,881 円					
(正規学校校務員の配置のない中学校5校に配置)					
(2) 健康管理					
中学校の生徒が健やかに学校生活を過ごせるように、生徒および教職員の健康管理を行いました。					
生徒、教職員健康診断業務委託料 2,605,933 円					
校医、歯科医、薬剤師報酬 2,171,160 円					
日本スポーツ振興センター共済掛金 958,430 円					
飲料水検査委託料(年1回) 58,080 円					



事業の成果等

- (1) 各学校施設、設備について適切に管理運営することができました。
- (2) 生徒の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を実施し、生徒および教職員の健康管理を行うことができました。
- (3) 学校運営協議会を開き、学校と家庭、地域との連携の在り方について協議を行うとともに、学校運営協議会委員からの意見や学校経営の評価等により、地域の声を的確に把握しながら学校経営を行うことができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
地域連携に向けた学校 校庭の環境・体制の 充実	学校運営協議会委員年間活動平均回数	4回	4.5回	113.0%	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)


②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
どの学区においても目標値を超えています。今後も継続して取り組めるよう支援していきます。	A

③事業の課題と今後の取組

実施回数とともに、協議・活動内容にも注視していく必要があります。それぞれの学区の取組内容を交流しあうなど、市全体でレベルアップしていけるよう取り組んでいきます。

事業番号		15			
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	2 教育振興費
				決算書	142 ~ 143 ページ
事業名		中学校教育振興事業			主管課 教育部 学校教育課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	24,892,000	26,268,000	国 費	152,000	156,700
うち繰越	0	0	県 費	1,620,000	1,380,000
決算額	22,412,770	23,469,920	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	1,900,000	5,320,000
執行率(%) / 増減率(%)	90.0	▲ 4.5	89.3	一般財源	18,740,770
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度) 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 1,900,000円		
事業コスト		事業費	人件費(1.00 人 役)	計	
決 算 額		22,413 千円	6,949 千円	29,362 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		596 円	185 円	781 円	
生徒1人当たり(1,025 人)		21,866 円	6,780 円	28,646 円	
事業の目的および内容					
<p>(1) デジタル教科書を整備して、映像等のデジタルならではの教材を提示することにより、主体的かつ対話的で深い学びを推進します。</p> <p>(2) 学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度において、校長の思いを踏まえた学校づくりを進めます。</p> <p>(3) 社会での自分の役割、将来の生き方・働き方を考える職場体験学習を行います。</p> <p>(4) 修学旅行、校外活動および部活動の公式大会等に対する支援を行い、教育活動の充実、教育の振興に努めます。</p> <p>(5) 部活動指導員を配置し、中学校における部活動の指導体制の充実を図ります。</p> <p>(6) 学校における読書活動の推進を図るため、学校図書館図書の購入を行います。</p>					
事業の実績					
<p>(1) より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。ICT機器の充実のため、3校にテレビ型電子黒板を配備し、数学、理科、英語のデジタル教科書を配備しました。また、理科備品については、国庫補助を受け、充実を図りました。</p> <p>理科教材備品 304,908 円</p> <p>デジタル教科書(6校分) 1,920,600 円</p> <p>(2) 各学校の教育目標を達成するために、校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行を行いました。各学校独自の取組や、各校の実状、教育目標に合わせた取組を全ての中学校で実施しました。</p> <p>学校経営予算制度(消耗品・備品購入費) 978,376 円</p> <p>(3) キャリア教育実践事業(中学2年生職場体験活動経費) 350,218 円</p> <p>(4) 中学校で実施している部活動の公式大会参加に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。</p> <p>生徒派遣補助金 7,313,000 円</p> <p>(5) 中学校における部活動の指導体制の充実を図りました。</p> <p>部活動指導員報酬等 1,677,992 円</p> <p>(6) 各学校の図書館図書を購入しました。</p> <p>図書館図書購入費 1,207,216 円</p>					



【職場体験】



【職場体験】

事業の成果等

- (1) 教育活動の充実のために必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。また、校長に一定の予算執行権限を設ける学校経営予算制度により、各校の実状に応じた環境改善や校長の思いに沿った学校経営を支援することができました。
- (2) ICT機器の充実を図り、学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む授業改善を推進しました。
- (3) 修学旅行について、行先変更等の工夫により、コロナ禍においても実施することができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
キャリア教育の推進	全国学力・学習状況調査「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合	小90% 中85%	小81.1% 中66.0%	小90% 中78%	A
部活動の地域移行	休日における学校部活動の地域活動への移行部活動数	6部	2部	34%	C

C評価となった理由(C評価のみ記入)

部活動の地域移行が実現できているのは、伊吹山中のホッケー部と卓球部の2部です。

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
キャリア教育は、生徒が職場体験をすることで、将来に向けた展望を持つなど、一定の成果を上げています。	B

③事業の課題と今後の取組

次年度には部活動の地域移行に向けた市の方針をつくっていきたいと考えています。

事業番号		16							
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	4 学校給食費				
				決算書	156 ～ 157 ページ				
事業名		学校給食事業			主管課	教育部 学校給食課			
事業費(円)		令和4年度		令和3年度		財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度	
予算額		398,640,000		358,231,000		国 費	0		0
うち繰越		0		0		県 費	227,000		3,898,000
決算額		380,535,531		356,656,932		市 債	1,800,000		0
うち繰越		0		0		その他	187,670,860		183,201,671
執行率(%) / 増減率(%)		95.5 +6.7		99.6 /		一般財源	190,837,671		169,557,261
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)						その他の内訳(令和4年度)			
						学校給食費保護者等負担金			

事業の実績

- (4) 賄材料費 201,209,914円 〈東部：113,847,883円、西部：87,362,031円〉
 食材の価格高騰に対し、保護者に負担を与えることのないよう対応しました。
 (R3年度：188,129,315円 〈東部：107,926,274円、西部：80,203,041円〉)

- (5) 学校給食費保護者等負担金徴収状況

現年度分	調定額	171,590,238 円	未納額	718,733 円
	収入額	170,871,505 円	収納率	99.58 %
過年度分	調定額	1,899,118 円	未納額	1,708,438 円
	収入額	190,680 円	収納率	10.04 %



【食に関する指導】

- (6) 東部・西部給食センターにおける食育推進事業
 食に関する指導体験学習等を通じて、子どもの食育推進に取り組みました。

① 収穫体験

白ねぎ収穫：山東小（3年）15人、春照小（3年）30人
 白ねぎ収穫：米原小（2年）85人

② 食育に関する情報発信

給食日よりなどでレシピや食育の実践の様子などを紹介しました。

- (7) 特色ある給食

項 目	実施回数
季節の行事食	各月1回
お誕生日給食	
カミカミメニュー	
日本型食生活の日	
ふるさと滋賀給食の日	
給食開始明治の給食（給食週間中）	1回（全校）
郷土料理	随時
地元食材の使用	
食べ物の旅給食	月1回



【白ねぎの収穫体験】

県のびわ湖めぐみ食文化継承促進事業を活用し、湖魚を使った給食を実施しました。
 湖魚（ビワマス）：2回

- (8) 施設の主な運営経費

① 会計年度任用職員を配置して、直営による調理業務を実施しました。

会計年度任用職員給料、報酬等（栄養士、配膳員含む。）

東部給食センター（常勤：17人 非常勤：7人） 31,371,035円

西部給食センター（常勤：11人 非常勤：5人） 27,055,330円

② 給食の配送は、米原市シルバー人材センターに委託しました。

配送業務委託料 東部給食センター 10,430,905円

西部給食センター 2,868,450円

- (9) 給食センターの施設改修等

両給食センターの厨房機器等の適正な維持管理と修繕、施設の改修等を行いました。

東部給食センター照明改修工事設計業務 2,068,000円

西部給食センター荷受室設置工事（監理業務含む。） 4,472,600円

西部給食センター厨芥処理システム購入 10,945,000円

修繕料（厨房機器、施設修繕） 6,532,076円

事業の成果等

- (1) 給食の食材については、レーク伊吹農協と連携し地元の食材を積極的に取り入れ、地場産物活用率は県平均29.7%を上回る39.6%とすることができました。
- (2) 給食メニューの多様化を図るため、月間目標を定めて郷土料理や市内の行事に合わせたメニューを取り入れたことなどにより子どもたちの食への関心を高めることができました。
- (3) 毎月の食に関する指導、出前授業、収穫体験等を通じて食べ物の大切さを知ってもらうことができました。
- (4) 食物アレルギーのある子どもの給食については、代替食・除去食の対応を徹底し保護者、学校、給食センターが情報共有、連携し安全な給食を提供できました。
- (5) 老朽化していた厨芥処理システム（残菜処理機）の更新を行い、調理体制の安定化を図りました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
食育の推進	栄養教諭による食育の指導回数	75	92	122.7%	A
安心安全な給食の提供	学校給食に地場産物を使用する割合 (食材数ベース)	29.7	39.6	133.3%	A
子どもの食育推進	給食センターにおける収穫体験実施校数	3校	3校	100%	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
・学校給食の実施については、「学校給食衛生管理基準」に基づいた調理作業等を行うとともに、地元食材を積極的に取り入れ子どもの食への関心に繋げることができた。また、食物アレルギーへの適切な対応を行い、アレルギーのある子どもに安全・安心で栄養バランスの取れた給食を提供することができた。このため、評価を「A」としました。	A

③事業の課題と今後の取組

- ・両給食センターともに正規職員の配置が少なく、多くのパートタイム会計年度任用職員（調理員、調理補助員）によって調理業務が行われているため、適正な正規職員の確保が必要である。
- ・両給食センターの厨房機器等の定期的な保守点検と施設の適切な維持管理を実施し、年次計画に基づき改修および更新を行い調理業務に支障をきたさないよう努めます。

事業番号	17				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費
決算書	146 ~ 149 ページ				
事業名	社会教育総務事業			主管課	教育部 生涯学習課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	1,969,000	437,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	1,718,744	326,829	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	1,250,000	0
執行率(%) / 増減率(%)	87.3 / +425.9	74.8 /	一般財源	468,744	326,829
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
② 初心者向けスマートフォン講座(新規事業)実施により事業費が増加したため。			地域の絆でまちづくり基金繰入金 1,250,000円		
事業コスト	事業費	人件費(1.00人役)	計		
決 算 額	1,719 千円	6,949 千円	8,668 千円		
市民1人当たり(37,593人)	46 円	185 円	231 円		
事業の目的および内容					
(1) 社会教育行政に専門家や市民の意見を取り入れるため、社会教育委員会議を開催します。 (2) 出前講座やまなびサポーター制度により、市民の生涯学習活動を支援します。 (3) デジタル活用の普及促進に向けて、初心者に対応した体験型のスマートフォン講座を開催します。					
事業の実績					
(1) 社会教育委員会議(社会教育委員 12人) 報酬 220,000円 社会教育委員会議や学校の取組視察により「多世代交流型コミュニティ・スクール」について調査研究し、提言書を作成しました。 社会教育委員会議 3回 学校視察 8回					
(2) 出前講座事業 市民の依頼に応じて市職員等が講師となり、市民のくらしや生涯学習の推進に役立つ情報を提供しました。 利用実績：145回(令和3年度 138回)					
(3) まなびサポーター事業 市民が指導者として、地域等へ講座に出向く制度の運用を行いました。 学びサポーター登録者数：123人 利用実績：7回(令和3年度 12回)					
(4) 初心者向けスマートフォン講座 1,250,000円 各学びあいステーション4か所を会場に参加者の理解度に応じた4種類の講座を実施しました。 開催回数：40回 参加人数：延べ190人					



【出前講座】



【スマートフォン講座】

事業の成果等

- (1) 社会教育委員から「多世代交流型コミュニティ・スクール」の提言書を教育委員会へ提出し、教育委員と意見交換を行うことで、地域課題等について情報共有することができました
- (2) 出前講座およびまなびサポーター事業は、自治会等地域の団体や学校などから、積極的に利用いただき、米原市の歴史、防災や健康・福祉のメニューなど様々な情報を提供することができました。
- (3) 高齢者を対象にスマートフォン講座を開催し、基本操作学習や防災アプリの利用などデジタル活用を推進することができました。また、受講者アンケートの満足度では、95%の高評価となりました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
生涯学習情報の 発信・環境づくり	生涯学習まちづくり出前講座 (年間実施回数)	300回	145回	48.3%	C
地域で活躍する 人材の育成	まなびサポーター登録者数	145人	123人	85%	A
学びの場の提供 (スマホ講座)	—	—	—	—	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)


コロナ禍の影響により、出前講座の実施回数が伸び悩んだ結果となりました。

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
生涯学習出前講座は、コロナ禍の影響により、集会形式での実施が難しい状況もありましたが、実施回数が微増となったことや初心者向けのスマートフォン講座の参加者満足度が95%あったことから、事業全体の評価をBとしました。	B

③事業の課題と今後の取組

生涯学習出前講座は、コロナ禍の制限緩和に伴い、前年度と比較し回復傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の5類への移行を踏まえ、実施回数の改善に向け、学校の活用も含め、情報発信に努めます。

事業番号		18			
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費
決算書					146 ~ 149 ページ
事業名				人権教育推進事業	
主管課				教育部 生涯学習課	
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	3,829,000	3,851,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	3,729,310	3,477,742	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	228,000	219,000
執行率(%) / 増減率(%)	97.4	+7.2	90.3	一般財源	3,501,310
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
			人権教育推進協議会等事業助成金 228,000円		
事業コスト		事業費	人件費(0.40 人 役)	計	
決 算 額		3,729 千円	2,780 千円	6,509 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		99 円	74 円	173 円	
事業の目的および内容					
<p>(1) 同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解消に向けて、人権意識や人権感覚を磨き、それぞれの立場で活躍いただける人材育成、人権教育推進を図るため、米原市人権教育推進協議会と連携を図りながら各種研修会や人権講座を開催し、人権学習の機会を創出します。</p> <p>(2) 人権意識の向上と地域の人権課題等を考える機会として、ハートフル・フォーラムを推進します。</p>					
事業の実績					
<p>(1) 人権教育推進協議会の活動支援および事業推進を行いました。</p> <p>①活動事業費に対する補助 1,258,197円</p> <p>②地域人権リーダー研修会 開催日：令和4年7月15日、7月29日 内容：ハートフル・フォーラムの説明、令和4年度テーマに関する人権啓発教材視聴</p> <p>③きらめき人権講座の開催(4回) 開催日：令和4年8月19日、9月15日、10月7日、11月24日 場所：本庁舎・市民交流プラザほか 参加人数：186人(令和3年度 130人) 内容：LGBTQ、多文化共生、SDGsと人権など</p> <p>④ハートフル・フォーラムの自治会での開催 令和4年度推奨テーマ「超高齢化社会とひきこもり(8050問題)」 58自治会で開催 実施率53.7%(令和3年度 57.9%)</p> <p>⑤2022人権を考えるつどい米原(人権政策課と共催で動画配信) 内容：啓発DVDの作成および放送、人権カレンダー作成など</p> <p>(2) 同和教育推進本部研修会 開催日：令和5年2月14日 場所：本庁舎 参加人数：35人(令和3年度 20人) 内容：「人権を身近に感じよう～同和問題を中心に据えて～」 講師：杉本正紹氏</p>					
				 <p>【人権リーダー研修会】</p>	

事業の成果等					
<p>(1) 地域人権リーダー研修会やきらめき人権講座等を開催し、8050問題やLGBTQなど多様な人権問題について学び、それぞれの立場で活躍する人権リーダーの意識の向上を図ることができました。</p> <p>(2) 地域や家庭での学習の場であるハートフル・フォーラムを推進し、市民に人権学習の機会を提供することができました。また、コロナ禍の影響により集会形式での実施が難しい事情も考慮し、人権啓発チラシを作成することにより、人権啓発の推進に努めました。</p>					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
人権教育・ 人権啓発の推進	ハートフル・フォーラムの実施率	85%超	53.7%	63.1%	B
人権教育の担い手 の育成	地域人権リーダー研修会の参加者数	260人	142人	55%	C
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
コロナ禍の影響により、リーダー研修会は、参加者数が伸び悩んだ結果となりました。					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
ハートフル・フォーラムやリーダー研修会は、コロナ禍の影響により、集会形式での実施率の改善が難しい状況でありましたが、ハートフル・フォーラムのアンケート結果による満足度は90%あり、推奨テーマ等、研修は充実した内容であったことから、B評価としました。					B
③事業の課題と今後の取組					
新型コロナウイルス感染症の5類への移行を踏まえ、ハートフル・フォーラムの実施率改善に向け、リーダー研修会での呼び掛けや説明を工夫することで、取組改善を図ります。					

事業番号		19			
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費
決算書				146 ～ 149 ページ	
事業名				地域人材育成事業	
主管課				教育部 生涯学習課	
事業費(円)		令和4年度		令和3年度	
予算額		619,000		718,000	
うち繰越		0		0	
決算額		537,456		613,660	
うち繰越		0		0	
執行率(%) / 増減率(%)		86.8 ▲ 12.4		85.5 /	
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)		その他の内訳(令和4年度)			
		社会教育事業関係受講料			

事業の成果等

- (1) 多彩な講師陣によるまちづくりに関する幅広い講義を通じて、グループワークやフィールドワークを含め学生のニーズに沿った学びのカリキュラムを進めたことで、各自が研究テーマについての検討を深めることができました。
- (2) 公開講座により、様々な事例やまちづくりについての学びの場を広く市民へ提供することができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
ルッチまちづくり大学の開講	—	—	—	—	A
市民公開講座の開催	—	—	—	—	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
ルッチまちづくり大学は、フィールドワークを含めた2年目のカリキュラムを順調に進めることができたほか、市民公開講座も当初計画4回より、多く実施することができたことから、事業全体の評価をAとしました。	A

③事業の課題と今後の取組

地域で活躍する人材育成を図るため、ルッチみらい会議で幅広い意見や助言を求めながら、より良い大学の運営に努めます。

事業番号		20			
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費
				決算書	146 ～ 149 ページ
事業名		文化のまちづくり事業			主管課 教育部 生涯学習課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	4,387,000	4,387,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	4,331,041	4,295,749	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	2,156,280	2,129,000
執行率(%) / 増減率(%)	98.7 +0.8	97.9 /	一般財源	2,174,761	2,166,749
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
			地域の絆でまちづくり基金繰入金 2,156,280円		
事業コスト		事業費	人件費(0.30 人 役)	計	
決 算 額		4,331 千円	2,085 千円	6,416 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		115 円	55 円	170 円	
事業の目的および内容					
(1) 芸術作品を創造し、鑑賞する喜びを享受し、文化の薫り高いまちづくりを目指して芸術展覧会を開催します。					
(2) 市民の文化活動の振興を図るため、米原市文化協会の事業に対する支援を行うほか、音楽祭の開催を通じて音楽活動者(団体)に対し発表の場を提供し音楽文化の向上を図ります。					
事業の実績					
(1) 米原市芸術展覧会の開催 2,141,011円 会期：令和4年5月21日～6月4日 来場者数：1,496人 (令和3年度 1,145人) 出品数： 絵画部門 54点(うち入選46点) 書部門 32点(うち入選28点) 写真部門 91点(うち入選65点) 合 計 196点					
					
			【第17回市芸術展覧会・ギャラリートーク】		
(2) 米原市文化協会事業補助金 2,156,280円 ①米原市文化協会 会員数：739人、団体数：69団体 ②作品展、企画展の開催 4支部（山東・伊吹・米原・近江）の活動に対する補助を行い、文化祭や作品展、盆梅展や菊花展等の事業が開催されました。					
					
			【文化協会 文化祭・作品展】		
(3) 第3回まいばら音楽祭の開催 33,750円 開催日：令和5年2月26日 来場者数：303人 (令和3年度 80人) 出場組数：11組 94人					
					
			【まいばら音楽祭】		

事業の成果等					
<p>(1) 芸術展覧会については、ギャラリートークや審査員による作品講評会を行ったほか、前年度を大きく上回る来場者に芸術鑑賞の機会を提供することができました。</p> <p>(2) 文化振興事業では、コロナ禍で延期していた節目となる第50回山東文化祭の開催や地域住民参加のみんなの作品展、盆梅展のほか個々のサークルの発表会など、文化協会への支援を通じて市民の文化活動・交流の推進を図ることができました。</p>					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
文化のまちづくりの推進	芸術展覧会への市民作品出展数	100点	54点	54.0%	C
文化施設の運営と利用促進	文化協会事業への参加団体数	100団体	89団体	89%	A
文化協会の組織強化の推進	文化協会加盟団体数	75団体	69団体	92%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
芸術展覧会は、市内外から広く作品を募集し開催していますが、市民の出展数は、近年、横ばいとなっています。					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
芸術展覧会は、展覧会の来場者数は大幅に増えたものの成果指標が目標に達していないためC評価としましたが、文化協会の運営推進は、各地域の学びあいステーションを拠点に活動され、前年度に一部で中止があった各支部での文化祭や発表会などが予定どおり事業実施されたことから、事業全体の評価をBとしました。					B
③事業の課題と今後の取組					
文化協会は、会員の高齢化等により、加盟団体数が減少傾向にあり、課題が多くありますが、文化祭や展示等の発表の場を中心に事業支援を行う必要があります。また、今後の取組として、文化・芸術部門の発表の場は、若い世代の参加の場づくりが必要と考えています。					

事業番号		21			
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費
決算書				146 ～ 149 ページ	
事業名				市民交流プラザ管理運営事業	
主管課				教育部 生涯学習課	
事業費(円)		令和4年度		令和3年度	
予算額		58,186,000		67,176,000	
うち繰越		0		0	
決算額		55,284,405		63,047,909	
うち繰越		0		0	
執行率(%) / 増減率(%)		95.0 ▲ 12.3		93.9 /	
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)				その他の内訳(令和4年度)	
				市民交流プラザ施設使用料	

事業の実績

(3) 貸館事業

令和4年度ホール利用件数（貸館）162回 利用者数（貸館）12,561人
 （令和3年度 （貸館）165回 利用者数（貸館）9,850人）

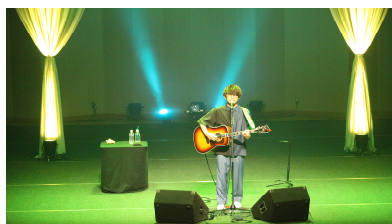
(4) ベルホール310、スタジオ稼働率

令和4年度	開館 日数	ベルホール310		スタジオ	
		稼働日数	稼働率(%)	稼働日数	稼働率(%)
4月	26	4	15.4	15	57.7
5月	26	6	23.1	15	57.7
6月	26	23	88.5	15	57.7
7月	27	13	48.1	13	48.1
8月	26	15	57.7	13	50.0
9月	26	10	38.5	12	46.2
10月	26	15	57.7	16	61.5
11月	25	18	72.0	14	56.0
12月	23	16	69.6	11	47.8
1月	23	9	39.1	19	82.6
2月	24	18	75.0	15	62.5
3月	26	15	57.7	18	69.2
合計	304	162	53.3	176	57.9
令和3年度	308	165	53.6	188	61.0

- (5) 清塚信也ピアノコンサート(入場者367人) 川崎鷹也弾語りコンサート(入場者354人)
 県内屈指の音楽専用ホールで、幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるよう、テレビで人気の清塚信也ピアノコンサート、川崎鷹也弾語りコンサートを満席で開催することができました。



【清塚信也ピアノコンサート】



【川崎鷹也弾語りコンサート】



【りれーピアノ発表会 出場者】



【若き演奏家たちのコンサート】

(6) 施設外周工事

経年劣化により、ルッチプラザ外周通路の木造の橋りょう2基の更新を行いました。



【改修した橋りょう】

事業の成果等

(1) 新型コロナウイルス感染症の対策を図りながらwithコロナの中で、年間11回の自主企画事業を実施し、文化振興を図りました。特に、市内演奏者によるコンサートや若いピアノ奏者に目を向けたコンサートは、市内演奏者の育成に寄与したほか、注目度の高い新進気鋭のアーティストのコンサートを開催することにより、多くの来場者に県内屈指の音楽専用ホールの魅力に触れていただくことができました。

(2) 老朽化していたルッチプラザ東側の橋りょう2基を鉄筋コンクリート造に改修したことにより、利用者の利便性の向上と安全確保を図ることができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
自主公演事業	—	—	—	—	A
貸館事業	—	—	—	—	B


C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
貸館事業は、利用者人数は増えているものの稼働率が前年度並みであったため、評価をBとしましたが、特に自主公演事業の成果として、満席公演が2公演あり、入場料収入が大幅に増加したことから、事業全体の評価をAとしました。	A

③事業の課題と今後の取組

市民等の文化活動の交流拠点としての利用推進を図るとともに自主企画公演等を通じて、多くの方に来場いただけるよう、音楽ホール・複合施設としての魅力の発信に努めます。

事業番号		22				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
				決算書	146 ～ 149 ページ	
事業名		学びあいステーション管理運営事業			主管課	教育部 生涯学習課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度	
予算額	206,266,000	193,756,000	国 費	0	22,558,774	
うち繰越	990,000	26,900,000	県 費	0	0	
決算額	201,507,822	188,384,405	市 債	7,800,000	440,000	
うち繰越	990,000	23,539,980	そ の 他	990,000	2,331,980	
執行率(%) / 増減率(%)	97.7	+7.0	97.2	一般財源	192,717,822	163,053,651
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)			
			繰越事業費等充当財源繰越金 990,000円			
事業コスト		事業費	人件費(1.25 人 役)	計		
決 算 額		201,508 千円	8,686 千円	210,194 千円		
市民1人当たり(37,593 人)		5,360 円	231 円	5,591 円		
事業の目的および内容						
(1) 各施設では、生涯学習機能を核とした交流の場づくりに向けて、指定管理者のノウハウや特色を生かしながら、多様化する市民のニーズに対応する地域に根ざした学びの場として、より魅力的な施設の管理運営を行います。						
(2) 施設の適切な維持管理に努め、利用者が快適に利用できるよう利便性の向上を図ります。						
事業の実績						
(1) 指定管理者により、各学びあいステーションの管理運営を行いました。コロナ禍での行動制限が緩和されつつある中、各施設が工夫を凝らして事業運営を行いました。						
①伊吹薬草の里文化センター 指定管理者：(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団						
指定管理委託料 58,584,910円						
利用者数：48,657人(令和3年度 32,935人)						
【実績】講座：40種 延べ87回開講 薬草風呂利用者数：22,679人(令和3年度 16,043人)						
②米原学びあいステーション 指定管理者：(特非)FIELD						
指定管理委託料 31,803,995円						
事業：認知症予防講座、着付け教室等の講座、企画展示、ロビーコンサートなどを開催						
利用者数：41,722人(令和3年度 32,312人)						
【実績】講座：24種 延べ265回開講						
③近江学びあいステーション 指定管理者：(特非)おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会						
指定管理委託料 37,980,236円						
利用者数：33,814人(令和3年度 30,184人)						
【実績】講座：19種 延べ169回開講						
④山東学びあいステーション 指定管理者：(特非)カモンスポーツクラブ						
指定管理委託料 32,236,331円						
事業：ピラティス講座やパソコン教室、さつきまつり、書初め展などを開催						
利用者数：19,673人(令和3年度 13,312人)						
【実績】講座：24種 延べ111回開講						
(2) 備品・改修工事等						
エレベーター改修工事(米原) 10,890,000円						
LED照明設備工事(近江・山東) 9,828,500円						
音響設備備品(近江)【繰越】 990,000円						
						
				【LED照明設備工事(山東)】		

事業の成果等					
<p>(1) 指定管理者による適切な維持管理の下、施設の利用緩和により新たな利用者の確保や、市民ニーズに沿った新規の講座や教室が展開され、各施設とも利用者数の増加につなげることが</p> <p>(2) 学びあいステーションの施設修繕を行い、利用者の安全確保と利便性を向上させることができました。特に、照明のLED化を推進することにより、施設の環境改善を図ることができました。</p>					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
学びの場の提供 (各施設の利用者)	—	—	—	—	B
学びの場の提供 (サークル化)	学びあいステーションの講座受講者が サークル化した団体数	10団体	3団体	30%	C
社会教育施設の 管理運営	市民意識調査「生涯学習の推進」の満 足度	85%超	85.9%	100%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
学びあいステーションの講座受講者がサークル化した団体数は、5年後の累計目標であるため、1年目は達成率は低くなっています。					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
令和5年度に実施された市民意識調査において、全体的な「生涯学習の推進」の満足度が85.9%であったため、当該目標は、目標達成としてA評価としました。しかしながら、個別の取組内容は、各施設の利用者数等が回復傾向にあるものの、現状は、回復途上中としてB評価としました。					B
③事業の課題と今後の取組					
令和5年度に実施された市民意識調査において、学びあいステーションを利用したことがない割合が70.3%となっていることから、各施設の認知度の向上に向け、学びあいステーション運営審議会等を通じて、市民意見を聞きながら、より良い施設運営に努めます。					

事業番号	23						
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費	決算書	148 ~ 149 ページ
事業名	次代を担う青少年育成事業				主管課	教育部 生涯学習課	
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)		令和4年度	令和3年度	
予算額	632,000	660,000	国 費		0	0	
うち繰越	0	0	県 費		0	0	
決算額	466,690	422,822	市 債		0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他		0	0	
執行率(%) / 増減率(%)	73.8	+10.4	64.1		一般財源	466,690	422,822
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)				その他の内訳(令和4年度)			
① 記念品の単価が入札により安価になったため。							
事業コスト		事業費		人件費(0.35 人 役)	計		
決 算 額		467 千円		2,432 千円	2,899 千円		
市民1人当たり (37,593 人)		12 円		65 円	77 円		
対象者1人当たり (392 人)		1,191 円		6,204 円	7,395 円		
事業の目的および内容							
<p>(1) 二十歳を迎えた青年が、今日まで支えてくれた家族や友人、地域社会などに対する感謝の気持ちを改めて認識するとともに、社会貢献していくことを誓い合う場として、また夢と希望にあふれる青年を祝福する場として式典を開催します。</p> <p>(2) 対象者で構成される二十歳のつどい実行委員が主体となり、オープニングアトラクション、二十歳のメッセージ、思い出アルバム等の内容を検討し、当日の式典を運営します。</p>							
事業の実績							
<p>二十歳を迎えた青年の新しい門出を祝福する場、今後の人生への希望や決意とともに大人としての責任感や社会貢献について認識してもらう場として二十歳のつどいを開催しました。</p> <p>有志による実行委員会を組織し、企画運営を行い、2部構成で当日の式典を行いました。</p> <p>(2) 二十歳のつどいの開催</p> <p>日 時 : 令和5年1月8日</p> <p>①山東・伊吹地区 / 12時30分～</p> <p>②米原・近江地区 / 15時～</p> <p>場 所 : 市民交流プラザ</p> <p>対象者数 : 392人</p> <p>参加者数 : 332人 (うち①155人、②177人)</p> <p>参 加 率 : 84.7% (令和3年度 81.5%)</p>							
<p>【式典内容】</p> <p>(歌唱、ピアノ演奏)</p> <p>2 市長式辞</p> <p>3 来賓祝辞</p> <p>4 二十歳のメッセージ</p> <p>5 思い出アルバム上映</p> <p>記念品 (タンブラー) 267,520円</p>							
				 <p>【二十歳のつどい実行委員会】</p>			
				 <p>【二十歳のつどい 式典】</p>			

事業の成果等

- (1) 2部制による分散開催やマスク着用などの感染症対策を行い二十歳のつどいを開催し、参加率が84.7%と県内で一番となり、多くの方に参加していただくことができました。また、式典対象者の有志による企画会議を経て、実行委員主体の二十歳のつどいを開催することができ、大人としての自主性を高める機会を提供することができました。
- (2) コロナ禍で式典当日に来場できない方や保護者の方に向けて、YouTubeで式典の動画を公開しました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
二十歳のつどいの開催	—	—	—	—	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
二十歳のつどいは、コロナ禍の中で、2部制の分散開催としてルッチプラザで実施したところ、参加率が84.7%と前年度を上回り、県内で一番の参加率であったことから、評価をAとしました。	A

③事業の課題と今後の取組

実行委員会を通じて当事者の意見や企画を反映し、引き続き事業を実施します。

事業番号		24						
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	4 文化財保護費			
決算書					150 ~ 153 ページ			
事業名		文化財保護事業			主管課	教育部 生涯学習課		
事業費(円)		令和4年度		令和3年度		財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額		22,663,000		22,114,000		国 費	3,331,000	5,290,000
うち繰越		0		0		県 費	63,000	1,706,000
決算額		21,160,756		20,142,993		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	8,998,500	6,067,000
執行率(%) / 増減率(%)		93.4	+5.1	91.1		一般財源	8,768,256	7,079,993
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)						その他の内訳(令和4年度)		
						社会教育事業関係受講料 147,500円		
						地域の絆でまちづくり基金繰入金 8,851,000円		
事業コスト		事業費		人件費(3.10 人 役)		計		
決 算 額		21,161 千円		21,542 千円		42,703 千円		
市民1人当たり(37,593 人)		563 円		573 円		1,136 円		
事業の目的および内容								
各種文化財調査、指定文化財の維持管理や修理などを実施することで、米原市に伝わる数多くの文化財の保護および活用を図ります。 また、文化財保護法に基づき「文化財保存活用地域計画」の作成を進めます。								
事業の実績								
(1) 萬留帳翻刻調査事業 1,709,800円 柏原宿の様々な出来事を記録した貴重な資料である萬留帳(よろずとめちょう)について、保存と活用を図るため翻刻調査および報告書を刊行しました。 柏原宿萬留帳調査報告書 第8巻・第9巻刊行 各300部(計600部) 近江国坂田郡柏原村檜地峠調査報告書 200部								
(2) 文化財保護保存活動補助金 8,851,000円 まちの歴史や文化を次代に引き継ぐため、国・県・市指定文化財の維持管理、伝承活動、修理等に係る事業費に対し、関係団体に補助金を交付しました。(計22団体)								
(単位:円)								
団体名		事業名					金額	
米原曳山祭保存会		米原曳山祭伝承事業					900,000	
		米原曳山祭執行事業					3,600,000	
筑摩自治会(鍋冠祭保存会)		鍋冠祭保存会の伝承活動事業					80,000	
清滝自治会(清滝大松明保存会)		清滝の大松明の伝承活動事業					30,000	
長沢自治会(福田寺公家奴振保存会)		福田寺公家奴振保存会の伝承活動事業					28,000	
番場の歴史を知り明日を考える会		国史跡鎌刃城跡の保護活用事業					30,000	
流星保存会		流星打ち上げの維持管理活動事業					39,000	
柏原学区史跡保存会		国史跡北畠具行卿墓の保護活用事業					15,000	
大久保の史跡を守る会		市史跡長尾寺跡の保護活用事業					60,000	
岩脇まちづくり委員会		市史跡蒸気機関車避難壕の保護活動事業					49,000	
徳源院		国史跡他徳源院の保護活動事業					63,000	
		県指定徳源院三重塔耐震診断事業					2,114,000	
		市指定道誉桜の保存活用事業					40,000	
観音寺		重要文化財観音寺の保護活用事業(設備更新含む)					87,000	
青岸寺		国名勝青岸寺庭園の保存活用事業					200,000	
福田寺		国名勝他福田寺の保存活用事業					42,000	
		県指定福田寺御殿葺屋根小修理事業					198,000	

事業の実績

(単位：円)

団体名	事業名	金額
来照寺	県名勝来照寺庭園の保存活用事業	12,000
弥高さつま会	弥高寺跡維持管理事業	150,000
上平寺推進委員会京極氏戦国浪漫倶楽部	上平寺跡参道整備事業	150,000
湿原を考える会	山室湿原整備・活用事業	95,000
鴨と蛍の里づくりグループ	ゲンジボタルおよび三島池のカモの調査研究事業	200,000
松井家	県指定松井家住宅葺屋根小修理事業	250,000
松浦家	市指定松浦家住宅土蔵庇屋根瓦補修工事	170,000
甲賀自治会	重要文化的景観与九郎の滝整備事業	234,000

- (3) 文化財保存活用地域計画策定事業 2,406,380円
市内に所在する文化財およびその周辺の総合的な保存・活用等を図るため、文化財保存活用地域計画を作成しました。
(令和5年7月認定を目指します。)

- ①策定委員会の開催 3回(7月22日、10月25日、3月14日)
- ②計画(案)に対するパブリックコメント
意見募集期間：令和5年2月10日から3月3日
提出された意見等：23件(7人)
- ③シンポジウムの開催(2回)
令和4年11月6日開催(参加者31人)
令和5年3月5日開催(参加者45人)



【米原曳山祭】

- (4) 文化財発掘調査事業 5,909,117円
- ①八講師城跡の国史跡指定を目指し、令和4年度は、航空ヘリによる航空レーザー測量を実施し、赤色立体地図を作成しました。
 - ②市道顔戸・八田羽織線新設改良工事に伴い、高溝遺跡の発掘調査を実施しました。調査後には、これまで実施した市道の新設に伴う発掘調査の成果を展示しました。
発掘調査期間：令和4年5月10日から6月13日
顔戸遺跡群発掘調査速報展：令和4年8月6日から9月25日
(場所：近江はにわ館 入場者数：200人)



【地域計画シンポジウム】



【高溝遺跡出土状況】

- (5) 旧常喜医院の公開に向けた取組
- ①特別公開 令和4年9月4日(見学者 64人)
 - ②秋の茶会 令和4年11月27日(参加人数 55人)
 - ③伝来の名品展Ⅳ(近江はにわ館)
令和4年8月21日～9月23日(見学者 200人)



【旧常喜医院 秋の茶会】

事業の成果等

- (1) 萬留帳翻刻調査事業は、古文書の活字化などの基礎資料の蓄積と解説により、江戸時代幕末以降の柏原宿の姿を解き明かす2冊（明治・近代）の報告書と検地帳を作成し、全10巻を貴重な資料として記録保存することができました。
- (2) 文化財保護保存活動を支援することにより、貴重な指定文化財等を次代に引き継ぐための維持管理、伝承、修理活動に対する一助となり、米原曳山祭りは3年ぶりに実施され、子供歌舞伎を披露されました。
- (3) 市内の文化財を地域資源として総合的な保存・活用等を図るため、文化財保存活用地域計画の策定を進め、パブリックコメントやシンポジウムを通じて文化財に関する情報発信とともに文化庁の計画認定に向けた準備を整えることができました。
- (4) 八講師城跡の測量調査の結果、八講師城が従来の想定よりも発達した構造を備えていることが分かりました。また、市道顔戸・八田羽織線新設改良工事に伴う高溝遺跡の発掘調査では、弥生から飛鳥時代にかけて存続した沼の跡を検出し、この地域の集落遺跡を考える上で貴重な発見となりました。
- (5) 旧常喜医院の特別公開等により、広く文化財としての魅力を発信することができました。特に書院での茶会の開催は、今後の施設の利活用に向けて参考となりました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
歴史文化財の 保存活用	文化財等保存・伝承活動団体数 (補助事業申請団体数)	25団体	22団体	88.0%	A
文化財保存活動の 充実	市民意識調査「歴史・文化の継承と活用」の満足度	90%	88%	97.7%	A
歴史・文化の 魅力発信	歴史講座受講者数	70人	62人	88.6%	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
令和5年度に実施された市民意識調査において、「歴史・文化の継承と活用」の満足度が88%であったほか、歴史講座の受講者数や指定文化財の保護・伝承を図るため、各種団体の必要な事業に対し、支援を行うことができたことから、事業全体の評価をAとしました。	A

③事業の課題と今後の取組

コロナ禍で中止や延期等が続いていた伝統行事等の再開や継承についての活動支援とともに、今後に向けて、令和5年7月に文化庁認定を受けた「米原市文化財保存活用地域計画」に基づき、市民や関係者等への情報発信・PRなどを通じて、地域総がかりで「地域の宝」を利活用し、次世代へ継承する機運・体制づくりの取組を推進します。

事業番号		25					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	4 文化財保護費		
決算書		150 ～ 153 ページ					
事業名		文化財施設管理運営事業			主管課	教育部 生涯学習課	
事業費(円)		令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度	
予算額		21,123,000	21,950,000	国 費	0	1,254,741	
うち繰越		0	0	県 費	0	0	
決算額		20,773,753	21,139,997	市 債	0	0	
うち繰越		0	0	そ の 他	959,746	713,852	
執行率(%) / 増減率(%)		98.3	▲ 1.7	96.3	一般財源	19,814,007	19,171,404
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)				その他の内訳(令和4年度)			
				柏原宿歴史館入館料・使用料 479,970円			
				柏原宿歴史館施設管理経費負担金 198,836円			
				社会教育事業関係受講料 277,000円			
				公衆私用電話使用料等 3,940円			
事業コスト		事業費		人件費(1.60 人役)		計	
決 算 額		20,774 千円		11,118 千円		31,892 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		553 円		296 円		849 円	
事業の目的および内容							
文化財施設の適切な管理運営を行い、郷土の歴史や文化資料を保存活用し、市民文化の向上を図ります。							
事業の実績							
(1) 指定管理者により、各歴史文化施設の管理運営を実施しました。							
① 醒井宿資料館 4,534,261円							
指定管理者：醒井自治会							
年間施設入館者数：1,032人（令和3年度 569人）							
企画展示：絵画展（資料館）、陶灯り展（問屋場）							
② 伊吹山文化資料館 9,577,463円							
（うち指定管理委託料 9,140,000円）							
指定管理者：公益財団法人 伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団							
年間施設入館者数：2,180人（令和3年度 1,519人）							
企画展：6回（汽車土瓶展、昆虫写真展など）							
歴史アカデミー：11回							
こども体験教室：13回							
(2) 直営により管理運営を実施しました。							
柏原宿歴史館 6,319,549円							
（うち会計年度任用職員報酬等 3,952,894円）							
年間施設入館者数：2,444人（令和3年度 1,311人）							
(3) 文化財施設改修工事							
柏原宿歴史館LED照明改修工事 243,700円							



【陶あかり展】



【汽車土瓶展座談会】



【体験教室】



【陶あかり展】



【汽車土瓶展座談会】



【体験教室】

事業の成果等

(1) 各館の特徴を生かした事業を中心に、歴史や文化に親しんでもらう場を提供、コロナ禍の制限緩和の影響もあり各施設とも入館者数が増加しました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
資料館・歴史館の管理運営	歴史イベント開催回数	15回	24回	100%	A
各歴史文化施設の利用者	—	—	—	—	B


C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
各施設とも特色を生かした施設運営が行われ、コロナ禍の制限緩和により、歴史イベントの開催回数は、前年度より大幅に増加したことから、評価をAとしました。 また、施設の入館者数は、回復傾向にあるものの、現状は、回復途上中であることを踏まえ、事業全体の評価をBとしました。	B

③事業の課題と今後の取組

令和5年7月に文化庁認定を受けた「米原市文化財保存活用地域計画」に基づき、市民も含め、内外への情報発信・PRなどを通じて、各施設の特性を生かした施設運営に努めます。
また、伊吹山文化資料館と醒井宿資料館の2施設は、令和6年度末に指定期間が満了となるため、令和6年度に指定管理に係る指定管理者の公募等の手続を行います。

事業番号		26						
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	3 図書館費			
				決算書	148 ~ 151 ページ			
事業名		図書館管理運営事業			主管課	教育部 生涯学習課		
事業費(円)		令和4年度		令和3年度		財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額		93,164,000		61,107,000		国 費	0	1,561,402
うち繰越		2,200,000		0		県 費	0	0
決算額		88,921,061		56,813,401		市 債	14,900,000	560,000
うち繰越		2,129,600		0		そ の 他	9,055,913	55,578
執行率(%) / 増減率(%)		95.4	+56.5	93.0		一般財源	64,965,148	54,636,421
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)						その他の内訳(令和4年度)		
② 近江図書館の照明(LED化)改修を実施したことにより事業費が増加したため。						地域の絆でまちづくり基金繰入金 85,000円 米原ガンバレ！ふるさと応援寄付基金繰入金 6,800,000円 私用消耗品・印刷・地図等収入等 41,313円 繰越事業費等充当財源繰越金 2,129,600円		
事業コスト			事業費		人件費(2.90 人 役)		計	
決 算 額			88,921 千円		20,152 千円		109,073 千円	
市民1人当たり(37,593 人)			2,365 円		536 円		2,901 円	
事業の目的および内容								
(1) 図書館サービスの基本理念である「暮らしに寄り添い、地域とつながり、学び合える図書館」を目指し、誰もが身近に利用できる文化・情報拠点となるよう図書館運営に努めます。 (2) 子ども読書活動推進計画(第3次計画)に基づき、子どもの読書活動の推進に努めます。また、毎月23日の「まいばら読書の日」の更なる周知、啓発に努めます。								
事業の実績								
(1) 山東・近江図書館管理運営事業								
令和4年度			山東図書館			近江図書館		
図書購入費			4,740,320円			4,096,496円		
会計年度任用職員給料等			17,811,586円			13,405,444円		
			(+5.0%)			(▲2.8%)		
蔵書冊数(令和5年3月末現在)			149,394冊			144,868冊		
図書								
視聴覚資料			2,158点			—		
予約・リクエスト件数			9,695件			11,331件		
レファレンス件数			1,919件			1,220件		
【主な取組】 ブックスタート(毎月)、各種イベント(読書リレー、図書館ですごろく) 図書館協議会(4回開催)など								
(2) まいばら読書の日を周知するため、人形劇や毎月のプレゼ								
(3) ボランティアグループと協働で高齢者施設への配本等を3施設に延べ19回行いました。 まいばら協働提案事業補助金 85,000円								
(4) 設備工事等 近江図書館照明(LED化)改修 28,770,500円 近江図書館高圧受電設備改修【繰越】 2,129,600円								
								
						【まいばら読書の日 人形劇】		

事業の成果等					
<p>(1) 学校・園への団体貸出冊数を増加させることができたため、子どもたちが本と出会う機会を広げることができました。</p> <p>学校・園への団体貸出冊数：7,927冊（令和3年度：7,277冊）</p> <p>(2) 図書館の取組だけではなく、学校・園との連携とボランティアとの協働で、これまでから子どもの読書活動推進に取り組んできたことを評価していただき、令和4年度子供の読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰を受けました。</p>					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
子どもの読書環境の整備・充実	15歳以下の市民1人当たり図書館貸出冊数	18.0冊	12.3冊	68%	B
図書館利用の促進	市民一人当たり図書館貸出冊数	12.5冊	7.8冊	62%	B
図書館利用の促進	図書館のレファレンス満足度	100%	98.4%	98%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
<p>目標は達成できていませんが、前年度より利用を増やすことができたことから評価をBとしました。とくに、子どもの読書について、読書リレーやすごろくなど継続して楽しく利用できる取組を行ったことで貸出冊数を増やすことができました。また、ボランティアグループと協働で高齢者施設への読書支援を始めたことで、来館困難な市民が本と出会う機会を増やすことができました。</p>					B
③事業の課題と今後の取組					
<p>情報発信や事業を工夫することで、市民の利用を促進し、市民が本と出会える機会の充実に努めます。</p> <p>子どもの読書について、「まいばら読書の日」の取組を学校・園・図書館等が更に連携して行う必要があります。</p> <p>来館困難な市民が本と出会える機会を増やす取組を更に推進する必要があります。</p>					

事業番号		27					
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	2 体育施設費		
				決算書	152 ～ 155 ページ		
事業名		体育施設管理運営事業			主管課	教育部 スポーツ推進課	
事業費(円)		令和4年度		令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額		145,713,000		252,118,000	国 費	0	28,506,354
うち繰越		0		100,600,000	県 費	0	0
決算額		139,107,279		246,783,411	市 債	15,800,000	111,100,000
うち繰越		0		98,333,500	そ の 他	30,743,800	16,181,500
執行率(%) / 増減率(%)		95.5	▲ 43.6	97.9	一般財源	92,563,479	90,995,557
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)					その他の内訳(令和4年度)		
					ウッドピアいぶき使用料 6,600円		
					番場多目的広場使用料 137,200円		
					B & G財団助成金 14,600,000円		
					スポーツ振興くじ助成金 16,000,000円		
事業コスト		事業費		人件費(1.30 人 役)		計	
決 算 額		139,107 千円		9,034 千円		148,141 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		3,700 円		240 円		3,940 円	
利用者1人当たり(141,233 人)		985 円		64 円		1,049 円	
事業の目的および内容							
(1) 誰もが身近で安全、安心にスポーツができるよう市内体育施設の維持管理に努めます。							
(2) 市内の各種スポーツ団体と連携し、身近な場所でスポーツに親しむことができる機会を創出します。							
事業の実績							
(1) 指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託しました。							
①山東グラウンド、市民体育館 指定管理者：NPO法人カモンスポーツクラブ							
指定管理委託料：3,087,060円							
利用者数：グラウンド 8,517 人 (令和3年度 7,776 人)							
体育館 12,610 人 (令和3年度 2,683 人)							
②近江グラウンド 指定管理者：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会							
指定管理委託料：1,045,000円							
利用者数：グラウンド 4,374 人 (令和3年度 2,318 人)							
③双葉総合体育館 指定管理者：一般社団法人近江スポーツクラブ							
指定管理委託料：12,584,508円							
利用者数：体育館 17,179 人 (令和3年度 15,343 人)							
④山東B&G海洋センター 指定管理者：株式会社スポーツプラザ報徳							
指定管理委託料：15,988,000円							
利用者数：プール 28,565 人 (令和3年度 27,686 人)							
体育館 7,681 人 (令和3年度 7,621 人)							
⑤伊吹B&G海洋センター、伊吹第1・第2グラウンド、伊吹テニスコート							
指定管理者：公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団							
指定管理委託料：15,670,000円							
利用者数：プール 3,253 人 (令和3年度 2,296 人)							
第1グラウンド 18,692 人 (令和3年度 15,176 人)							
第2グラウンド 3,031 人 (令和3年度 2,787 人)							
テニスコート 1,464 人 (令和3年度 1,263 人)							
⑥すぱーく米原、米原野球場、息郷体育館 指定管理者：NPO法人MOSスポーツクラブ							
指定管理委託料：10,875,000円							
利用者数：すぱーく米原 9,816 人 (令和3年度 8,677 人)							
野球場 3,046 人 (令和3年度 2,537 人)							
体育館 1,804 人 (令和3年度 1,628 人)							

事業の実績

(2) 社会体育施設の維持管理に必要な業務を行いました。

施設維持管理委託料（河南中グラウンド、番場多目的広場等）

3,317,174 円

修繕費（息郷体育館照明、山東B&G海洋センタープールテント修繕ほか）

1,792,045 円

(3) 社会体育施設の改修を行いました。

伊吹B&G海洋センター改修工事監理業務

555,500 円

伊吹B&G海洋センター改修工事

37,703,600 円

（プール棟屋根膜等張り替え、照明LED化、トイレ改修等）

近江グラウンド防球フェンス設置工事

32,699,700 円

山東B&G海洋センター体育館バスケットゴール撤去工事

619,960 円

伊吹B&G



【改修工事前】



【改修工事後】

近江グラウンド



【改修工事前】



【改修工事後】

事業の成果等					
(1) 指定管理者による体育施設の適切な維持管理を行い、多様な市民ニーズに対応したスポーツ活動の場を提供することができました。 (2) 必要な施設の修繕を行い、市民が安全・安心にスポーツや運動に親しむ環境を提供することができました。 (3) 番場多目的広場は、年間を通して芝生植生の適正な維持管理を行うことができました。一方で、施設の利用促進や維持管理経費などの課題解決に向けて、今後の施設の在り方を検討する必要があります。					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
スポーツ施設の管理運営	米原市民意識調査「スポーツの推進」の満足度	85%	83.1%	97.8%	A
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
令和5年4月10日から5月8日の間で実施された米原市民意識調査において、「スポーツの推進」の満足度が83.1%であったため、目標達成率が97.8%となったことから、A評価としました。					A
③事業の課題と今後の取組					
施設の老朽化が進んでおり、誰もが安心安全にスポーツを楽しむ環境を維持するため、計画的な改修を行い、施設の長寿命化に努めます。 施設の利用者数は、前年度（令和3年度）と比較して、全施設で上回ったものの、コロナ禍以前（令和元年度）と比べると、まだまだであるため、スポーツ活動を推進する取組が必要と考えています。					

事業番号		28						
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	3 体育振興費			
決算書				154 ～ 157 ページ				
事業名		スポーツ推進事業			主管課	教育部 スポーツ推進課		
事業費(円)		令和4年度		令和3年度		財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額		47,875,000		43,213,000		国 費	0	0
うち繰越		0		0		県 費	1,040,110	1,053,085
決算額		45,494,076		37,862,349		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	2,880,000	7,278,000
執行率(%) / 増減率(%)		95.0 +20.2		87.6		一般財源	41,573,966	29,531,264
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)					その他の内訳(令和4年度)			
					地域の絆でまちづくり基金繰入金 2,880,000円			
事業コスト			事業費		人件費(3.70 人 役)		計	
決 算 額			45,494 千円		25,711 千円		71,205 千円	
市民1人当たり(37,593 人)			1,210 円		684 円		1,894 円	
事業の目的および内容								
(1) 子どもから高齢者までの各世代、障がいのある人など全ての人が、体力づくり、健康づくり生きがいづくりなど、様々な目的でスポーツに親しむ機会や環境を提供し、市民の生涯スポーツを推進します。								
(2) 競技スポーツにおいて、全国大会等に出場する選手を支援するとともに、優秀な成績を収めた選手を表彰し、市民のスポーツや運動に対する関心を高めます。								
(3) 令和7年度に滋賀県で開催される第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会に向けて実行委員会を設立し、準備業務を行います。								
(4) 国スポ・障スポ大会で活躍が期待される選手を指定し競技力強化を支援します。								
(5) 国スポ大会において、本市が会場となるホッケー競技の認知度向上および普及を推進します。また、競技力向上およびホッケーの盛んなまちとしての機運醸成を図ります。								
(6) 30年余りの歴史を持つ夢高原かつとび伊吹については、登山道の荒廃により継続困難となったことから、令和4年度をファイナル大会（3回目まで）として開催します。								
事業の実績								
(1) 若者から高齢者まで多くの市民が気軽に参加できる軽スポーツや運動指導に向けて、スポーツ推進委員が各種研修会へ参加し、出前講座での指導や実技勉強会を開催しました。								
スポーツ推進委員報酬（委員数：32人）						1,216,000円		
【主な活動内容】								
①会議（年4回開催） ②実技勉強会（年12回開催）								
③各種研修会への参加（滋賀県いきいき研修会など）								
④出前講座（年5回開催）								
⑤スポーツイベントへの協力（かつとび伊吹、ジョイスポパーク）								
【スポーツ推進委員】								
(2) 市民のスポーツ推進を図るため、各種スポーツ団体へ補助金を交付し活動支援を行いました。								
①市スポーツ協会（加盟競技団体数：18団体、加盟構成人数：1,657人）						2,765,795円		
②市スポーツ少年団（加盟数：16単位団、団員：439人、指導者：76人）						2,447,713円		
③総合型地域スポーツクラブ（市内4クラブ）						2,000,000円		
④（公財）伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団						23,558,000円		
スポーツ・運動教室開催状況		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度
いぶきスポーツクラブ		20教室		21教室		14教室		32教室
カモンスポーツクラブ		17教室		19教室		16教室		30教室
MOSスポーツクラブ		20教室		19教室		10教室		23教室
近江スポーツクラブ		20教室		20教室		18教室		18教室
(3) 競技スポーツにおいて優秀な成績を収めた選手を表彰し、全国大会等に出場する選手を支援しました。								
スポーツ選手大会出場激励金（82件／296人）						1,193,000円		

事業の実績

- (4) 国スポ・障スポ大会の開催に向けて、米原市実行委員会を上げるとともに、市が正式種目のホッケー、デモンストレーション競技のフットサル・ユニホックの会場に決定されたことを記念したイベントとして「ジョイスポパーク」を開催しました。

国スポ・障スポ大会関連事業

820,865円



湖国の感動 未来へつなぐ
わたSHIGA輝く
国スポ・障スポ2025



【設立総会】



【第1回総会】

国スポ・障スポ開催決定記念イベント「ジョイスポパーク」の開催

日時：令和4年11月3日 会場：伊吹第1グラウンドおよびOSPホッケースタジアム

参加者数：約2,000人（スタッフ含む）

特別ゲスト：ロッチ中岡氏（日本ホッケー協会公認アンバサダー）ほか



【開会セレモニー】



【各種体験ブース】



【デモンストレーションゲーム】

- (5) 国スポ・障スポ大会に向けて活躍が期待される選手を指定し、競技力強化を支援しました。

国スポ・障スポ大会選手育成強化交付金（個人選手9人、団体7団体）

880,000円

- (6) 国スポ大会でのホッケー競技開催を見据えて、ホッケーの普及および認知度向上に取り組みました。

- ① スポーツ国際交流員（SEA）による普及活動

小学校の体育授業や、中学校の部活動、総合型地域スポーツクラブの教室などで、指導アシスタントとして活動しました。



【SEAの普及活動】

4,616,018円

- ② ホッケー競技普及推進事業委託料

米原地域と近江地域を対象に、ホッケー競技の認知度向上と競技人口の拡大を図りました。

委託先：特定非営利活動法人MOSスポーツクラブ

ホッケー教室（通年事業）

22回

〃（体験教室）

15回



【ホッケー体験教室】

500,000円

- ③ ホッケー競技力向上振興事業補助金

国内最高峰のホッケーリーグに参戦する地元男子クラブチーム「ブルースティックス滋賀」の母体である一般社団法人ホッケーアカデミー滋賀を支援し、ホッケー競技の普及と競技力の向上につなげることができました。

レギュラーシーズン：3位（全10チーム）

ファイナルステージ：4位（H2リーグ残留）



1,000,000円

- (7) 夢高原かつとび伊吹ファイナル大会を開催し、36年の歴史に幕を下ろしました。大会出場のランナー総数は延べ3万人を超え、ボランティアスタッフの総数は延べ約1万人となりました。

申込人数：576人、参加者数：503人、完走者数：490人



【閉会セレモニー】

- (8) 中学校の部活動の地域移行に向けて、実践研究に取り組みました。

地域運動部活動推進事業委託料

1,002,870円

委託先：（公財）伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団

対象：伊吹山中学校ホッケー部（男女）卓球部（男女）

事業の成果等					
<p>(1) 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、総合型地域スポーツクラブや市スポーツ協会、市スポーツ少年団など各種スポーツ団体に対する活動を支援するとともに、スポーツ推進委員会を中心に軽スポーツの普及活動を行うなど、誰もが気軽にスポーツに親しめる機会を確保できました。</p> <p>(2) 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催に向けた組織の設立や、国スポ・障スポ開催決定記念イベントの開催により、大会の成功に向けた機運を高めることができました。また、スポーツ国際交流員が中心となり、ホッケー競技の普及促進に取り組むことができました。</p>					
①取組ごとの評価					
取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
特色を生かしたスポーツの推進	スポーツボランティア参加者数	1,000人	367人	36.7%	C
地域スポーツの振興	地域スポーツクラブ会員数	1,300人	992人	76.3%	B
スポーツ活動等への支援	スポーツ協会加盟人数	2,300人	1,657人	72.0%	B
C評価となった理由(C評価のみ記入)					
新型コロナウイルス感染症の影響等によって、イベントの開催が見送られたり、規模が縮小されるなど、出役していただく機会が減少したため。					
②事業の総合評価					
評価の理由					総合評価
スポーツボランティア参加者数は、目標値を大幅に下回っているため、C評価としていますが、地域スポーツクラブ会員数とスポーツ協会加盟人数は、B評価のため、事業全体としては、B評価としました。					B
③事業の課題と今後の取組					
コロナ禍の影響もあって、ここ数年は、クラブ会員数、協会加盟人数とも減少方向にあるため、令和7年に開催される第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会に向け、市内全域において、様々な活動を通じて機運醸成を図るなど、スポーツをすることはもちろんのこと、関心を持っていただける取組が必要と考えています。					

事業番号		29						
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費			
決算書				148 ～ 149 ページ				
事業名		次代を担う青少年育成事業			主管課	くらし支援部 子育て支援課		
事業費(円)		令和4年度		令和3年度		財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額		4,442,000		4,408,000		国 費	0	0
うち繰越		0		0		県 費	500,000	500,000
決算額		4,328,483		3,909,178		市 債	0	0
うち繰越		0		0		そ の 他	0	0
執行率(%) / 増減率(%)		97.4	+10.7	88.7		一般財源	3,828,483	3,409,178
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)					その他の内訳(令和4年度)			
事業コスト			事業費		人件費(0.60 人役)		計	
決 算 額			4,328 千円		4,169 千円		8,497 千円	
市民1人当たり (37,593 人)			115 円		111 円		226 円	
事業の目的および内容								
子どもが心豊かに伸び伸びと育つまちづくりを進めるため、青少年の健全育成や地域で子どもを育てる環境づくり、子どもの成長の基幹となる家庭の教育力向上のため、関係団体への活動助成を行います。								
(1) 青少年育成市民会議では、定期的にあいさつ運動やパトロールを行い、子どもの見守り、安全確保、青少年の健全育成や非行防止に努めます。								
(2) 子ども会育成連合会では、創作体験事業や支部事業など、各種団体と連携しながら地域での異年齢交流や体験の場を提供します。また、小学校5・6年生を対象にしたジュニアリーダー養成講習会を実施し、地域に愛着を持った次代を担うリーダーの育成に努めます。								
(3) PTA連絡協議会では、家庭の教育力向上や学校、家庭、地域の連携の強化を図ります。								
事業の実績								
(1) 青少年育成市民会議 補助金 869,010円								
青少年健全育成、子どもの安全確保、非行防止・環境浄化、家庭教育・子育て支援等の活動支援								
①あいさつ運動の実施：年間9回 毎回約250人参加								
②青少年育成大会：新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため表彰式を一部縮小し開催								
③巡回パトロールの実施：年間30回以上								
④支部ごとの事業（軽スポーツ事業、創作体験事業等）を行い、体験や異世代交流の場を提供								
(2) 子ども会育成連合会 補助金 944,639円								
①ふれあいの里フェスティバル（創作体験事業）								
令和4年10月23日、3年ぶりにグリーンドームで開催。参加者638人								
②各単位子ども会（59団体）への助成（令和3年度 68団体）								
※支部事業（3支部）については、山東、伊吹地域で開催								
③ジュニアリーダー養成講習会：新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止								
④子ども会活動実践記録「ほたる第18集」の発行								
⑤会員数：1,211人（令和3年度 1,347人）								
(3) PTA連絡協議会 補助金 156,000円								
市内のPTA会員の家庭の教育力向上および教育啓発事業等への活動助成								
①教育講演会：令和4年10月15日 本庁舎コンベンションホール								
117人参加（講師：仲島正教氏）								
②会員数：2,865人（令和3年度 3,226人）								
③単位PTA：19団体（令和3年度 20団体）								

事業の成果等

青少年育成市民会議では、あいさつ運動や巡回パトロールを定期的実施し、青少年の健全育成と非行防止を図ることができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
(青少年育成市民会議) 青少年の健全育成の 推進	あいさつ運動実施率	9回	9回	100%	A
(青少年育成市民会議) 子どもの安全確保	子ども110番のおうち設置数	350か所	328か所	94%	A
(青少年育成市民会議) 子どもの安全確保	子ども110番のくるま設置数	110台	85台	77%	B
(子ども会連合会) ジュニアリーダーの 育成	ジュニアリーダー育成事業実施回数	12回	0回	-	C
PTA連絡協議会 活動の充実	PTA連絡協議会の広報発行回数	1回	1回	100%	A
PTA連絡協議会 教育講演会	子育てをテーマにした講演会の参加者 数	300人	117人	39.0%	C

C評価となった理由(C評価のみ記入)

(子ども会連合会) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、やむを得ず事業を中止した。
(PTA連絡協議会) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、人数制限を行ったため

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業もありましたが、他の事業については、概ね計画どおり実施できたことから、B評価としました。	B

③事業の課題と今後の取組

ポストコロナ、ウィズコロナの考え方およびアフターコロナを見据え、引き続き事業を実施する。

事業番号		30			
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費
決算書				148 ~ 149 ページ	
事業名		少年センター事業			主管課 暮らし支援部 子育て支援課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	5,001,000	5,572,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	1,336,500	1,231,500
決算額	4,893,603	4,861,023	市 債	0	0
うち繰越	0	0	そ の 他	0	0
執行率(%) / 増減率(%)	97.9	+0.7	87.2	一般財源	3,557,103
①執行率80%以下/②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
事業コスト		事業費	人件費(1.10 人 役)	計	
決 算 額		4,894 千円	7,644 千円	12,538 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		130 円	203 円	333 円	
事業の目的および内容 (1) 青少年の非行防止および犯罪の未然防止のため、少年補導委員や関係機関との連携の下、日常的な補導活動や有害環境浄化活動を実施します。 (2) 不登校、非行、無職少年やニート、ひきこもりの青少年およびその家族からの相談を受け、自立へ向けた支援を実施します。					
事業の実績 (1) 補導活動 ①街頭補導、深夜パトロール、登下校指導、声かけ活動を定期的に行いました。 主な街頭補導：県内一斉補導活動、挨拶運動、長浜市・彦根市との合同パトロール(延べ130回実施) ②職員および少年補導委員による補導活動を実施しました。 (2) 相談活動 少年およびその家族等からの不登校、いじめ、問題行動に関わる相談を若者自立ルーム「あおぞら」と連携し実施しました。 (3) 環境浄化活動 有害図書等立入調査、白ポスト、有害図書回収活動を実施しました。(月2回定期回収) (4) 啓発活動 ①少年の主張作文集を作成し、発行しました。(年1回、170部) ②薬物乱用防止啓発活動として、薬物乱用防止教室を実施しました。(年1回) (5) 研修および情報交換 ①少年補導委員の研修を実施しました。(年1回) ②小中学校、高等学校、警察、保護司会等との情報交換を実施しました。(訪問校数延べ40校) 【主な経費】 無職少年対策指導員報酬等(1人) 1,928,931円 少年補導委員報償費(37人) 545,000円 少年センター事務職員報酬等(1人) 1,725,989円					

事業の成果等

市教育委員会、米原警察署、少年補導委員等と連携し、パトロールや啓発活動、補導・指導活動を行うことで、青少年の非行防止や再発防止等の健全育成を図ることができました。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
補導活動	-	-	-	-	A
環境浄化活動	-	-	-	-	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
当初の予定どおりの活動が実施でき、少年センターの適正な運営が図れたことから、事業全体の評価をAとしました。	A

③事業の課題と今後の取組

少年センターの適正な運営が図れるよう、引き続き事業を実施します。

事業番号		31			
款	10 教育費	項	4 幼稚園費	目	1 幼稚園管理費
決算書					144 ～ 147 ページ
事業名		幼稚園管理運営事業			主管課 くらし支援部 保育幼稚園課
事業費(円)	令和4年度	令和3年度	財源内訳(円)	令和4年度	令和3年度
予算額	23,849,000	29,943,000	国 費	713,050	745,825
うち繰越	3,200,000	0	県 費	1,009,025	1,060,412
決算額	21,232,132	23,801,550	市 債	0	0
うち繰越	2,860,000	0	そ の 他	3,231,408	356,308
執行率(%) / 増減率(%)	89.0 ▲ 10.8	79.5	一般財源	16,278,649	21,639,005
①執行率80%以下 / ②増減率±50%以上の理由(令和4年度)			その他の内訳(令和4年度)		
			共済掛金負担金 5,508 円		
			一時預かり利用料 46,800 円		
			通園バス利用負担金 39,000 円		
			教育実習生受入金 235,000 円		
			特定教育・保育施設給食費負担金 45,100 円		
			繰越事業費等充当財源繰越金 2,860,000 円		
事業コスト		事業費	人件費(1.40 人役)	計	
決 算 額		21,232 千円	9,729 千円	30,961 千円	
市民1人当たり(37,593 人)		565 円	259 円	824 円	
事業の目的および内容					
(1) 保護者との連携の下、幼児教育およびチーム保育の充実を図り、地域に根差した特色ある園づくりを進めます。					
(2) 幼児教育・保育の無償化制度について、無償化対象事業（幼稚園型一時預かりなど）を利用する保護者に対して、無償となる要件や手続等を丁寧に説明します。					
(3) 親の就労状況や少子化等の社会変化により、園児数が大幅に減少している山東幼稚園について、昨年度の在り方検討委員会からの答申を踏まえ、今後の方針を検討します。					
(4) 経年により不具合が生じている山東幼稚園かもんホールの空調室外機を更新します。					
事業の実績					
(1) 市内特定教育・保育施設利用子ども数（令和5年3月31日現在）（単位：人）					
施設名	3歳児	4歳児	5歳児	合計	うち市外の園児
山東幼稚園	12	16	5	33	0
					利用定員
					定員充足率
					子ども数前年度比
(2) 園内研究会および研修会					
保育者の資質向上を目指して、次のとおり園内研究会等を開催しました。					
施設名	研究会	研修会	令和4年度研究主題		
山東幼稚園	7回	6回	「やってみたい」「やってみよう」と思える環境とは一年齢の発達を踏まえた環境の構成や教師の援助を探る一		
(3) 幼稚園型一時預かり事業					

事業の成果等

- (1) 計画的な園内研究会および園内研修会を開催することで保育者の資質向上に努め、幼児教育の充実を図りました。
- (2) 幼稚園の閉園について、方針決定とそれに伴う例規改正を行うことができました。跡地利用については、答申内容を尊重し、地域の今後の動向などを踏まえた総合的な判断の上で方針を決定していくこととします。

①取組ごとの評価

取組内容	成果指標名	目標値 R4年度	現状値 R4年度	目標達成率	評価 (A～C)
子育て支援の充実	市民意識調査の「子育て・子育て支援の充実」についての満足度	R8 90%	未実施 (R3 84.6%)	—	—
子育て支援の充実	市民意識調査の「米原市を子育てしやすいまちだ」と思う市民の割合	R8 85%	未実施 (R3 83.1%)	—	—
園経営	幼稚園学校評議員による園経営全体に関する評価点	3.2	4.0	125%	A

C評価となった理由(C評価のみ記入)

②事業の総合評価

評価の理由	総合評価
成果指標に掲げる目標において、達成率が100%を超えたことから、A評価としました。	A

③事業の課題と今後の取組

令和7年3月をもって山東幼稚園を閉園することが決定しましたが、閉園までの間、いぶき認定こども園との交流事業を実施しながら、子どもたちの集団での育ちや教育の場を確保していきます。

(3) 学校等の評価

「令和2年度米原市学校教育の指針」および「米原市保育の指針」の取組内容に関わる評価のため、以下の項目を各保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校ともに共通項目とします。校園における自己評価の結果や校園長の説明、保育や授業、行事の参観等を基に、評価と御意見をとりまとめました。

なお、評価の方法は、それぞれの項目について評価していただきました。

令和4年度

認定こども園運営委員・学校評議員による園評価

【公立認定こども園および幼稚園】

「米原市学校教育の指針」および「米原市保育の指針」の取組内容に関わる評価のため、以下の項目を認定こども園・幼稚園（以下「園」という。）共通項目とした。園における自己評価の結果や園長の説明、保育や行事の参観等を基に、評価と御意見をいただいた。

評価の方法は、それぞれの項目の評価の欄に次の記号（4：よくできている、3：できている、2：あまりできていない、1：できていない）で評価を記入していただき、御意見を求めた。

1 園経営全体に関わること

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
4.0	3.7	3.6	3.5	3.6

視点① 園の目指す園経営の基本や子ども像は、地域の子どもたちの実態に合っている。

- ・自然を上手く活用した保育や子どもたちの自主性が育まれる保育がとても感じられました。

視点② 園の教育（保育）目標、教育（保育）推進の基本、園の様子等を保護者や地域に分かりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される園づくりに取り組んでいる。

- ・園日より、クラス日より写真にコメント入れて、保育で何をねらっているのか書いてあるのはとてもいい。さらに、充実させて保護者、地域の人に発信を。
- ・地区住民や入園適齢期に乳児・幼児の育児をされている保護者の方からの認知度も深く、安心して入園されている。しかし、私の住んでいる自治会も数年前までは対象の乳児・幼児が数名いたが、今現在は、一人か二人。将来はというと対象児はいないということになる。地域の認定こども園をめざされているが、地域住民の意識はだんだん薄くなっている。地域の人におうみ認定こども園はどこにありますかと尋ねると「あのあたりにあるのとかうか」と言う言葉しか返ってこない。今年、乳児部・幼児部二人園長制ですが、このあたりのことはなかなか発信・検討ができない。保育幼稚園課ではそのあたりのことは検討済みだと思う。繰り返すが、総括園長の役割を重きにおいて、園全体のおうみ認定こども園保育計画を総括園長がしっかりと策定し、地域

のおうみ認定こども園をめざしてほしいと思う。

- ・運営委員会では、園の様子をわかりやすくパワーポイントで説明していただき、園での取り組みの様子がよく分かりました。今年度は、いろいろな行事が幅広く行えてよかったと思います。
 - ・園日よりでは、子ども達の活動の様子がよく分かり、写真もたくさん入っていて、いつも楽しみにしています。
 - ・園よりは写真が入っていることで、より園での様子が伝わってきて良かった。
 - ・降園時に、先生から子どもの様子を聞くと、とても安心しました。
-
- ・地域の協力が得やすい環境であり、引き続き恵まれた環境を活かすとともに、保護者とのかわりもきめ細やかに配慮した園運営に期待しています。
 - ・恵まれた自然の中で、それらを有効に使った教育を実践されていることに対し、敬意を表します。また、コロナ禍において試行錯誤しながら事業を展開されていることは、今後において大きな財産になることは間違いないと思います。

視点③ 園長のリーダーシップの下、教職員が課題を共有し、園の教育（保育）目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

- ・園長を中心に内外共によく取り組まれていると思います。
 - ・園長を中心に、園の教育目標の具現化に向けて一致協力して取り組んでおられると拝察します。
 - ・小規模園ならではの良さを最大限に生かし、子ども一人ひとりに温かく関わり、園全体で（職員皆で）幼稚園教育を繰り広げようとする雰囲気を感じた。また、一時預かり保育の実施により、子どもたちが午後の保育室へ行きたいという思いが強いと聞き、幼稚園ならではの家庭支援の取り組みが少しずつ定着していると感じた。
 - ・少人数ですが園児の元気な活動の姿から、小規模就学前教育施設としてのメリットを生かすことを重視して保育目標の達成に向けて取り組んでおられる姿がうかがえました。
 - ・小規模園であることを生かして、職員全員で全園児の保育をされているとのこと。園児や先生の名前も全員が互いに周知し、とても温かい雰囲気の中で保育ができているのは何よりです。それは小規模だから可能というわけではなく、園長のもと各学年の先生や職員が子どもの情報を共有し共通理解するなど、日頃の努力の積み重ねの賜物だと思います。異年齢児の交流についても、年長組さんのリーダーシップを促し、年中・年少組さんの手本となるよう縦の繋がりを築いてこられたのだと感じました。そこには、子どもたちと一緒に全力で楽しんでおられる先生方の姿があり、園全体が一つ一つの目標に向かいながら楽しめるって素敵だなと思いました。
 - ・基本的な生活習慣の形成は“こうしなさい”と大人先導ではなく、子どもがやる気と自信を持てるような指導が大切であると思う。また、家庭との連携も欠かせない。例えば“がんばりカード”をもとにした取り組みも継続されており、園・家庭と連携を図り今後も続けて欲しい。
-
- ・多くの職員構成でしかも雇用形態も多様なので職員間の意思疎通、共通理解、認識が大変難し

いことと思うが、今後も職員の良さを認め合える環境づくりを大切にしてほしい。今までも大変努力しておられることは、評価等からも感じている。

- ・子ども視線を大切にされているのがよく伝わる。運動会のみならず、日々の保育でも様々な工夫があり、先生方がよりよくしていこうという気持ちが伝わってくる。

- ・コロナ禍で制約を受けることが多かった子ども達。いろいろな場面で自分のありのままの姿でいられたのか、自分のやりたいことをやれたのか、思いをきちんと伝えられたのか、気になるところです。でも、視点①～⑦のすべてを満足させられるのか？今の環境で盛り沢山すぎて先生方のプレッシャー負担になっていないかと危惧します。特に、⑦の分野まで先生方の役目なのかと思いました。

- ・コロナ渦の実施困難な中、年齢に応じたカリキュラムを可能な限り実践に繋げるために話し合いを持ち、園児の心に残る体験活動を積み上げてこられたことが何よりも尊いと思います。
- ・常により良い方向へと園長先生のリーダーシップのもと進め取り組んでいただいています。多種の勤務状況の中で職員相互の理解・共有を図る努力をされ、子どもたちの対応が一貫しているように思います。

視点④ 特別支援保育推進に向け、障がいのある子どもの視点に立ち、子どものニーズを把握し、管理職およびコーディネーターを中心に、園ぐるみできめ細かな支援の充実を図っている。

視点⑤ 園の諸活動を応援する組織づくり等、保護者や地域との連携を図り、地域の教育力を生かした取組を積極的に推進している。

- ・園の良さ、実態を知ってもらうには、保護者、祖父母、地域の人に足を運んでもらうことだと思う。地域に愛され、開かれた園をめざしてほしい。
- ・近年のコロナ禍にかかわらず、園での取り組みに様々な行事や、子どもとのかかわりがきちんとされていることに感心しました。
- ・地域の方にお世話になって、野菜作りをさせてもらえたのは、子どもにとって、とても良い体験になっていて、感謝しています。
- ・会合が難しい中で、オンラインや ICT の活用がされ発信が行われていた。今後さらに地域連携が活発になると良い。
- ・園内の様子が 10 数年前お世話になった頃と変わらぬ温かい雰囲気です。コロナ前の活動が再びできるようになる時にも先生方の経験を活かして、良い伝統をつないでくださいようお願いします。

視点⑥ 教育・福祉・保健等関係機関との連携を図り、子どもの育ちをつなぎ、ともに支える取組を行っている。

- ・地域の関係機関との交流を図りながら今できる最善の方法で、みなさんが一丸となり取り組んでおられること、先生方の日々のきめ細やかな配慮や努力・熱意に頭が下がる思いでした。今年度も好ましい方向で進められていると感じました。

視点⑦ 未就園児家庭を含めた全ての子育て家庭に対する支援の取組を積極的に行っている。

- ・センター事業の地域活動「ふたばっこがやってくる」が再開されることを願う。

2 基本的な生活習慣の形成

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
4.0	4	3.4	3.5	3.9

視点① 挨拶をはじめとして、基本的な生活習慣の定着を図るために、生活に必要な習慣や態度が生活体験を通して養われるよう生活指導の工夫に努めている。

- ・基本的な生活習慣について、保護者にも意識してもらえている「がんばりカード」では、子どもも楽しみながら意識付けできるよう工夫されていると思います。9月のがんばりカードを拝読し、目標とテーマがわかりやすく、大切なことがピンポイントで書かれていると思いました。子どもたちの家庭環境や状況から、個々に対応の違いがあると思いますが、生活習慣のベースは家庭にあると思います。保護者アンケートに「ひらがなに興味をもてるようにしてもらえると嬉しい」とありました。してもらう親と、してあげる園が当たり前だと、そのようにしかならないと思います。絵本の読み聞かせやカルタ取りなど、園で体験していることを家庭でもできれば、子どもの興味や関心もさらに深まり、引き伸ばせられるように思います。それでも、保護者もいろいろとわからないことが多くあるかと思うので、園と協力しながらできるだけ丁寧な対応をお願いします。また、看護師さんが在勤しておられますが、当初私は、先生だと思っていました。お人柄や対応など、園も園児も保護者も安心できる心強い存在だと思います。
- ・子どもたちを見ていても、良い生活習慣の形成が成されていると思います。
- ・家庭での生活習慣形成が大変難しくなっているようだ。一つの型を求めるのではないが、保護者自身が生活習慣の大切さを学ばれる機会が設けられるといいと思う。
- ・子どもが、一年であいさつや悪いことしたときに、あやまったり、ありがとうと素直に言ったりできるようになり、先生方の指導のおかげだと思っている。
- ・朝の登園時に必ず園長をはじめとする先生方が、あいさつされており、子どももきちんと朝会うとあいさつするんだと思う習慣ができていくと思う。しかし、中には、気分の波がある先生がおられ、時には無愛想だなと感じ、保護者としてはその様な姿を子どもに見てほしくないと思った。
- ・将来の生きる力を習得するための基本的な生活習慣や食習慣など、おうみ認定こども園の生活で自然に身につけられるように保育教育活動を実践されている。本日の昼食・給食もその一環であり、大変おいしく、子ども達の食習慣が形成されている過程が理解できた。乳児・幼児が

日々の園生活で自然と身につくよう、それが将来のその人の品になり人格につながればよいと思われる。それが、何か自然と園児が確認できる指針のようなものがあればよいと思われる。

- ・子どもの日々の成長が家庭でも伝わり、先生方の熱意に感謝しています。
- ・家庭でも園で学んだ習慣を活かしていることもあり、日々の積み重ねと感じる。
- ・こども園生活の3年間で少しずつ、帰宅後の自分の荷物の片付けや準備を自分から進んでできるようになったり、友達に自分の気持ちを言葉で伝えないと伝わらなかったりする事を学んだように成長を感じる。
- ・コロナ禍ということもあり、手洗いや食生活のルール等、今まで以上に小さい子とのかかわり中では難しいことが多々あったと思います。その中でもしっかりルールを習得し、生活習慣が定着したことはすばらしいです。家庭では、なかなかできないのでありがたい。
- ・あいさつができると見えて気持ちがいいですね。
- ・家庭環境を含め多様化する子育て環境の中で基本的な生活習慣を身に着けることは園の役割は増々大きくなることと思います。
- ・基本的な生活集団については、園の中だけでなく家庭は勿論の事、やはり地域も一体となって取り組むことが大切であり、自治会等でも「挨拶運動」を主とした活動を模索していきます。
- ・挨拶は1日の基本であり、一生涯の生活の基本とも言えます。フリーや担任の先生の働きかけで習慣化されておられることは勿論、名前を呼んでの挨拶指導は特に効果的と思われます。挨拶だけでなく生活の色々な場面で名前を呼びながら指導することはとても温みがあると思います。また、最近では大人でも挨拶ができない人もいますので、この取り組みが保護者への啓発にも繋がっていくと思います。

視点② 社会の決まりや集団生活のルールの習得に向け、教職員の共通理解の下に取り組んでいる。

- ・家庭の教育力もあり、一人ひとりの子どもに基本的生活習慣が定着しているように感じました。規範意識も高いのではないのでしょうか。落ち着いた様子からも想像できます。
- ・とても落ち着いた園児たちが印象的です。そして、元気の良い挨拶ができ、コロナ禍に対応したマスクの着用など、集団生活のルールがしっかり守れていると感じました。基本的生活習慣の育成に関わる幼稚園と家庭との連携が良好であることが伺えました。
- ・子どもたちの目線に立ち、指導を進めていただいています。

視点③ 子どもたちの望ましい食習慣の形成に園全体で取り組んでいる。

- ・乳児の展示食はとてもいいと思います。幼児棟では、センター給食を展示することは難しいでしょうか。
- ・好き嫌いが無い食生活は大切ですね。

- ・子どもたちの苦手な食材を食べることができるように工夫がされています。
- ・園庭の畑に美味しそうなネギが植えられているのが目に留まりました。栽培した野菜のクッキングも再開されたとの事、今年度もコロナ蔓延の危機もあったことから、手洗い・うがい・マスクの着用など、全職員共通理解のもと、多方面にわたって徹底した指導が行われていたように感じ取れました。先生方のきめ細やかな指導があったおかげで、子どもたちは安心して教育を受けることができ、保護者にとっても心配なく通園できたと思います。

3 豊かな感性や表現力の育成

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
4.0	3.6	3.4	3.5	3.7

視点① 全身（五感）を働かせた活動を展開している。

- ・園庭だけでも四季折々の自然物に触れられ、一步外にでかければ米原市の誇る三島池もあり、自然豊かで広々とした環境の中で保育されてきた園児たちは恵まれていると思います。少ない職員数で、子ども一人ひとりとの関係も築きながら保育に取り組んでおられるように感じます。私はサークルに所属していることから幼稚園に伺う機会も多く、自然を生かした飾りなど多数の作品を拝見しました。収穫したさつまいもの蔓でリースを作られていたのは、私だけではなくサークルメンバーも感激していました。さらに季節の素材を飾って仕上げておられ、至るところ、手作りであふれている園内に、子どもたちも感じるものがあると思います。主任手作りのどんぐりトトロはすごくかわいくて、作成されている時のお話もとても楽しく、心が温かくなりました。
- ・園の周りに自然豊かな場があり、季節に応じて取り入れることができるところが山東幼稚園の良さであると思う。(三島池、グリーンパーク周辺の森林等)。幼児期に必要な経験が全てある環境で、“楽しそう。やってみたい”と五感を働かせた経験ができています。子どもたちと一緒に捕まえてきた生き物、自然物が子どもたちの目に届きやすい保育室前等に置かれ、触れたり関わったりできるようにたくさん工夫されていたと思う。
- ・豊かな自然に直接ふれあう体験活動や五感を働かせることができるような活動を大切にされている。子ども達にとってそれが一番大切であり、子ども達の育ちにも重要である。新規の体験活動など時代の要求に従ってしなければならないものもあるかもしれないが、厳選して思い切ってやめることも必要なのではないのでしょうか。
- ・家ではなかなかさせてあげられない泥遊びで思い切り遊んだり、友達と一緒に入るプールやもちつき、クッキングも経験させて頂けてとても有難い。

- ・元気に遊んでもらいたいと思います。
- ・日々、園での子どもたちが行っている工作においてそれぞれの思いを形にし、独創性が高められるように思います。

視点② 子どもたちが喜んで話したり、聞いたりすることができるよう、教職員がきめ細かな対応を心掛けている。

- ・豊かな人間形成ができています。
- ・運営委員会では、園の様子をわかりやすくパワーポイントで説明していただき、園での取り組みがよく分かりました。今年度は、色々な行事が幅広く行えてよかったと思います。
- ・年長は、子どもの人数に対する教員の数が少なくなるため、限度もあるかと思うが、丁寧に関わってもらっているように思う。教員の真似をしていることもあり、それも表現学習になっていると思う。
- ・今まで大きな声で話したり歌ったりできなかった子が、みんなで劇ごっこができ、とてもうれしかっただろうと表情を見て感じます。マスクがとれて表情がわかるようになるといいですね。
- ・幼児の歌うことの心地よさは色々と考えられますが、歌うことで豊かな感性を育むのであれば、私は「優しい声で歌いましょう」が重要で、「大きな声で歌いましょう」は禁句だと思っています。温かみのある優しい歌声で歌うことは相手を思いやる心の育成に直結します。
- ・なかなか園の中の子とは見ることがないので実情はわかりませんが、一つ言えることは子どもたちの表情で、その日何があったのか（楽しい、悲しい等）がわかることです。子どもは嘘はつきません。そのものです。
- ・園全体の共有した指導の中、個々の特性を活かした指導を大事にして取り組んでいただいています。

視点③ 一人一人の子どもの主体性を大切に、満足感・充実感を味わえるような環境の構成および活動を展開している。

- ・先生方のきめ細かな指導により、伸び伸び生き生きと自分らしさを発揮して園生活を送っている様子が思い浮かびます。子どもたちの表情が明るく輝いていると感じました。
- ・環境の構成を重視して、園児たちの活動の広がりを目指しておられる保育環境に敬意を表します。
- ・コロナや安全確保等で制約の多い中、改善、工夫しながら精一杯取り組んでいると感じる。
- ・孫がお店屋さんごっこを片付ける時に泣いてしまったとか、劇ごっこの小道具を持ち帰ったりするエピソードを聞き、子どもの主体性を大切にしているからこそと嬉しく思った。
- ・保育参観では子ども達の好きな話を採用したり、歌あり、おどりがあつたりと一人一人みな楽しく参加していた。子どもには、得意、不得意があるとは思いますが、楽しく参加しているのを見ると先生方の工夫やきめ細やかな対応のおかげだと感じた。

- ・子どもの主体性を大切にされているため、子どもの視野に立つようにされているが、子どもも自信のないことや、不確かなことがあるため、必ずチェックしてあげるべきかと思う。
- ・コロナ禍でも、色々な活動がされている様子が伝わり安心しています。
- ・園だよりは、子ども達の活動の様子がよく分かり写真もたくさん入っていていつも楽しみに読ませていただきました。
- ・とても落ち着いた表情で過ごしていました。一緒に遊ぶ仲間と一緒に楽しそうに遊ぶ姿が嬉しかったです。
- ・自然環境に恵まれた園の特性を活かした取り組み、遊びの充実、保育の中での気持ちの共有、豊かな感性に触れる実践など職員が一丸となり大変意欲的に取り組まれていて、成果も得られているように思いました。
- ・環境整備、個々へのかかわり方など、子を十分に理解されたうえで、適時適切な指導を重ねていただき個々の力が伸びるよう取り組みを進めていただけているように感じます。
- ・集団生活をする場面やそれぞれが好きな遊びをする場面など、こどもの主体性を大切にしながらも集団生活ができていくようになるよう関わっていただいたと思う。

4 健やかな体と豊かな心の育成

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
3.8	3.8	3.7	3.8	3.7

視点① 心身ともに健康で安全な生活が行われるよう環境づくりを工夫している。

- ・ほぼ毎日されているパワーアップ体操も見学させていただきました。年長組さんを中心に、全学年が全身で思い切り楽しみ、とてもほほえましかったです。体力作りだけでなく、体幹トレーニングも取り入れられていて、楽しみながらも鍛えられていて感心しました。
- ・心身ともに健康であると思います。
- ・本日のパワーアップ体操も大変有益であると感じました。また、近くの自然に親しむ活動も多く取り入れておられ、体とともに心もたくましく成長していると感じます。
- ・年少・年中・年長が一緒になってパワーアップ体操やリズムジャンプ等する姿から、年少が年上の子をまね、年長が自信を持って取り組んでいると感じた。また、広い園舎、園庭であるが、その時々安全配慮もきちんとされている。
- ・「パワーアップ体操」はとても良いことだと思いました。体作りはもちろんですが、心の健康にも繋がると思います。継続することが大切だと思います。
- ・コロナウイルス感染症拡大防止のための様々な取り組みを、子ども達は日々行っている。手洗い、うがい、マスクなど「新しい生活様式」に子どもたちもしっかりと対応している。大人以上

に現在の環境の変化について子ども達はなじんでいるのではないのでしょうか。

- ・ 自然と触れ合う体験を通じ、心と体の成長が感じられる。
- ・ 健全な心と体を育んでください。
- ・ 家庭ではできないことをしてくださり、子どもの成長にとってとても大事な体験だと思います。ありがとうございます。
- ・ たくさん子どもたちがいて、物も多いので怪我の防止対策も大変でしょうが、防げるところは子どもたちと一緒に変えていっても楽しいと思いました。
- ・ 園での取り組みを「自立」「思いやり」「他社とのかかわり」の3つの視点で見ることできます。成長の変化をこの視点で具体的にまとめると内容や方法の見直しができ、指導力を一層高める手立てが見つけられるかもしれません。取り組みが、園児の成長に結びついているかを見極める過程も大切だと思います。
- ・ コロナ禍でも、できることやれることと工夫を重ねて取組んでいただき、子どもたちの和やかなそして、のびやかな成長をこの1年感じさせていただきました。感謝しています。

視点② 自然や動植物、絵本や物語等に親しむ機会を個々や集団に合わせて取り入れている。

- ・ 乳児棟の絵本紹介が幼児棟にもあるといいなと思った。先生のおすすめ絵本とかコメントもあると、保護者の人が絵本を買ったり、読み聞かせ時のヒントになると思う。
- ・ 周りが自然豊かなこともあり、季節に応じた活動に取り組まれています。
- ・ 地域の方が園の行事や活動に参加され、また、子ども達とかかわってくださる機会が増えること、とても良いと思います。
- ・ いぶき地域は体と心の育成には大変恵まれた環境で、虫や植物、樹木など自然とのふれあい、栽培やクッキング活動、うさぎの飼育活動を通して実践を積み上げ生きた身近な素材を上手く活用し、教育効果を上げておられるように思います。
- ・ 環境を上手く活かし、体験・経験を積み重ねて豊かな心情を育んでいただきたいです。

視点③ 自然環境に関わり動植物などの飼育・栽培を通して、自然の不思議さや命の大切さに気付く取組をしている。

- ・ 学校評議員会の参観や資料の写真、園だよりから、畑で野菜などを大切に育てて収穫し食することができて、有意義な体験になったことが伝わってきます。幼稚園や家庭でも、苦手なものが少しずつ食べられるようになってきたのも、こうした実体験の積み重ねだと思います。今後も園生活に見合ったものや目的をもって、栽培・収穫・食育へと繋げてほしいです。また、様々な生き物がたくさん飼育されていて驚きました。自分たちで図鑑を見て調べたり大切にお世話をするなど、身近なところで命の大切さを知る機会になっていると思います。飼育する中で新

しい命に出会えることもあれば、一度死んでしまったら生き返らないことも、経験として実感できる機会になると思います。

- ・飼育、栽培を通して命の大切さを培うことのできる保育を計画実践されている。
- ・園外保育や飼育栽培、クッキングなど実体験できる活動が With コロナの中で、できる限り行えることを願っている。
- ・植物やうさぎの飼育については、子どもの記憶にもよく残っており、家でよく話してくれる。
- ・ウサギの死に対する教育も時代を感じるところもあるが、繊細な取り組みも良いと思った。
- ・栽園や自然探索は地域性もあり効果的なものだと思う。園庭が色取り取りになっっている時期は、送迎していても心地よい。
- ・畑の世話やカブトムシの世話などは大切な活動だと思います。
- ・散歩をして自然に触れたり、季節の物を探したりして、遊びの中に取り入れて下さったり、カブトムシを友達と育てることも良い経験になりました。
- ・恵まれた地域環境・自然環境を活かし動植物との触れ合いを通して命を大切にする保育を今後期待している。
- ・恵まれた大自然があります。もっともっと自然を親しめるよう飛び込んでいけるよう自治会として手助けできることがあれば、注文してください。

視点④ 身近な大人や友達と一緒に、調理したり食べたりする楽しい食体験の工夫に取り組んでいる。

- ・コロナでクッキング等の機会が少なくなっているため、今後については様子を見て、もともどしてもらえるといいと思う。
- ・カレー作りやおなべパーティなどの取り組みがされており、子どもも毎日楽しみにしている。
- ・畑の世話は大変だと思いますが、自分たちで作ったカブやピーマンはおいしかったでしょうね。

5 人と関わる力の育成

山東幼稚園	まいばら認定 こども園	おうみ認定 こども園	かなん認定 こども園	いぶき認定 こども園
3.6	3.8	3.4	3.5	3.7

視点① 一人一人の子どもが安心して自己表出できるような保育者との信頼関係作りに努めている。

- ・少人数集団であるとなついつい保育者から口を出してしまうことが多くなり、子どもの言いたい思いや伝えたい思いが失いがちになるが、“見守り、待つ”ことも大切にされ、子どもの思いを聴く姿勢を大切にされてきた。子ども同士が話したり関わる姿も多く見られた。今後さらに少

人数になるが、子ども一人ひとりが輝ける保育実践を続けてほしい。

- ・子どもとの関わり方について、先生方がいろいろと配慮されている様子がうかがわれます。繰り返し「思いを伝えられたこと」や「相手の話を聞くことができたこと」を認めることで、子どもたちも少しずつできるようになっていったのは、すごい成長だと思います。
- ・特別支援の子ども達を大切にする保育は、すべての子一人一人を大切にする保育であり、子どもが安心して遊び込める環境、人がいる園であり続けてほしい。
- ・コロナウイルス感染症拡大防止のために、人と関わり合う保育内容が縮小されている。園児の生活は、それが当たり前になっているので、感染が一段落するまで、園生活の中で職員と子どもとの関係作りに重きを置いて、人と関わる力の育成に心配りをお願いしたい。
- ・子どもの個性に応じて丁寧な保育が出来ています。
- ・遊びの中で、怪我をした時も丁寧に処置してくださっていると感じる。
- ・沢山の子どもがいる中で、一人一人を大切にしてくださっているのが伝わって来る。
- ・子どもたちにとって小さな社会生活の1歩を踏み出す貴重な場と言えます。園には担任の先生・その他の先生・同年齢や異年齢の子どもたちなど人と関われるコミュニケーションの場が設定されています。そのため、園に通うことができるだけでも、人と関わる力は育成されてくるものでしょう。それに加えて保育者の人権感覚を高め、自身の保育を振り返る努力もなされている先生方のご指導が加わることで、より質の高い人と関わる力が形成されているように感じます。子どもたち一人一人を大切にする保育、主体的に取り組み自己表出できる環境づくり、学年での話し合いなど大切に取組まれています。これらの過程があるからこそ、子どもたちは生活を共にする教師に見守られているという安堵感となり、他者と関わることの喜びが人と関わる力の育成にも直結しているのだと思います。

視点② 子どもが生活や遊びに主体的に取り組み、繰り返して体験できるような環境作りに取り組んでいる。

- ・子ども同士で楽しく遊んでいるのを良く見かけた。また、特別な配慮を必要とする子どもには別室を用意されていたのは、子ども目線で素晴らしいと思った。
- ・園庭で楽しそうにしていた。ポツンと離れて遊んでいる子どもがいなかった。幼児のクラスの子ども達が愛想よく振り向いてくれた。
- ・少子化で、家庭や地域では同年代の子どもたちがかわりを持つ活動が多い中、園での生活は社会生活の基本を多く学ぶことができるよう場の設定をいただいています。

視点③ 子ども同士が一緒に活動する中で、友達の良さや自分との違いに気付いたり、互いに認め合ったりする支援を行っている。

- ・先生との信頼関係もしっかり築けており、また小規模園の強みを生かした異年齢児との交流で、

各自コミュニケーション力を身につけていると思います。直の人と人との繋がり、触れ合いの大切さを痛感させられます。

- ・他の子どもとの共生がよくできていると思います。
- ・貴園のみの課題ではありませんが、コロナ禍で難しい面が多いと思います。今後に向けて、園の教育計画に沿って、多様な人とどのような形で関わっていけば良いかを模索していくことが大切になると思います。
- ・子ども同士のけんかやもめごとに、うまく関わってくださり、一年前と現在とでは、クラスが変わっても、成長している姿をみることができた。
- ・人間関係の基礎を学ぶ場として、同年齢だけでなく、異年齢や小学校との交流を通して、立場の変わる経験を取り入れていることは良い。
- ・いろいろな性格の子ども達がいるんだ、どの子も大切な友達なんだということを今の時期に分かっていくことが大切だと思います。どの子も大切にされる園でいて欲しいと思います。
- ・視点3は本当に大事だと思います。子ども達は、先生の言動をよく見ていて真似ていくと思います。今後も子ども達への声掛け（良いこと、悪いこと）で互いを認め合える人間関係を育てて欲しいと思います。
- ・団体生活の大切さを身につけてください。
- ・こどもそれぞれの個性を大切にし、他者を思いやる心を育まれています。
- ・思春期に近づくにつれ、みんなと同じことで安心するようになるところがある気がしますが、みんなそれぞれ違ういいところがあってそれを認めてもらおうと嬉しいし頑張れるので、友だちの良さを互いに認め合うことを支援するのは素晴らしいことと思います。

6 その他

「知・徳・体の調和のとれた米原の子どもの育成」に向けての御意見や御提言、また、各園や教育委員会・こども未来局への要望などがあればお書きください。

- ・閉園は大変残念ですが、残り2年、子どもたちが「山東幼稚園でよかった」、保護者が「山東幼稚園に通わせて良かった」と思えるような園づくりを期待します。コロナの感染状況にもよりますが、地域や他のこども園、小中学校との連携を大切にし、子どもたちに多様な体験をさせてやってください。
- ・閉園が決まり誠に残念でなりません。民間の保育園を統合し、山東認定こども園として、今の素晴らしい環境の場所で将来もずっと続けてほしかったと思います。残る2年間、園長はじめ先生方には、最後まで、明るく元気な、心身ともに健康な山東幼稚園児をお育てくださいますよう、頑張ってくださいることを切に望みます。
- ・2年後には廃園が決まりました。開園準備当時、町教委事務局に勤務させてもらっていたことで、

懐かしくあり寂しさも感じています。世の中の長時間保育志向の流れの中で姿を消す幼稚園は多くなってきました。今まで、幼稚園が頑張ってこられた就学前児の保育・教育ですが、特に「学び方の習得」や「学ぶ意欲の育成」等、教育に関わる取り組みは素晴らしいと思います。

- ・「山東幼稚園」が山東の四つの園を一つにして、木造の立派な園として創立され、当時、たまたま見学に行った自分は、園舎内外のいろいろと工夫された環境の素晴らしさに引きつけられたことを思い出します。この園で日々楽しく過ごす子どもたちの姿はきっと、この園に関わった子どもや大人は忘れることができないと思います。山東幼稚園が閉園になる。旧山東町に公立園が一つもなくなるということは、いまだに考えられないことと思っています。「山東幼稚園の今後の方針案」についての説明会に参加させていただき、園舎の維持管理や子どもたちの人数や現状等、市側の事情もいろいろあると思いましたが、たった 20 年くらいで閉園になるとは残念としか言いようがありません。保護者様のアンケートを読ませていただくと、園が大好き、感謝している等の声も多く、例えば抜粋すると、「幼稚園に登園すると、我が子も親もいつも元気をもらえて、自然と笑顔になれます。そのような環境を作ってくださって本当に感謝でいっぱいです。私たちは山東幼稚園が本当に大好きです。無くなってしまうのが本当に残念でならないのですが、幼稚園に通える最後まで、親子で一緒に素敵な思い出を作っていきたいです。」・・・親としての気持ちというよりも叫びであると思いました。閉園までまだ時間はあるとは言っても、あっという間に過ぎると思います。園での生活は、最後まで幼稚園教育を誇れるように、子どもたちとの楽しい日々を保障して過ごしていただければと思います。市におかれましても、保護者様や園に関わる人たちの思いを十分くみ取り慎重に進めていただきたいと切に願います。
- ・山東幼稚園の恵まれた環境の中、職場としての環境も大変良く、職員同士の連携が図れているように感じます。人間関係が良く働きやすい職場であることも大切な要素だと思います。また、保護者アンケートからも、幼稚園への熱い思いがひしひしと伝わってきます。アンケートの回収率が 100%だったことも、思いが反映されているように感じます。子どもが毎日楽しく登園できるような幼稚園の温かい雰囲気や、個々や全体に応じた細やかな保育が実を結んでいるのだろうと思えます。親子それぞれに実感したことは、この先ずっと宝物となり、良いときも悪いときも心の支えになるのではないのでしょうか。私は、山東幼稚園開園当初よりサークルに所属しております。これまでずっと、子どもたちに音楽を届けて一緒に楽しみ、癒やされてきました。でもまさか、この山東幼稚園が閉園になる日が来るとは予想すらしていませんでした。検討委員会では閉園という判断ではなかったと伺っていましたが、米原市議会にて「市立山東幼稚園を廃止する条例」が賛成多数であっさりとあつけなく決まってしまいました。閉園ありきでの条例だったのでしょうか。残念で残念で仕方ありません。有効活用に向けた構想づくりとは、どのような形になるのでしょうか。閉園が決定したことを覆せないのであれば、子どもたちにとっての有効活用を重要視し、このうねなく恵まれた環境を生かせるよう働きかけをしていただけることを強く望みます。また、ハンドベルサークルとオカリナサークルの活動については、山東幼稚園のサークルとして存続し、市内こども園などへの発表など、地域に繋がっていけるかもしれません。練習など、活動拠点としての継続も御検討いただきますようお願いいたします。
- ・紙おむつの園での処理等、職員の負担軽減につながる措置がなされること大変うれしく思う。現

場保育者や調理師さん等の声をこれからも吸い上げる場を持っていただくよう希望する。

- ・シルバー人材の人を入れていただき、保育者の仕事が軽減されていることをうれしく思う。
- ・規定以上の人員配置をしていただき、保育者が余裕を持って子ども達に向き合えることを願う。
- ・子ども達が息長学区と坂田学区等の学区がわかると、保護者は今後の小学校の相談とかがやりやすいと感じている。特に息長については、人数が少なく、わかると安心できる。(プライバシー等で伝えられないことは理解しています。)
- ・園評価を求められていることについて、今年は自治会業務のため孫の送迎を行っていないため、朝夕の職員の先生方との接点がなく、評価は難しかった。
- ・保護者の意見を集約した貴重なデータですが、グラフ等を用いて見せ方を工夫されたらもっと、訴求できるかなと思う。
- ・公立小学校・中学校の学校経営は、市教育委員会が指導・監督し、それぞれの学校は、校長以下の教職員が知恵を絞って学校教育活動をし、各学校の独自性が確保されている。認定こども園については、保育幼稚園課の指導が各認定こども園の独自性より、市全体の共通施策・統一化が勝っているように伺える。認定こども園側は、保育幼稚園課の指導を頼りにされている。そのようであれば、いざというときにいいアイディアが出せないのではなかろうか。おうみ認定こども園が地域に根付くことを期待する。
- ・一年間ご苦労様でした。また、4月から新しい年度は始まりますが、頑張ってください。
- ・地域住民からすると、こども園とのかかわりが不十分だと考えています。ただ、どうかかわっていくかと言うとわからないのが現状です。何をすればいいのか、何を求められているのかがわからないことが多いです。地域の皆さんも同じ思いを持っている人もいます。求められていること、やるべきことがわかればまだまだたくさんの事が出来ると思っています。こども園からの発信を待っています。
- ・保育時間が長く、職員の勤務時間が様々な中で情報を共有しながら保育の質を高めていく難しさを感じると職員の評価で記述されている。これは、家庭との連携でも時間が無いことでやりにくい問題であるとも思う。今は、主に早朝、夕刻はパートで対応されていると思うが、職員の時差出勤を更に進めて、昼間のパート職員を増やし（特に乳児組）一日を通して担任が入り込める保育を進めていくことも大事であると思います。
- ・運営委員になって1年。2回の運営委員会出席、その節に園見学、子ども達の様子を見せていただき、スライドによる子ども達の日々の様子、毎月の園だより。園職員の頑張りは大変なものとお察しします。誠に申し訳ありませんが、園評価（わからないため）はできません。よろしくお願いします。
- ・これからも、子どもたちのことを一番に考えよろしくお願いします。
- ・健康管理 米原市本庁舎健康づくり課
安心、安全 醒井学区、息郷学区交通安全リーダー 見守りを近い所で対応してほしい
- ・アンケートの意見では、先生方に感謝を伝えておられる保護者の方も多いですね。先生方の頑張りがきちんと伝わっているのだと感じました。でも、保育の質を向上させるためには、先生方の

頑張りに頼るだけでは……。なかなかそうはいかないものかもしれませんが、働く先生方の働きやすい環境を行政は整備してほしいと思います。今年度も、園の様子を見せていただく機会が少なく、正直なところ、きちんと評価できているのか自信がありません。その点を踏まえていただいて、よろしくお願いいたします。

- ・限られた人員と予算の中で、日々尽力されている職員の皆さんに感謝しています。園の評価については、運営委員というものの保育の現場を知る機会は少なく、難しく感じます。今後は保護者や職員の評価に主眼を置き委員としては会議の中で意見を徴収していただく程度で良いのではないかと。
- ・職員不足が叫ばれている現在、より良い働き方改革が必要ではないでしょうか。こども園だけの問題ではありませんが、まず、園でできることを実践していくことも大事ではないでしょうか。その為には、保育士の定着率の高い保育園等が導入している施策などを参考にすることも一手です。恒例行事を検討し、削減したり、残業時間の見直しをしたりするなど、保育士の負担をもっと軽減することで、定着率を図っている園もあると聞いています。
- ・自治会においても子どもの居場所作りについて話し合いをしています。いろんな人とのふれあう中で、いろんな発見をする機会を少しでも与えていきたいと思います。
- ・「マスクをしなければならない」という認識を大人も子供も同じようにせず、子どもの教育面でマスクをしなくてよい環境などを同じようなことがあったときに右にならえではなく臨機応変にできたらいいなと感じました。
- ・コロナ禍で先の見えない中での挑戦には、大きな勇気があったことでしょう。でも、その一つ一つの行動が今後の糧になっていくのだと信じています。
- ・コロナ禍で制限がある中での対応の工夫や、感染拡大しないための対策などしていただき、大変ありがたかったです。
- ・幼稚園・保育園の悲惨な報道に心を締め付けられたことでしょう。決して抱え込むことのないよう地域とともに豊かな子どもの育成に頑張っていきたいと思います。
- ・多忙で複雑な勤務の中、先生方の日々熱心な取り組みに感謝です。ありがとうございます。
- ・自然豊かな環境を活かした保育を、今後も続けていただきたいと思います。
- ・両親共働きで園にいる時間の方が長くなっていますが、毎日が楽しく「早く行きたい」と通園しています。それも先生方が優しく関わってくださっているお陰だと思っています。本当に助かっています。

**令和4年度
小・中学校学校評議員・学校運営協議会委員による学校評価
【小学校・中学校集計結果】**

米原市教育委員会

回答者人数 小中学校計 101 人

小学校名	回答者数（人）	中学校名	回答者数（人）
柏原小学校	6	柏原中学校	6
山東小学校	7	大東中学校	7
大原小学校	6	伊吹山中学校	6
伊吹小学校	7	米原中学校	7
春照小学校	7	河南中学校	8
米原小学校	6	双葉中学校	6
河南小学校	8		
坂田小学校	7		
息長小学校	7		
小学校合計	61	中学校合計	40

1 学校経営全体に関わること

【評価 小学校 3.68(+0.17)、中学校 3.72(+0.05) (評価は4段階)】

(1) 視点① 学校の目指す学校像・子ども像は、地域や子どもたちの実態に合っている。

ア 小学校

- ・学校教育目標には委員の思いも詰まっている。横断幕が挙げられ、地域にも浸透していきだろう。
- ・学校だよりを通して、丁寧に紹介されている。
- ・年度始め早々に1回目の学校運営協議会が開催され、その中で経営方針や重点目標、学校の様子等を詳しく説明していただいております、校長先生のお考えがよく伝わってきます。
- ・協議会において、毎日児童と接し頑張っておられる先生のご意見を伺えれば良かったと思います。
- ・経営方針や目標が分かりにくく説明も不十分だと感じます。数値目標を立てるなど関わる人たちに浸透する目標にしてはいかがでしょうか。
- ・丁寧な説明を具体的な方策と共に示していただき、ICT機器や専門的な地域人材の活用にも力を入れて取り組んでおられることが分かった。
- ・わかりやすい教育ビジュアル図を作成され、学校目標の達成に向けて全学年で取組を進めておられる。
- ・自己有用感、自己肯定感を大切に、教育活動をその2つに集約しているところは、非常に分かりやすく共有しやすいです。ただ、自己有用感が「志」につながるということについて、少し説明があると良いと思いました。

- ・学校の教育目標を横断幕で正面玄関に掲出して、保護者や地域への浸透を図る努力をされている。もう少し教職員同士の挨拶や会話の機会が増えればと願っている。
- ・学校だよりにて児童の活動や学校の様子を窺い知ることができるが、過去の情報となってしまうため、学校 HP でもつぶさに発信し、情報提供したほうが良いのではないかと思います。

イ 中学校

- ・校長先生の「熱い想い」を共有されてると思います。
- ・学校教育目標が大変分かりやすく、生徒や保護者にも浸透していて素晴らしいと感じる。
- ・先生方が一丸となって取り組まれていると思います。

(2) 視点② 学校の教育目標、重点目標、学校の様子等を、学校だより等により保護者や地域に分かりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいる。

ア 小学校

- ・「柏原っ子」の発行は、学校の動きだけでなく、今どのような教育を行っているのか、校長の考え方など、学校と家庭をつなぐツールとして役立っています。
- ・学校の伝統的行事である郷土（環境）学習を基軸にして、「子どもたちが自分でつかむ自分の未来」の具現に向けた多彩な学びが地域との連携により展開されています。特に、今年度からは、前身2校（東小西小）の創立150周年を祝う期間（令和4～6年）を設定し、校区に力強くアピールしながら、さらなる学校運営の活性化が目指されていることに敬意を表します。
- ・ホームページが見にくく、更新されていない。
- ・昇降口のモニターに児童の活動の様子が映されているのがたいへん良い。
- ・廊下の掲示板からも児童の活動がよく分かる。
- ・学校ホームページのブログで月数回情報発信されており素晴らしいが、より多くの保護者や地域の方の目に止まるよう工夫があればと思います。
- ・保護者の方はもちろん、地域の方々が学校行事学習支援等で、子どもたちと触れ合う機会が年々増えている。分かりやすく、情報発信されているからだと思う。
- ・一年間の活動および子どもを通じて、学校の教育目標や活動の様子を知ることができ、貴重な経験をさせていただきました。会議の中でも意見が出たように、教育目標は数値化できる部分もあると思います。教育という見えないもの（質）を見える化できれば評価もし易く成果や課題も分かりやすくなるのではないかと思います。
- ・学校だより「入江の里」では、校長先生が大切にされておられることや子どもたちの頑張りを丁寧に記事にされ、楽しみに読ませてもらっている。
- ・小学校は先生方が非常に多忙で、職員室でいろいろな先生と話をするのが難しいのが現状。若い先生が増え、社会人として資質を育てる必要があるが、地域の人がもっと学校に関わる中で、育成の手助けとなれば良いと考える。
- ・河南小だよりを毎回拝読させていただいてます。学校の子どもの様子が知れて喜んでいきます。せっかく発信してくださるのに文字が小さすぎて読みづらい時があります。（4，7，2月号など）枚数を増やすなどして、もう少し見やすくしてくださるとありがたいです。
- ・教育目標、重点目標、学校の様子は学校だより等でこまめに知らせていただいているので、学校

へ出向くことなくとも情報は伝わってきます。また、安心メールの登録で情報が早く届きますから助かっています。保護者の方も同じだと思います。

- ・学校の情報発信は今の時代とても大事だと思います。校内事情で大変だとは思いますが、ホームページの更新（特にブログ）よろしくお願いします。
- ・学校のブログの更新が低めである。参観日や学校に来られる機会が減っている中、学校の行事や様子を知れるツールをうまく使ってほしい。

イ 中学校

- ・「はびろ」を通じて積極的に情報発信され、中学校の動きや教区内容（校長や教職員の考え）が垣間見られることがあります。学校と家庭を結ぶツールとして大変役立っています。
- ・大東中の教育目標である「心を鍛えよ 体を鍛えよ 頭を鍛えよ」のスローガンは、大変わかりやすく、地域に浸透しています。学校日より「みしま」も、地域の回覧で見ることが出来ます。学校の様子がよく分かり、楽しく閲覧しています。DAITO アクティビティについては、年間行事や講師等の都合上があるとは思いますが、詳しい日程をもう少し早く知らせていただけると参加しやすいと思います。
- ・コロナ禍でも、修学旅行や文化祭などの学校行事をうまく運営されていました。今後は、部活動が地域の協力のもとで運営されるようになれば、さらに学校経営にも余裕ができると思う。
- ・運営協議会等で、学校との関わりを持たせて頂く中で、特に校長先生から「地域とのつながり」「地域を愛して」「地域の方と協力して」などの地域への想いを強く感じる事ができました。学校も地域の一部であり、お互いに支え合う気持ちをいつも感じさせて頂いてます。
- ・定期的に学校運営協議会が開かれ(年6回)、その都度、学校の経営方針や教育目標、生徒たちの様子が、丁寧に説明され、学運協委員で共有できている。
- ・年間計画に基づき、定期的に学校運営協議会が開催され、限られた時間の中で、経営方針等分かりやすく説明していただいています。
- ・学校経営スローガン、教育目標、校長先生の願いで、キーワード「ふるさと」が設定され、学校便り、ホームページで情報発信され、学校の取り組み、生徒たちの様子がよく分かります。
- ・学校日よりやホームページなど、とても上手に情報発信されていると思います。地域に分かりやすく説明されているか少し疑問です。民生委員さんの中にも、学校は地域に開かれていない、敷居が高いという方もおられます。来年度は、一緒に活動するなどを通して、互いが理解できると、説明する機会も増えるかと思います。

(3) 視点③ 校長のリーダーシップの下、教職員が課題を共有し、学校の教育目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

ア 小学校

- ・はびろウォークの下見に参加させて頂きましたが、夏休み中に関わらず、ほとんどの先生方が参加され、安全確保、行事の成功に向け、全職員が一丸となり、取り組んでおられるのが伝わってきました。何より若い先生方の元気な姿を拝見し、エネルギーを頂きました。
- ・校長先生の指導の下、教師が一丸となって、山東小を盛り上げていることを強く感じる。保護者や地域に対し、積極的な挨拶や関わりを持つなど、地域とともに山東小をつくり上げていくよう努力されています。

- ・校長先生を中心に女性管理職の先生方、若い先生方の熱心な指導、チームワークがよいです。
- ・校長先生と教職員の方々のチームワーク・雰囲気がとても良いと思います。
- ・コロナ禍で保護者・地域との交流に制限がある中、意思疎通を図っていく先生方のご苦労・努力の大変さを感じます。
- ・伊吹小学校に来ていただく先生は、本当に皆さん子どもたちのことを思い、精一杯頑張ってくださっている方ばかりです。
- ・少人数ではありますが、穏やかでまとまりのあるこの雰囲気を大切にしていって欲しいと思います。
- ・児童、保護者の学校集計結果の割合については資料はいただいた。しかし、教職員の同結果および学校評価にたぶん何件かは記入があっただろう。保護者の生の声については、拝見していないので正直なところ授業参観3回だけでは、客観的な評価は難しい。
- ・保護者アンケートからも基礎学力、いじめ問題、授業の分かりやすさなどのポイントが向上しており、今後もより一層よい環境づくりに努力されたい。
- ・小規模で職員も少ない中、様々な趣向を凝らし、努力していることがみえる。さらに工夫を凝らし、充実してほしい。
- ・校長、教頭との話し合いや課題の共有はできていますが、教職員の方々との接する機会がまったくと言っていいほどなかったのが、評価できません。後にも関係しますが、学校運営の評価の上でそこが次年度の課題です。
- ・ここ数年はコロナの関係で、なかなか思うような活動や対策もできない環境の中、目標達成に向けて学校全体で取り組んでいただいています。また、今年は小学校が10周年ということもあり、記念行事もあって大変だったと思いますが成功してよかったです。
- ・教職員の皆さんが、課題について皆で協力し合って、取り組んでおられる様子が伝わってきます。

イ 中学校

- ・地域防災訓練や、体育祭に参加・見学させていただきました。地域防災訓練では、三年生の炊き出し訓練を見させていただき、手際よく活動されている姿に感心しました。また、体育祭では少人数ながらも、先生方、生徒の皆さんが一致団結され、楽しそうに競技、運営されほっこりした気持ちになりました。
- ・「校長のリーダーシップの下、教職員が一丸となる」というよりも、先生方お一人お一人が、普段から学校の課題や教育目標について、目の前の子どもの姿に照らして考え、お互いに意見交換し合える関係であってほしいですし、そうした時間の余裕がある職場環境であってほしいと願っています。子どもたちにどう育ってほしいのか？「自己肯定感」とは？「自己有用感」とは？不登校、いじめの認知件数、そして、それは実現できているのか等々…。たとえば学運協の場で、先生方とざっくばらんに意見交換できる機会を作れないものかと思います。
- ・学校長のリーダーシップが発揮され、教職員の皆さんが生き生きと指導に当たっておられると思います。
- ・学校運営協議員様がみな熱心で、校長先生との連携・信頼関係ができています。
- ・何事にも熱い想いをもち、前向きに取り組まれる学校長。しっかりとリーダーシップを発揮され、全職員が一丸となって教育目標実現に向け、努力されている様子がよく分かる。
- ・学校経営スローガン、教育目標を、いつも全校集会等で話され、また校内掲示もされていることは、生徒たち、先生方の目標達成につながると考えます。

- ・校長、教頭との話し合いや課題の共有はできていますが、教職員の方々との接する機会がまったくと言っていいほどなかったのが、評価できません。後にも関係しますが、学校運営の評価の上でそこが次年度の課題です。
- ・教職員の皆さんが、課題について皆で協力し合って、取り組んでおられる様子が伝わってきます。
- ・生徒が明るく元気に通学してくれていることに地域住民として非常にありがたく思っています。
- ・校長、教頭先生の熱意は充分運営委員に伝わっていますが、ほかの先生方と接する機会がなく分かりません。コロナ禍ではありましたが、生徒指導、各学年主任の先生方との意見交換ができたら良かったと思います。

2 自立した人間として生きていくための総合的な力「人間力」を育む教育の充実

【評価 小学校 3.47(+0.12)、中学校 3.54(+0.06) (評価は 4 段階)】

(1) 視点① 学校は、挨拶運動の推進や道德教育の推進、命・人権を大切にする心の教育の推進および「いじめのない学校づくり」に向けていじめの未然防止・早期発見・早期解決に積極的に取り組んでいる。

ア 小学校

- ・いじめや不登校の現状が分からない。スクールカウンセラーの関わりやいじめが発生したときの対応について、プライバシーに配慮しながら、情報公開していただきたいです。
- ・朝の元気な挨拶は、気持ちもよくなれるので、これからも頑張ってあいさつをしてほしいです。
- ・気持ちよく挨拶してくれる児童が増えている。
- ・様々な人格が集う学校生活では「いじめがある」という認識が大切。児童自己評価集計から、悩みを伝えられない児童や困っている児童がいると感じる。より細やかに悩みに対応する体制を整えてほしい。
- ・コロナの影響もあり、学習参観させていただく機会は少ないですが、突然学校に寄せていただいても、子どもたちが明るく元気な挨拶をしてくれて気持ちいいです。普段からのご指導の成果だと思います。
- ・子どもたちを見守ってくれる、とても良い環境に恵まれていて、あいさつやいじめ防止がしっかりできていると思います。
- ・挨拶もしてくれ、真面目な生徒が多いと思います。この伝統を続けていって欲しいです。
- ・いじめ、不登校に関するアンケートがありますが、子どもを通してのやり取りは変更してもよいのではないのでしょうか。封書、WEB でのアンケートなど子どもの目にふれないように工夫していただけると安心して回答できます。
- ・「いじめ」の相談をした際は、先生方が迅速に対応してくださり、早期解決に向けてご尽力いただいた。
- ・人間力を育てる上で、「あいさつ日本一」を目指して活動されていることは大変良いことだ。子どもたちは先生の前ではしっかりあいさつができているようだが、地域や家庭でもできないと日本一とはいえない。校門から出て地域に住民の協力を得て、1 か所でも拠点をつくることで、

地域の人や保護者にも浸透させることができると思う。

- ・ 青少年育成会議や民生委員・児童委員協議会の場でも挨拶がなかなか返ってこないという意見が出ます。(すべての学校で) 児童による校門でのあいさつ運動や地域ボランティアのあいさつ運動を盛り上げ、自ら挨拶できる子を育てていきたいものです。中には帽子をとって挨拶してくれる子もいて気持ち良くうれしいです。
- ・ 人間力を育むためのあいさつ運動は着実に効果を出しています。毎日の登校時の元気な挨拶が聞こえています。挨拶による明るい学校、人間力の向上が進んでいます。
- ・ 「ありがとうの花」や「あったか言葉」等、心を耕す取組が丁寧に行われ、かつ、目に見える形で掲示されているため、子どもたちは自分の行動を意識できると思います。低学年からしっかり積み上げていただいていると思います。
- ・ 学校評価の「支え合う子」の項目が、すべて昨年より上がっているのは素晴らしいと思います。学校が一人一人を丁寧に看取り、細やかな支援ができている結果が出ていると思います。今後も引き続きよろしくお願いします。
- ・ 子どもたちは明るく、元気にあいさつしてくれる。学校生活を楽しく過ごしていることとされます。
- ・ 少人数、小規模校の特長を生かしている。
- ・ 上学年の児童が委員会活動を通して社会性を身につける努力をしていることは評価できる。
- ・ 気になるのは、朝の放送での放送委員会の口調で、もう少しゆっくりと大きな声ではっきりとマイクに向かってほしい。このことは、朝の会の進行にも言えて、漫然と原稿を読むのではなく、一日の始めにふさわしい覇気が感じられると良いと思う。

イ 中学校

- ・ 学校行事に参加させていただいた機会の中で、先生方と生徒さんの関わりを見て、生徒さんが一生懸命それぞれ取り組まれている様子、また、先生方と気楽に会話されている様子を感じられました。
- ・ 学校内での挨拶はいつも元気にしてくださるので感心しています。登下校時にも声をかけると気持ち良い挨拶を返していただきます。
- ・ 「いじめバスターズ宣言」などいじめの未然防止に生徒から積極的に取り組まれています。
- ・ あいさつ運動が浸透しており意識がとても高い。
- ・ 月初めのあいさつ運動で立哨活動に参加していますが、大東中の生徒はよく挨拶が出来ていると思います。あいさつ運動や人権教育の推進のさらなる取組の必要性を感じています。
- ・ 生徒間のトラブルやいじめの撲滅に関しては、生徒会「いじめバスターズ宣言」により、生徒の中からの早期発見に心がけられているので、見えにくいいじめも対処しやすいです。教師側もその都度の聞き取り調査や個別指導、保護者への報告・話し合いなど積極的に取り組まれています。掃除活動は、コロナ禍の消毒作業以来、習慣化して積極的になされているようです。
- ・ 学校で毎日楽しく過ごすことができ、交通ルール等をしっかりと守り、友達が困っていたら助け、誰とでも協力して活動に取り組み、いじめや人を傷つけることは許せない等々、生徒たちの意識

が高く素晴らしいです。

- ・今年度は大豆を植え収穫し味噌を造った。ネギの販売や大根の販売も予定している。
- ・「登校をいやがることもある」の学校評価で数値が高くなっていることについて、その中身を分析する必要があります。
- ・たとえ一人でも問題を抱えている生徒もいるので、それを見抜く力が教師に備わっているかが大事だと思う。

(2) 視点② 学校は、児童生徒が社会性や規範意識を身に付け、望ましい勤労観や職業観を育てる系統的なキャリア教育に努めるなど、自己指導力を培う教育に積極的に取り組んでいる。

ア 小学校

- ・心を育てることは非常に大切ですが、学校での指導には限界があり、特に小学生については、もっと、放課後や休日に「群れて遊び、仲間と関わりながら学ぶ」ことで心が育つという点が必要だと思います。たとえば、いじめをしてはいけません。目標を立てて主体的に取り組むことが大事、自分自身に価値がある、といったことは、経験を通してこそ、自分自身で深く気付いたり、習慣づいたりできるものだと思います。「心の教育」を学校にばかり求めず(心の教育のためのプログラムが増えていることで、先生方の負担が大きくなったり、子どもの学校での時間が窮屈になったりしている面もあるのではと思います)、子どもたちがもっと地域の中で思い切って遊ぶことができるように、保護者や地域住民としてできることがあるように思います。
- ・学校だよりなどから、自己肯定感や自己有用感を育むための取組が進められていることがよく分かる。学校支援ボランティアも声掛けをしていきたい。
- ・運動会、コロナ下でも子どもたちが、自分たちでできることを考え、取り組まれています。少人数の学校ですが、子どもたちに自主性・主体性が育っていることを感じます。
- ・少人数の学校なので、1年生から6年生まで仲良く活動でき、社会性等の力がついていけてとても良いと思います。
- ・社会性、規範意識を身に付ける取組や声掛けは、たくさんされていると思います。先生から子どもたちへ。子どもたち同士でもあると思います。しかし、自らの目標をたて、その目標達成に向け、自らが動く、自己指導力。系統的なキャリア教育は、それほど行われていないと思います。(小学生では、まだ早いのでは)
- ・小中学校とも総合的な力「人間力」を育む教育にいろいろ取り組んでおられます。小学校のあいさつ運動は、誰よりも先に、大きな声で、相手を見て、笑顔での「先大見笑」を実践されていて、まず高学年が自主的に見本を示す！から、あいさつができる児童の割合が25%（5月）→65%（1月）に増加。あいさつされても返せない児童の割合が、25%（5月）→17%（1月）に減少しました。これも高学年が朝に見本を示してくれた成果だと喜んでいきます。
- ・「いじめの未然防止」については、学校だけでなく家庭教育が大きく関わり、影響が大きい。児童を引率して帰る際、自分のフラストレーションを他の児童にぶつけている姿を目にすることがある。家庭・地域・学校が三位一体となった教育の必要性を感じる。

イ 中学校

- ・生徒たちが自分の頭で考えて、自分の力で判断し行動する賢さを持つようになるよう取り組んでほしい。
- ・生徒が社会に出たときに、より良く生きる力を身に付ける教育に取り組んでほしい。
- ・まだまだ心配なことが多いコロナ禍の中で、修学旅行、職場体験、ふるさとウォークの各学年の校外学習が実施できたことは、社会性を身につける、ルールを守ることの大切さ等がより身についた体験だったと思います。
- ・職場体験学習は実施されていますが、系統的なキャリア教育が実現できているかどうか判断が難しい。
- ・生徒たちは規範を守った上で、自分の個性を育てようとして取り組んでいるように思います。

(3) 視点③ 学校は、児童生徒が運動やスポーツに親しみ、体力の向上を目指す教育の推進に取り組んでいる。

ア 小学校

- ・体育的な行事の実施に関しては、子どもの思いはもちろんですが、子どもの健康・安全も考慮しながら決断されていると思います。
- ・「マラソン大会」「相撲大会」は、息長小独自のスポーツ行事であり、一児童の生涯の思い出につながるものであるため、今後も伝統を守り、育んでいってほしい。

イ 中学校

- ・最近の児童生徒は、自己肯定感があまりないように感じます。スポーツで体力を向上させて人間力をつけ、自信を持てればと思います。
- ・地域の方に部活動指導に協力していただく事業に取り組まれ、成果を上げておられます。今後のさらなる発展を期待します。

(4) 視点④ 学校は、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を育むための教育に取り組んでおり、児童生徒が将来にわたる夢や自分自身を社会に生かそうとする志をもつことにつながっている。

ア 小学校

- ・自己有用感の育成がとても大事だと感じています。全体場でほめることが大切だと思いますが、役立っている瞬間、活躍している時に、全体にほめることは無理であっても、個人にはほめるタイミングを逃すことなく、声をかけてやってほしいと思います。その地道な取組が子どものやる気を育てると思います。
- ・人間力を育む教育はとても大切です。自己肯定感の育成については学校に頼るところ大ですが、自己有用感の育成については、コミュニティスクールや地域がもっともっとかかわって、子ども達にいろいろなことを経験させて、やりがい、生きがいを感じられるようにバックアップしていく必要があると思います。
- ・個に応じた指導を心がけておられ、みなさんの先生方がその手応えを感じておられるとうかがいました。本当にすばらしいことですね。
- ・子どもたちの様子が十分に把握できていませんが、年間、学年を通して教育がなされていると思

います。先生方が、共通理解し、取組を進めていただけていてありがたいです。

- ・縦、横、地域のつながりなど、たくさんの活動の中でやりたいこと、やってみたら楽しかったこと、自分には何ができるか見つけられたり、見つけようとしたりできていると思う。
- ・6年生の「夢授業」で元Jリーガーの方のお話で夢をもつことの素晴らしさを語っていただいた。こういった取組で自己肯定感や自己有用感が育まれる。
- ・自分の意見をはっきり言えて、好奇心を持って学校生活を送っていることが見て取れてよい。
- ・夢プロジェクト*小学校5年生が、学校改革として学校生活アンケートの結果を分析し、3つの改革案「好き嫌いをなくそう」「いじめをなくそう」「すすんで本を読もう」を計画。完食カードや食に関するクイズや紙芝居、いじめ防止の動画作成・発信、ポスター掲示、ブックトーク等を実施。結果報告を掲示。よく頑張ってくれました。先生方の指導も大変でしたが生徒たちの努力を評価したいです。

校内活性化のため全校プロジェクト「学校が楽しい」「挑戦」「自己肯定感」の向上を図るため紙コーキ大会、全校記録に挑戦(全校リレー・折り紙・鉛筆立てチャレンジ) SASUKEの実行。なかでもSASUKEは校内を活用し、低学年から高学年まで挑戦できるようにと様々な障害物を設置。なかでも6年生は裏方で頑張ってくれたそうです。たのしく感じました。

また、10年目を記念して「夢授業」の開催。長浜バイオ大学学長を招いて「科学の大きな進化で社会は大きく変わる」をテーマに講演していただきました。先生は講演後は生徒さんの所に来られてみんなの意見や質問に丁寧に答えてくださいました。大人目からみたら心配な質問や騒がしく感じた事もありましたが先生は評価されていました。「視線を変えてみる」という勉強をさせて頂きましたし、生徒たちには良い経験だったと思います。

- ・様々な体験活動が用意されているところが素晴らしいと思います。そして、ただ体験するだけではなく、そこに試行錯誤する場があること、特に高学年はアウトプットする活動があることは、将来、社会の中で必要とされる力を育てているといえます。今後も期待しています。
- ・自己有用感や自己指導力、主体的に動く等を育む取組として先生方が行ってくださっていることが、子どもたちに伝わっていないかなと思う時があります。自分たちで一つの活動をなすということはとても大切ですし、成功に向けて試行錯誤するすべてが学びであると大人はわかります。しかし、子どもの話を聞くと「先生からの意見、指導がない」「ほっとかかれている」と感じている面もあるみたいです。活動の趣旨や構成、スケジュールまで考えるのが大事なんだよとフォローしていますが、本当のところはどうなのでしょう。

イ 中学校

- ・自己肯定感については、中学校に頼ることが大ですが、自己有用感に育成については、コミュニティ・スクールや地域が積極的に関わって、生徒も多くの体験学習を通じて、やりがいや生きがいを感じられるようバックアップしていく必要があるかと思います。
- ・学習の場面で、自己肯定感や自己有用感が育めると一番良いと思いますが、なかなか難しいものがあり、その点、部活動ではチームワークや声出し、あいさつ、ともに汗することなど、高められる要素がたくさんあると思います。
- ・心を育てることは非常に大切ですが、学校での指導には限界があり、特に小学生については、もっ

と、放課後や休日に「群れて遊び、仲間と関わりながら学ぶ」ことで心が育つという視点が必要だと思っています。たとえば、いじめをしてはいけない、目標を立てて主体的に取り組むことが大事、自分自身の存在自体に価値がある、といったことは、経験を通してこそ、自分自身で深く気付いたり、習慣づけたりできるものだと思います。「心の教育」を学校にばかり求めず(心の教育のためのプログラムが増えていることで、先生方の業務負担が大きくなったり、子どもの学校での時間が窮屈になったりしている面もあるのではと思います)、子どもたちがもっと、地域の中で思い切った遊ぶことができるように、保護者や地域住民としてできることがあるように思います。

- ・学校で人間力を育むには限界があると思うが、取組は評価できる。
- ・自己肯定感、有用感については、地域柄なのか以前から課題であったように思いますが、関係者皆さんがこのことを共有し、生徒さん達が少しでも向上できるよう、様々な取組を仕掛けられてきたと思います。今後も継続していけると良いと思います。
- ・コミュニティー・スクールのボランティア活動が、自己有用感・肯定感を育んでいると思います。社協や民生委員など外部・地域と連携し、動いてくださる学校側の先生方が素晴らしくありがたいと感じています。
- ・コロナ禍での生活も少し落ち着き、ボランティア活動やジュニア民生委員の訪問も少しずつ再開され、生徒たちの積極的な姿を見ることができ、うれしかった。
- ・ジュニア民生委員の生徒さんが、独居老人の方々の誕生日に、心温まる気持ちのこもった手紙を書いてくださり、受け取られた高齢者の方は本当に喜んでおられた。夏祭りのボランティア等でも、真剣にまじめに取り組んでくださり、日々の学校生活に加え、このようなボランティア活動を通して、自己肯定感や自己有用感が育まれているのではないかと思う。このような機会を生徒たちに与えてくださっている学校長はじめ先生方に心から感謝したい。
- ・スポーツ関係の部活動だけではなく、創作部の部活を取り上げ、ウォークマップ等で、存在感を高められたことは良かった。
- ・自分の意見をはっきり言えて、好奇心を持って学校生活を送っていることが見て取れて良い。
- ・中学校は人権教育を学校教育目標にされ、人権感覚を磨き地域愛あふれる生徒の育成に力を入れて頂いています。今年は、広島から被爆体験をされた方を招いて「命の授業」をされました。命の大切さを学んでくれと思っています。今回は被爆体験の方でしたが、事故や傷害事件、自殺等で大切な命が失われています。個人では避けられ事もあります。避けられる事案もあり、今後も命の大切さの授業は続けて頂きたいと願います。・あいさつの様子や自分なりのコミュニケーションの取り方など、特に、上学年に、自己肯定感・自己指導力が身についているなど感じさせてくれる子が多くなっていると思います。
- ・人間形成にもかかわる大切な項目ですが、何より生徒が学校に楽しく通っていると回答していることがうれしい。

3 個性を生かしつつ一人一人に確かな学力を育む教育の充実

【評価 小学校 3.41(+0.10)、中学校 3.33(-0.05)

(1) 視点① 学校は、市や全国の学力学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の実態に応じた学力向上

策を立て、新学習指導要領の実施に向けて、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むため、「話す」「聞く」「読む」「書く」活動を大切にした取組を行うなど授業改善に学校全体で取り組んでいる。

ア 小学校

- ・今や ICT 教育の推進が不可欠な時代にあって、子どもと教師のふれあいや子ども同士の学び合い・高め合い・ひいては学力の向上に必要な「人間力」・「教師力」の重要性がますます問われています。教育界においても、「働き方改革」が進められる中、教師の指導力を高める工夫が問われています。子どもたちの「伸び」を大きく左右する力量の向上に大きな期待を寄せています。
- ・個性を生かすことはこれからの時代に大切。話す・書く技術も英語力も身に付ければ大きな自信になる。楽しく学べるようにしてほしい。
- ・ICT を活用して、児童の考えを紹介しあうなど工夫がされている。
- ・「いぶきフェスティバル」での子どもたちの様子、堂々と発表している姿、相手の考えをしっかりと聞き取ろうとしている姿、ゲストティーチャーからたくさん学ぼうとしている姿、そして、学習を楽しもうとしている姿、とても素晴らしいです。日々このような学校生活を送っている子どもたちは幸せだと思います。
- ・基礎学力の低下を懸念され、課題として取り組んでいただいているのは有難いです。
- ・学力は、親としてやはり気になるところです。最近では、成果も出てきたようで嬉しく思います。
- ・誰にでも得意、不得意があると思います。苦手意識のきっかけが、いろいろな活動の中からみつかると思います。
- ・視点①～③いずれも客観的に評価できるほどの資料を拝見していない。学力調査の分析をはじめ、年度末にあらゆる評価項目に合う資料提供が必要ではないだろうか。
- ・11月の授業参観では、どの教室も落ち着いて授業が行われていた事が印象に残っています。これは子どもの共感力を高める指導を行ってくださっている成果が現れているのだと思いました。
- ・話す、聞く、読む、各活動が進んで、思考力・判断力・表現力が育っています。
- ・授業を2度見せていただきましたが、どの学級も落ち着いた雰囲気です。授業に集中できていて大変良かったです。若い先生が多く、今後も研修を重ねて指導力を高めていただければと思います。
- ・学力調査の結果及びどのように分析されているかを可能な限りで結構ですので知らせていただくとありがたいです。学校の強みや弱みを把握し教育実践を見ることで正しい評価ができると思います。
- ・児童一人一人の可能性を引き出すために「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく推進する必要がある。ICT 危機を効果的に活用しつつ、どの児童も主体的に学習に取り組めるよう授業改善を行ってほしい。そのためにも、まずは教師と児童がしっかりとコミュニケーションを図り、互いに支え合える学習集団作りが重要である。

イ 中学校

- ・「当事者意識」を身につける。
与え続ける教育は、生徒が主体性を失い当事者意識が低くなるからうまくいかない。人のせいにし、勉強が分らないと「先生の教え方が悪い」クラス。人間関係がうまくいかないと「担任のせ

いだ」となり、自分たちの社会と思えないのは、先生に依存しているからになる。

- ・文化祭、体育祭等を生徒だけの力で運営させることが必要だと思う。
- ・授業改善に学校全体で取り組まれた結果が生徒アンケートの結果に反映されていると思いますが、保護者アンケートの家庭学習の習慣について4. 1ポイント下がっているのが気になります。生徒の頑張りが保護者に伝わっているのかが少し懸念されます。
- ・校内は大変落ち着いた学習環境の中で、生徒たちは意欲的に学習に取り組んでいます。特に ICT 機器を用いた授業では、どの子も目を輝かせて調べ学習をしている姿が印象に残りました。
- ・校内研究で「基礎基本の定着」「読み解く力の育成」「表現力の育成」を重点課題として、生徒さんが分かる、できる喜びを実感し、生きる力の基礎を培えるように、校内で一丸となって実践されている点が素晴らしい。
- ・「夢を語ろうパネルディスカッション」では、各学年の代表の生徒さん、学運協のメンバー、伊吹山中卒業生の歌手の真依子さんが集い、それぞれの思い、夢を語る集会が持たれた。生徒さんは部会のことや日々の思い、将来の夢を、全校やPTAの方の前で、堂々と語り素晴らしいと思った。日頃から、友達との関わり方や将来のこと等、考えてないと話せないし、校内研の中で、自分を表現する機会や方法を工夫される中で、こんなに堂々と自分の思いが話せる生徒さんが育ってきたのではないかなと思う。
- ・小さい子が対象と思いがちな「読み聞かせ」に取り組まれていることは、生徒の想像力、表現力等を育むのにより授業と考えます。また、図書室が整理整頓されていて、利用しやすい環境になっていると感じます。
- ・授業参観させていただいたときも、落ち着いて授業を受けていましたし、学校評価の中でも、スクールサポートスタッフと担任の先生、ほかの先生方との連携がうまくできていることがうかがえます。
- ・今年は中学校のサウンド部が少ない部員にもかかわらず「金賞」を受賞されたとの事。部員には1年生もおられ練習時間が少ない中での受賞です。すばらしいと思いました。小学校にも来られてみんなに披露してくれました。今後も頑張ってくれることを希望します
- ・中学校は、少ない生徒ですがボランティアをしてくれる生徒が多いです。全校生徒が全員とはいかなくてもほとんどの生徒が参加してくれます。うれしい事です。地域へ出かけてのボランティアもあり今後も続けてくれることを願います。
- ・また、土曜学習会も開催されています。サポートは卒業生。この取り組みも恒例となっていますので今後も続けていただきたいです。今年度は15回を計画されていて13回が終了。のべ99人が参加したようです。
- ・古い教育スタイルにとらわれることなく、新しいスタイルはもちろんのこと、基本となる「話す」「聞く」「読む」「書く」活動も大切にしていただけるよう期待しています。

(2) 視点② 学校は、英語教育に力を入れ、児童・生徒のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進に積極的に取り組んでいる。

ア 小学校

- ・英語学習で98%の児童が楽しいと感じていることが素晴らしい。中学校の英語学習につなげてほ

しい。

- ・保護者評価で「英語に対する関心の高さ」の項目がやや低いことが気になる。もっと知らせていくことが大切。
- ・視点②は、保護者評価や児童の振り返りで高いポイントで取組状況が伺える。
- ・ALTの先生の授業は楽しそうで、子どもたちの発音がきれいだなと思います。
- ・英語教育は着実にレベルが向上しています。児童が英語に溶け込んでいるようになっています。
- ・英語教育充実には、人的、物的な追加補給が必要です。現状の資源からすると、現職員の成果はこれ以上望めないほどです。
- ・英語教育について、児童に「英語耳」が身につけていないことが気になる。多分それはネイティブの英語に接する機会が足りていないからだろう。例えば中休み、給食の時間、昼休みに、ネイティブによる優しい英語の物語などを流すのは効果的だ。毎日繰り返すことで、耳が英語に慣れてくると思う。

イ 中学校

- ・国際教育も大事だが、英語教育の前に国語力を向上させることが大切だと思います。日本語を正しく使えなかったり、自分の思いを文章で表現できなかったり、苦手意識を持っている児童生徒が多いように見受けられます。国語力が定着しないまま、小学校から英語を学習することで、コミュニケーション力にはつながったとしても確かな英語力にはならないのではないかと感じます。
- ・オールイングリッシュ授業、小学校からの系統的英語学習とのことですが、今後は勉強だけでなく、生活に密着した学習になることを期待します。
- ・英検漢検数検の対策と推進ができれば理想的だと思う。
- ・朝読書の代わりに朝漢検やドリルをやってはどうか。毎日10分間すれば漢字力は飛躍的に伸びるのでは。
- ・英語はこれから必要になると思うので力を入れることは素晴らしいです。

(3) 視点③ 学校は、特別支援教育推進のため、管理職およびコーディネーターを中心に、組織的に取り組み、生活や学習上の困難を克服するための適切な個別の教育的支援を行い、個々の能力を最大限に伸ばす指導を行っている。

ア 小学校

- ・関係機関との話し合いなど、可能な限り実施されていると思います。
- ・特別支援学級と通常学級の児童生徒がお互いの理解を深めることはとても大切だと思いますが、学校の中だけでは十分ではなく、地域の中で、遊びを通して日常的に一緒に過ごすことがもっと必要だと思います。
- ・特別支援教育コーディネーターの先生は、ご苦労も多い事と思います。
- ・以前行われていた少人数制の授業がなくなったことで、子どもからは「前のほうがゆっくり教えてもらえた。」という話を聞きます。理解に時間を要する娘には、貴重な時間でした。様々な制約があるなかで難しいと思います。分からない子も分かったと実感できるような体制があるといいなと思います。会議のなかで出たように子どもが「分かった、分かりやすい」と感じてい

るのが一番大切だと思います。学校にとっての顧客は、生徒だと思うので顧客の満足やニーズを把握できるようにアンケート等（聞き取り）の工夫ができるとよいと思います。

- ・特別支援教育は、あおぞら学級の先生が中心になって授業やフォローがしっかりされていると思います。ただ、支援対象になっていない子どもたちで声掛けフォロー、サポート、追加の学習支援が必要な子どもたちが多く見られます。授業内容が分からず、理解できないまま単元が終わってしまい、自主学習でやりなおしをしようとしてもできない。自宅に回ってくる回覧板で他の学校の学校評価結果を見ましたが、「学校の学習が楽しく分かりやすいと言っている。」の％が他校より低く感じました。一人ひとりに確かな学力を育むために、4，5，6年の学びっ子の延長、算数の少人数クラスを検討していただけたらと思います。
- ・特別支援教育にもしっかりと注力されているのだらうと思いますが、具体的な取組や状況を私自身が把握しておりません。
- ・特別支援教育を推進されている事は、なかよし学級の多さでも分かります。その子一人ひとりに合った支援と教育がされています。学校では十分ケアを受けている子どもたちが地域ではどのようにされているのかが気になります。
- ・園と学校はよく連携され取り組まれていると感じる。さらに市教委、保護者との連携を深め、児童の豊かな成長につなげていただきたい。
- ・なかよし学級で支援を受けている子どもたちの成長は目を見張るものがあり、先生方に感謝しています。
- ・特別支援教育では個々の能力を伸ばす指導が効果を出しています。
- ・とある児童が授業中部屋から出ていく→先生が探しに行く→残された児童は自習→勉強が進まない。という事態が頻繁にあると聞いています。先生方もお忙しいでしょうし、加配の先生をつけるのも難しいとは思いますが、残された児童の勉強もスムーズに行えるよう、フレキシブルな先生がもう少し居てくださればと思います。

イ 中学校

- ・難しい生徒さん達の対応に、一人ひとりきめ細かく接していただく先生方に感謝しています。
- ・特別支援教育については、小中学校に配置されているサポーターの力は、とても大きいと思います。特に小学校では特別支援学級の交流学习や通常学級での学習支援については、サポーターなしでは回らない場合もあります。本来なら担任との信頼関係で成り立ってほしいことでも、サポーターだけで対応しなければならないこともあり、残念に感じます。うまく連携し対応してもらえることを望みます。
- ・特別支援教育においては、見通しの持てる授業の工夫、掲示物の工夫等、生徒さんが授業に向き合い集中できるように、きめ細かな配慮をされている点が素晴らしいと感じます。
また一人ひとりの理解や状態に合わせて、8人8通りの授業をされているとお聞きし、頭が下がります。全教職員、サポーターの方の協力なくしてはできないことで、改めて、学校長を中心に一丸となって取り組んでくださっていることに感謝したいです。
- ・特別支援教育についてはかなり進んで来ていると思いますが、まだ、教師自身の意識理解力に差

があるようだ。

- ・特別支援の生徒への周りの配慮や関わりが大切である。
- ・特別支援教育は今はいろんなタイプの生徒が居るのでそれぞれの生徒に合った指導をしてもらえることがありがたいです。
- ・見学機会があるたびに、いつも明るい表情で勉強している状況がみられるのをうれしく思います。先生方との信頼関係が築かれているのでしょう。

4 地域に根ざし地域に開かれた信頼される学校の創造

【評価 小学校 3.67(+0.15)、中学校 3.59(+0.06) (評価は 4 段階)】

(1)視点① 学校は、地域の人材を生かした学校運営と学習活動の工夫に積極的に取り組み、郷土の自然や文化・伝統を生かした教育活動の推進など特色ある学校づくりを推進している。

ア 小学校

- ・子ども達との超多忙な時間の合間に、長年ふるさとを知る機会等、考えてくださってありがたいと思います。
- ・ホタルとサギソウが光を発し、輝く姿に、子どもたちの自己肯定感や自己有用感のイメージを重ね、「光り照らすかがやきっ子」を合言葉に、分かりやすい言葉で、教育活動が展開されていることに喜びと期待を膨らませております。
- ・今年度はふるさとウォークが実施できて良かった。今後も継続可能な形で工夫していけると良い。
- ・伊吹はもともと地域の協力を得やすい地域ですが、校長先生を始め各先生方が子どもたちに真剣に向き合い、丁寧にご指導いただいていることが、地域の協力をさらに強いものになっているのだと思います。本当にありがとうございます。
- ・子どもたちの育成は、いろんな方面から適時適切に行われることが望まれます。学校と地域がそれぞれの立場で、今後も子どもたちに関わり、より良い子どもの育成を願っています。
- ・保護者やOBなど、地域の子どもは地域で育てるとの理念が形になったものと思っています。何ほどもできていませんが、少しでもお力になればと思っています。
- ・コロナ対策もあり、なかなか地域の方と交流が難しかったと思います。次年度からは、ぜひ様々な校外学習等が行えるようになるといいなと思います。
- ・今後も地域とのつながりをより一層大切にし、継続して取り組んでいただけるよう応援しています。
- ・1年生の「さつまいも感謝祭」に参加したボランティアからの報告では、子どもたちが「美味しい、美味しい」と言って食べてくれて「ありがとう」の言葉を言ってもらえたことがうれしかった。集いにご縁をいただけたことに感謝しますとのことでした。
- ・大人になり、地域に戻り活躍する人材の育成には、地域の歴史に根ざした学習が大切であり、丸暗記の学習から、地域に根ざした学習を職員からもお願いしたい。
- ・徐々に地域のイベント、地蔵盆、お祭りなどが開催されるようになると、これからは以前のように地域の子どもたちとの交わりも増えてくるので楽しみにしています。
- ・評価4だと思いますが、郷土の自然・・・伝統を生かした特色を「もっとできる」と、委員として

思うので、鼓舞するつもりです。

- ・コミュニティ・スクールの役割で、地域の人材を生かした学校の支援が進み、いろいろな活動により学校づくりが進んでいます。
- ・ふるさと学習等、地域や地域の人々とかかわる体験を通して、子どもたちは地域の良さを感じるとともに、地域に見守られているという安心感を抱くようになってきたのではないかと思います。
- ・どの学年も地域教材をしっかりと入れていただいて、故郷を大事にする心が育っていると思います。6年でもう少し地域の歴史に触れていただけるとありがたいです。(老ク連が作られた地域の歴史ウォークラリー活用)
- ・登下校の見守りや郷土学習において、地域の方の多大な協力が得られていると感じます。
- ・各地域の名人に学ぶ授業や外部の方を活用して児童に刺激を与えながら、よりよい学校を創ってこうと努力されている。
- ・学校支援ボランティアの「ほのぼの」は熱心に活動できている。またボランティア間の関係も良好で、学校の支援に対して意欲をもって参加できている。
- ・協議会の委員がもう少し学校にかかわりを持つべきと反省する。今後は、150周年に関する事業もあり、学校が頼れる組織にすることを目標にしたい。

イ 中学校

- ・地域の歴史や文化を学び、自分たちの環境について知識を深めて地域と共有できるようになるような教育活動になってほしい。
- ・地域の特性を生かして「三島池」をテーマにした撮影会など地域の人材を活用した DAITO アクティビティの取組は、昨年度に引き続いて生徒たちが新たな発見をすることで郷土愛を育むことができ、地域の人々の学校に対する理解と関心も深まり、生徒の自主性や地域に貢献しようとする心が着実に育まれていると推察します。
- ・地域の伝統文化「太鼓踊り」の見学や、生徒たちによる三島池の撮影会およびカレンダー作成、伊吹山の登山、地域裏千家による茶道体験、職場体験など多彩な体験ができて素晴らしいと思います。地域で学校を応援したいという機運が高まっているようです。引き続き、地域の方々にアピールしていくことによって、さまざまな伝統文化に触れる機会を設けて、来年度はさらに深まっていくように願っています。
- ・学運協委員が各分野のエキスパートであり、活発な協議会がされている。素晴らしいと感じました。
- ・「北国協往還ふるさとウォーク」では、安全やコロナ対策に留意しながら、高橋さんや小野さんの地域文化に関するお話をお聞きし、秋のふるさとの自然に触れながら、遠い時代に思いを馳せることができたことは本当に良かったと思う。これからも伊吹山中の伝統としてつないでいてほしい。
- ・授業参観後に、地域で音楽活動をされている北川真依子さんに、中学時代の様子、音楽活動をされるに至った経緯、考え方等を親子で聞けたことは、地域の人材活用、親子の話し合いのきっかけ作りにもつながったのではないかと思います。その後のパネルディスカッションでは、パネラーの一部生徒だけですが、話を聞くことができ、目標、一生懸命やっていること、得意なことの発表披露が

あり、自分を高めたり、よいところを伸ばそうと努力している姿を知ることができ、たのもしく感じられた。もう少し時間があり、生徒の話がもう少し聞けると良かった。

- ・事業のテーマの元、地域に根ざしたしっかりした取組がなされています。
- ・地域と連携しいろいろな活動をされており、大変素晴らしいと思います。
- ・これからも継続されていくことを期待します。

(2)視点② 学校は、安全・安心な学校づくりに向け、職員研修の実施や家庭・地域・PTAとの連携による取組により、児童生徒の安全を確保している。

ア 小学校 イ 中学校

- ・両校とも地域の方々との交流の場を計画されています。
小学校では、交通安全教室、田植え体験、地域・施設見学、森林・鎌刃城登山等毎年恒例の交流もあり楽しみにしている児童もあると聞いています。今後も継続を願います。
中学校もボランティアの生徒さんが地域のイベント等に協力をされており地域の方との交流ができています。今年度は青少年育成市民会議の「親子宝探しウォーク」に中学生が協力してくれました。「プランター交流会」では土の入れ替えから運搬・後始末まで頑張ってくれましたし、準備作業も手伝ってくれました。
「教育フォーラム」は、今年度もまだコロナが終息していないため、昨年同様に参加者を限定、日頃学校に協力して頂いている方々を対象に話せる場を計画しました。講師に宇治原ひとみさんを招いて開催しました。体育館でなくプレイルームで顔の見える距離での話。宇治原さんは両校の卒業生なので顔見知りの方もあり、なごやかな中でのフォーラムとなりました。また、参加者全員が感想や意見、日ごろの思いを話せることができたのは良かったと思います。
- ・学校安心メール等ですみやかに安全確保ができていますと思います。
- ・地域に学び地域の人から学ぶふるさと学習をより推進していただき、坂田学区は団地も増えているので、ふるさとを誇りに思える取組を増やしてほしいです。
- ・米中や双葉中の PTA がなくなりどうかなと思っています。坂小の状況も少し聞きましたが、教育は学校、保護者、地域が連携し一体になって行うことによって成果が上がるものと考えます。以前のようにすることは難しいにしても、学校側からもう少し PTA の大切さを訴えてほしいと思います。
- ・高齢化＝児童の占める割合の低下の中で、地域の大人たちが協力的である。この点が重要であり、維持のため努力するほうがよい。
- ・地域の皆さんの協力のおかげで支援のための必要な活動は順調に推移しています。学校側の対応にもなんの問題ありません。

(3)視点③ 学校は、学校支援地域本部事業、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を活用し、地域コーディネーターを中心に学校を支援する体制づくりに努め、積極的に地域に働き掛け、創意工夫があり実りのある教育フォーラムを開催するなどしている。

ア 小学校

- ・去年同様、コロナ禍の中で積極的に活動できませんでした。地域が学校を知り、バックアップしていく必要性が問われる時代になり、今後も地域が深く関わって行かなければならないと思います。小学校を核とした地域ネットワークづくりが強固なものになるように地域と保護者、学校が連携に問題解決に努めてほしい。

- ・学運協では、現代の子どもたちが置かれた環境をどう捉えるのか、将来どんな大人になってほしいのか、そのために学校や地域の大人がどのように関わることが必要なのか、学校だけでなく地域としてできることが何なのか等を話し合うことが、まず大事だと思います。そうでないと、学運協に、教職員だけでなく、様々な社会経験を積んだ地域住民がメンバーとなっている意味が薄れてしまいますし、子どもの育ちに関するさまざまな事柄(学力だけでなく、心の教育を含めて)の多くを学校が担い、現場の負担が重くなっている現状は変わらないと思います。
- ・学校支援ボランティアに多くの方が参加された。児童と接することは双方にとって、良い刺激となる。
- ・教育フォーラムの内容や実施方法について、取組を広げるために今後考えることが必要。
- ・学校運営協議会のミッションは大きく、単に年1回のイベントだけでなく、本調査票の視点の取組や評価を踏まえた改善策の検討や新たな取組などの活動もできればいいと思う。
- ・プログラミング教室や読書会など定着した活動ができている。更に充実したものになるよう取り組んでいただけるとよい。
- ・地域・人とのつながりを重視した取組が実践できていると感じる。
- ・教職員の人数が少ないので、地域や保護者に協力してもらえるようにメール配信をしてボランティア募集をされてはどうかと思います。(書写、ミシン、地域探検の道中見守り、読み聞かせ、プールサイドからの児童の安全監視など)。年度末に一年間お世話になった方々を招き、感謝の会を開催しお礼を伝えるとともに、たくさんの人に支えられ生活ができていることを実感してもらってはどうか。(コロナ禍で開催できず)
- ・長年活動に関わっておられる方や組織があり、ありがたいと思っています。新たな人が参加しやすい仕組みもほしいです。
- ・学運協に入らせていただき、町探検や野菜づくり、ふるさと絆ウォークなどで子どもたちとともに活動できた。若い先生方にも伝わるとさらに良いと思います。
- ・学校地域共同本部の一員としても学校の要望に応えられるよう運営していきます。米中にあるかまどベンチや中庭のテーブル等を活用して、小中の交流を図ってほしい。今年度は、特支学級の小中交流会で活用し、中学生が小学生をよくお世話してくれたのも良かった。次年度もぜひやりたいものです。
- ・学運協の雰囲気はいいと思います。校長・教頭先生は、常に地域とのつながりを意識して学校運営をされておられると思います。我々の質問や意見にもしっかり耳を傾けていただき対応してくださっていますが、もっと自由に意見交換や熟議できる場を設けていただけるといいですね。(活動後のお弁当やランチで意見交換など)
- ・今年度はコロナの影響で10月の学運協の学習参観が中止になったと思うのですが、子どもたちの学習の様子など、もっと参観できればと思いました。来年度は、コロナもおさまリ、もっと学校に関われるようになればいいと思います。
- ・コミュニティスクールの取組に対して、協力的で協働しやすい環境にさせていただけており、ありがたいです。
- ・学校運営協議会では、ホームページによる情報発信が課題であると意見が出ていたが、できるだけ教職員の負担のかからない形で IT にたけた保護者等外部人材を活用しながら進めていただき

たいと考えます。

- ・まだ本来あるべき CS としての機能が発揮できていないと反省しています。

イ 中学校

- ・保育園、幼稚園～小学校と培われたふるさとを愛する心・知識が、さらに真に地域に役立っていつて、必要な存在であることを、地域住民としても伝えたいとは思っているのですが…。
- ・地域防災訓練はとても良かった。地域の大人と中学生と一緒に活動できる場が、今後も有意義ではないか。地域の大人にとって、中学生の力を再認識するチャンスであり、中学生にとって地域の人の知恵を学んだり、交流できるととても良い機会だと思います。
- ・DAITO アクティビティの名で、生徒たちに呼びかけ、地域のつながりができてきたようです。さらにこの取組が発展することを願っています。
- ・地域の方もより良い学校運営にたいへん協力的で、関心を持たれていると思いました。コミュニティの重要性を感じたので、今後も家庭・地域・PTA の連携で開けた学校をつくってください。
- ・学運協の活動を通して、子ども達と近くで触れ合える機会をいただけることに、毎回喜びを感じています。「せっかくやるんやったら、自分たちも楽しんで！！」をモットーに今後も少しでも子ども達の心に届くような活動ができれば、と思っています。
- ・学校運営協議会に楽しく参加させて頂いていますが、会議や事業の準備等は、学校の皆さんに実施して頂いている状況かと思っています。将来的には、よい形で先生方の負担を減らせるような組織になれば尚良いと感じています。
- ・「夢を語ろうパネルディスカッション」では、各学年の生徒さん代表、学校運営協議会のメンバー、伊吹山中学校卒業生の歌手の真依子さんが集い、夢を語り合うという集会が持て、全校生徒や保護者の方にとっても、感動のお話が聞けたこと、素晴らしい集会だったと思います。
- ・各中学校・小学校で CS の交流会をしてはどうでしょうか。
- ・今年度はコロナの影響で 10 月の学運協の学習参観が中止になったと思うのですが、子どもたちの学習の様子など、もっと参観できればと思いました。来年度は、コロナもおさまり、もっと学校に関われるようになればいいと思います。
- ・コミュニティスクールの取り組みに対して、協力的で協働しやすい環境にさせていただけており、ありがたいです。
- ・双中ならもっとできるはずと思える部分もありますが、行動制限を受ける中、仕方なかったかなと思います。
- ・今後も地域に開かれた学校となるよう期待しています。

5 その他

- ・多忙な毎日の業務、先生方が疲れ切ってしまうことがないよう、何か良い方法がないものかと思っています。先生方にとっても楽しい職場であればと心から願います。
- ・AI 時代に対応するため、3 年前から学習指導要領が探求学習（アクティブラーニング）に大転換し、公教育が揺れています。特に小学校の時代は、「楽しい教育（学校）」が大事です。体験学習の実践に力を入れてほしいと思います。学校（小中）図書館の充実を望みますし、学校司書の方の活

躍を期します。(本を読まないという読書離れを危惧しています)。市立図書館との連携を望みます。(学校の図書館は貧弱)

- ・地域の方々に、学校への理解、協力をお願いして、学校の様子、実態を知ってもらうことが大切ではないかと思います。
- ・少子化が急激に進む中で、集団登校が成り立たない地区がある。そこで、特に遠方の地区に向けては、通学バスを走らせる必要があると考える。少子化対策としても有効である。
- ・学校予定が記載された年間カレンダーがあると予定を組みやすい。
- ・今後、少子化、人口減少社会の中で、米原市域の活性化、持続的発展のためには、子どもたちが自ら住む地域に誇りを持ち、住み続けたいと思ってもらうことが大切です。歴史、文化、食文化、あたたかく元気な人々など恵まれた米原で多くの地域の方に関わって頂きながら、地域教育をより一層取り組まれることを期待します。
- ・昨年9月1日、防災訓練の時に、宮城県石巻市出身の名古屋大学2年、東北大地震の被災者で語り部の「岩倉 侑」(イワクラ アツム)さんの講演会をして頂きました。「自分のような思いは誰もして欲しくない。」「子どもたちと年齢が近いので伝わりやすいのでは。」「楽しく生きよう。」「楽しく生き生きと日々を過ごしてほしい。」強く、温かく、志の大きな方です。教育委員会でも講演会をして頂けると有難いです。
- ・いつも子どもたちの教育にご尽力いただきありがとうございます。学校運営協議会に参加させていただくことで、様々な立場の方が子どもたちを見守ってくださるということがわかりました。今後もきっと多くの方が、学校教育に参加できればいいなと思いました。先生方の負担の軽減も大きな課題だと思います。授業だけでなく、保護者の配布物のデジタル化などもしていただければいいのではないかと思います。
- ・地域の方との交流も多くなり、自分たちの住んでいるところの良さを感じられる機会が増えているのはいいことだと思う。この学びが子どもたちの将来につながってほしいです。
- ・若い先生が多くなった昨今、職員同士が学びあい資質向上をめざしてほしい。また、この評価は学校に届けられまとめた結果が市教委に届けられるのだと思うが、本当の声を吸い取るためにも直送でもいいのではないかと感じる。
- ・タブレットを活用しなくてはという思いが強く、図書室の本を活用しての調べ学習がなくなってしまったように思います。対象の本を見つけること、その本の中から内容をみつけまとめて書く。その力が弱くなっていると思います。
- ・特別支援対象児童以外にも困っている子が沢山います。「できた」「わかった」という経験が少なく、自分に自信がもてていません。担任の先生が、何十人も一人一人見るのは、とても大変なので副担任やサポートできる人を増やすことをぜひご検討いただきたいと思います。
- ・学級だよりを発行していない学校があると聞きました。先生方のご負担になると思いますが、学校・保護者・地域の大切な連携ツールになると思いますので、発行の推進をしていただきたいと思います。
- ・近年、子どもが減少し、中学校での部活動が減り、自分の入りたい部がなかったり、そのためにほかの中学校へ転校するなどという話も聞きます。放課後の部活動を学校単位でなく、他校と合同

でできるような仕組みを市全体で早急に作っていただきたい。指導者も地域の人材も活用して。子どもの持ち帰りタブレットの使用や学級閉鎖時のオンライン授業など、もっと推進してほしいです。

- ・学校の様子は回覧やメール等で発信されていますが、まだ多くの方には身近な情報とは感じておられないのが現状です。新聞や伊吹山テレビの活用をおすすめします。
- ・たくさんの取組を行っておられる先生方には頭が下がる思いです。取組の中には毎年やっているからという理由で行わなければならないものがあるのではと危惧しています。ときには、選択と集中で思い切ってやめる取組があっても良いと思いますので、無理のない範囲で進めていただきたいと思います。
- ・私は地域の安全パトロールの会長を務めています。各会員の見守り活動により児童の登下校の安全を目指しています。坂田小学校の通学路は整備されていますが、より安全な登下校のための関係個所との協議の充実をよろしくお願いします。
- ・学習参観や会議等で訪問させていただいたときに、教職員の姿勢が柔らかに優しいことを感じました。子どもたちにとって居心地の良い空間が教室にあるのではないかと思います。また、子どもたち、保護者がとても話しやすい雰囲気を作っていると思います。
- ・市で雇用いただいている講師など、多くの教師が子どもたちとかかわっていただけて手厚い教育ができています。今後も予算を削減することなく、多くの先生に雇用をお願いしたい。
- ・教職員の業務軽減が必要です。
- ・新聞を読まない、本を読まない。この傾向は柏小や柏中だけではないと思います。図書室の充実、学校司書の活動、市立図書館の連携で、本を読む、アナログ的な教育を進めてほしい。
- ・多忙な毎日の業務、先生方が疲れ切ってしまうことがないように心から願います。先生方にとっても楽しい職場でありますように。
- ・自然災害が相次ぎ、災害時、避難所になる可能性が高い学校現場の防災対策がますます求められている。学校主体の防災が必要である。生徒が遊び感覚で防災意識を高める手段として、避難所運営ゲーム「HUG」等を活用して防災対策を推進していただきたい。
- ・コロナ禍が長く続き、体育祭・文化祭・授業参観に何う機会が減りました。その分、ホームページや学校だよりが待ち遠しいです。だけど、学校から発信していただくばかりではなく、地域の私たちも協力できることを見つけてアピールしていこうと思います。
- ・「知・徳・体」の調和は心が豊かで、安心して、生活や学びの場に参加できることが、大きな要因になると思います。社会で生活する上で他者との関わりは、避けられないので、コミュニケーションや思いやり、自身の主張など、「知・徳・体」を学ぶための環境作りが重要だと思います。
- ・あいさつを進んでし、友達とも仲良く過ごし、学校生活が毎日楽しいと感じている生徒たち、本当にすばらしと感じます。先生方の日々のご指導の賜と感謝します。伊吹山中を卒業して、新たな世界に飛び込んだ時も、堂々と生きていけるように、何かあっても、自分の力で切り開いていけるような力を、部活、学習、ボランティア等でつけていってほしいと願っています。さらなるご指導よろしくお願いします。
- ・いろんな場面での訓練をされていますが、災害はいつ起こるか分かりません。非常時の保護者との連携もできているといいかと思います。(避難場所の確認等)

- ・伊吹山登山、北国脇往還ふるさとウォークと活動も充実していますが、北部（東草野）方面の様子を知ったり、地域の方とのふれ合い、学びがあると、なおいきたいと思います。
- ・運営協議会の取り組みを外へ発信してほしい。
- ・毎日朝夕元気に挨拶してくれる子どもたちから元気ももらっています。
しっかりとした米原教育がなされています。情報化教育が進む将来に合った教育を行ってください。
- ・高校に進むと大学受験や就職を見据えた取組になると思うので中学校では生きる力をつけるような何かできるといいなあと思います。
- ・各学校を横断的に部活を運営する議論が進んでいるが、本市のように児童生徒の差の大きい学校の部活の在り方について保護者等の意見も聞きながら進めてほしい。
- ・小規模で部活等の不利な点もあるが、少ない人数のメリットを生かせる運営をさらに探求してほしい。
- ・昔と違って各学校を取り巻く課題は多岐にわたっており、生徒も先生も教育委員会も大変です。学校行事もこんなに多いのですか？とあらためて知りました。そのような中、米原らしい、また、河南学区らしいコミュニティスクールを核として学校運営を進められるように、関係者が協力してブレない子育てを進めていってください。米原市も河南学区としても学校教育目標は素晴らしいと思います。
- ・地球環境問題について 今までずっと指導されていた自然を愛し、大切に作る心を育てたりする以上に、今すぐ自分たちにできることを考えて実践する。また、人に伝えあい、広めることなどをする。など地球環境を守る工夫を学校生活の中で、あたりまえに深めていけるようにしてほしいです。
- ・タブレット PC 端末が導入されて、教育スタイルも大きく変化するのかと期待していた保護者も多かったが、宝の持ち腐れのように思える。先生方も最初は大変だと思いますが、ぜひ有効活用していただきたい。
- ・今後、行動制限が縮小され、部活動をはじめ活発になると思われますが、先生方の負担をいかに減らすかが大切だと思います。緊張感をもって生徒指導をしていただくことは重要ですが、同時に余裕がなくては、人を育てることはできないと思います。
- ・令和 4 年度で PTA 組織も解散しますし、ご家庭が学校と関わる機会が減るかと思います。機会が減ると互いを理解することが難しくなるかもしれません。学校、家庭、地域がうまく連携し、子どもたち一人一人が幸せだと感じられる学校づくりをしていただければと思います。

・・

・教育委員会、市への要望

- (1)宿題などの家庭での子どもの負荷を減らし、子どもたちが地域で遊ぶ時間を十分に確保できるようにする。(2)神奈川県川崎市のような「子どもの権利条例」を、米原市でも制定する、の 2 点を特に強調したいと思います。

同条例では、①安心して生きる権利、②ありのままの自分での権利、③自分を守り、守られる権利、④自分を豊かにし、力づけられる権利、⑤自分で決める権利、⑥参加する権利。⑦個別の必要に応じて支援を受ける権利の 7 つが保障されています。

先日、市内で「ゆめパのじかん」という映画の上映会を行いました。子どもの権利条約に基づいて川崎市が設けている、子どもの自由な遊び場・フリースクール(川崎市子ども夢パーク)の実践を描いた作品です。その鑑賞後アンケートの米原市内の10代の参加者の言葉を、私はとても頼もしく感じました。

「この映画の中で一番印象に残っているのは、自分が好きなことや悩めることを自主的に進んでやったり、考えたりして成長していったところです。やっぱり大人がああしろこうしろと言わず、木材を切ったり、火をおこしたりしているところが、すごくいいなと思いました。(中略)自由にさせてあげたい大人もいれば、あれをしろ、これをしろという大人もいて、そういう人は、少しでも心を改め直してくれたらいいと思いました」

一方、私が普段、地域活動で接する範囲においては、大人に対してこれほど強い意志を見せる子どもは少数派のように感じています。

私見ですが、米原市、特に柏原学区では、児童生徒の人数が非常に少ないためか「大人にお膳立てされることに慣れている」傾向があるように思います。子どもたちがより主体性を持てるようにするためには、上記の中で特に、⑤自分で決める権利、⑥参加する権利を保障する意識を大人が持つことが、とても重要ではないでしょうか。

地域活動の中で子どもたちからよく聞く言葉として、「学校はそんなに自由じゃない」「結局は大人が決めるんでしょ」があります。「集団の中で自分には決定権がない、大事なことは自分以外の誰かが決める」という感覚はとても残念です。学校では、子どもたちの意見を取り入れようという姿勢を持ってくださっていると思いますが、子どもたちは、「でも、最後に決めるのは先生だ」と思っているようです。例えば、児童生徒から何か提案があった場合、「いいアイデアだと思うけど、校長先生に相談して決めるね」「職員会議で相談するね」等の対応が行われ、最終決定の場に子どもが不在ということが、学校ではあるように思います。もちろん、内容によっては大人の判断が必要になることもあります。その場合は、子ども同士の議論に大人が出席して、一意見として発言して、その意見をどう取り入れるかを子どもたちと議論して、その場で決定する、ということができないものかと思います。「意見を取り入れる(意見は取り入れるが、判断は大人がする)」というよりも「子どもも大人も1人1票。知見やアイデアを出し合って対等に決める」姿勢を見せることで、子どもたちが「自分の意見は尊重される」「大人に対しても意見を言っているんだ」と思えるのではないのでしょうか。これは、社会に自ら関わっていかうとする意欲を育てるために大切なことではないかと考えます。米原市の教育の2本柱とされている「自己肯定感」と「自己有用感」ですが、これらを育てるためとして行われている行事やプログラムの内容の多くが、大人主導で決められているのがもったいないです。これらのプログラムをできるだけ子ども主体で、または子どもと大人が話し合って作り上げていくことをぜひ目指してほしいと思います(そうなるように、地域住民としてもできることを考えたいです)。行事ごとの労力は大きく増しますが、年間のプログラムを見直して数を絞るなどして、一つ一つの充実度を高めることが、子どもたちの自己決定の意識、社会への参加意欲を増し、自己肯定感や自己有用感を高めるのではないかと思います。

《その他のお願い》

- ・学校評価アンケートの廃止または項目の見直しをしてほしいです。

同アンケートでは、あいさつや生活態度、郷土愛など、目に見えないものを評価対象として数値化していますが、これは、「大人の評価を気にする」子どもたちの傾向をより一層強めていると思います。生徒自身の自己評価として行われるのならまだしも、現行のアンケートでは、保護者や教員、地域住民などが評価者となっており、子どもにとっては窮屈ではないでしょうか。仮に行う場合は、せめて数値式ではなく記述式にすること、子どもたちのマイナス面よりもプラス面に目を向けることが望ましいと思います。

私が地域活動の中で出会う子どもたちからは、「先生に怒られたくないから/褒められたいから自主勉を○ページやる。」「学校には行きたくないけど、親を困らせたくないから/喜ばせたいから行っている。」「先生に言いつけるよ。」といった声がよく聞かれます。子どもたちは、大人からの評価を日々非常に気にしながら過ごしており、「自分自身の意欲」を二の次にしてしまっている現状があると思います。

- ・あいさつ運動を廃止してほしいです。

理由の第一は、あいさつを「運動」にすることで、子どもにあいさつを強制してしまっていることです。あいさつができる子どもに育てるためには、大人同士がにこやかにあいさつを交わしたり、大人が子どもに優しくあいさつをしたりする姿を見せるしかないと考えます。子どもには、あいさつは「しなければならないもの」ではなく、「したくなるもの」であってほしいと思います。仮にあいさつ運動をする場合は、子どものためというよりは、大人のためのものと、意識を変えてはどうかと思います。「あいさつをしなさい」という眼差しで子どもを見るのではなく、「今日はあいさつの声が出ていなかったな。元気がなさそうだな」等、普段と違う子どもの様子に大人が気付くための活動として、また「子どもがあいさつしたくなるような大人でいよう」と、大人が自らを振り返る機会として実施するのがいいと思います。

第二に、あいさつ運動においては「はきはき、大きな声で」が「典型的なよいあいさつ」とされている風潮も疑問に思います。「はきはき、大きな声で」でなくても、気持ちが伝われば満点だと思います。私事ですが、私は子ども時代に吃音症状が強く、特に「あ行」が発音しづらかったため、「おはようございます」「ありがとうございます」は言いたくとも言えず、あいさつ運動は苦痛でした。吃音は100人に1人の割合と聞いていますし、軽度の吃音の場合は目立たないので大人が気付かない場合もあります。たとえ、現在の小・中に吃音の子どもがいなくても、「はきはき、大きな声で」が正しいあいさつだと思い込まれると。そのあいさつができない人を否定的に見てしまいます。「はきはき、大きな声でなくても、気持ちが伝わるのが大切」ということが子どもたちに伝わればと思います。

【図書館内部評価】

この内部評価は、米原市図書館サービス基本計画に基づき図書館運営を行った実績について、その成果と課題を見出し、サービスの向上に努めるため、図書館協議会で評価をしていただいたものです。

1 市民の求める資料を提供します			
指標	現状	実績 (R4)	目標 (R8)
(1) 市民一人当たり図書館貸出冊数 (当該年度の年間個人貸出冊数÷米原市の人口)	9.7冊／年 (R1) 6.7冊／年 (R2)	7.8冊／年	12.5冊／年
(2) 蔵書更新率 (更新(受入＋除籍)された冊数÷蔵書冊数×100)	3.2% (R1) 4.6% (R2)	3.0%	5.0%
(3) 蔵書回転率 当該年度の年間個人貸出冊数÷蔵書冊数	1.3回 (R1) 0.9回 (R2)	1.0回	1.5回
(4) レファレンス満足度 (レファレンスサービスについてどう思いますか 「満足している」「普通」÷(「合計」－「尋ねたことがない」)×100)	98.0% (R1) 98.5% (R2)	98.4%	100.0%
(5) 地域資料・行政資料の貸出冊数	1,383冊 (R1) 1,084冊 (R2)	1,168冊	1,300冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C
------	-------------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なイベントや取組を企画し、新聞やテレビ、SNSなどでのPRに力を入れたことなどにより、市民一人当たりの図書館貸出冊数が増加しました。 ・選書会議を年間51回開催し、バランスの取れた蔵書構築と資料提供に努めました。 ・レファレンス満足度は若干下がりましたが、3,139件のレファレンスと21,026件の予約を受け付け、利用者の求める資料や情報を提供しました。 ・歴史文化財担当や関係各課と連携し、郷土資料や行政資料を積極的に受入れ、市民に提供しました。
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス満足度を向上できるように内部研修等を実施し、引き続き誠実なカウンター対応・レファレンス対応に力を入れる必要があります。 ・計画的に資料の整理と除籍を行い、収蔵スペースを確保するとともに、蔵書更新率を向上していく必要があります。また、蔵書の紹介の仕方を工夫し、蔵書回転率も向上させていくことが課題です。 ・郷土資料や行政資料を受入れて保存することは、公共図書館の大切な役割であるため、引き続き多くの資料を収集するとともに、市民の利用や学校での地域学習に役立つように情報発信していくことが必要です。
----	--

2 誰もが安心して利用できる便利な図書館を目指します			
指標	現状	実績 (R4)	目標 (R8)
(6) 市民の実利用率率 当該年度の実利用者数÷米原市の人口	14.7% (R1) 11.1% (R2)	12.3%	15.00%
(7) インターネットからの予約件数	13,072冊 (R1) 13,866冊 (R2)	15,946冊	16,000冊
(8) 高齢者施設等への貸出冊数	654冊 (R1) 443冊 (R2)	935冊	3,200冊

内部評価	(A～E 5段階評価)	C
------	-------------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なイベントや取組を企画し、新聞やテレビ、SNSなどでのPRに力を入れたことなどにより、市民の実利用率を上げることができました。 ・インターネットサービスの案内や館内にある図書検索用PCの使い方をわかりやすく表示するなど、より便利に御利用いただけるよう周知に努めました。 ・令和4年度から開始したまいばら協働提案事業で関係団体と連携して高齢者施設への読書支援を進め、多くの本を利用していただきました。 ・週3回程度の図書館間物流を維持し、伊吹薬草の里文化センター、米原学びあいステーションとも連携し、市内全域サービスに努めました。 ・近江図書館の照明設備改修工事(LED化)を行う等、読書環境の改善に努めました。
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用にハンディキャップを持つ人や日本語を母語としない人へのサービスについて、関係機関と連携を密にして計画的に取り組むとともに、継続的に資料収集していく必要があります。 ・高齢者福祉施設等への団体貸出については、引き続き関係団体と協働で事業を進め、来館が困難な方へのサービスを実施していきます。また、協力していただけるボランティアについても積極的なPRが必要です。
----	--

3 子どもたちの読書活動を見守り、支援します

指標	現状	実績 (R4)	目標 (R8)
(9) 児童書個人貸出冊数	158,913冊 (R1) 99,975冊 (R2)	126,053冊	160,000冊
(10) 児童書団体貸出冊数	13,100冊 (R1) 12,445冊 (R2)	18,033冊	15,000冊
(11) 未就学児および小中学生向けの冊子・たよりの発行回数	14回 (R1) 16回 (R2)	18回	20回
(12) 15歳以下の市民1人当たり図書館貸出冊数	15.6冊 (R1) 8.7冊 (R2)	12.3冊	18冊
(13) 1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合 小学校	96.8% (R1) 96.0% (R3)	95.4%	100%
中学校	87.6% (R1) 95.2% (R3)	85.6%	97.0%
(14) 「まいばら読書の日」の啓発や情報発信等を行った回数	6回 (R3)	8回	10回

内部評価	(A～E 5段階評価)	B
------	-------------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・園との連携やボランティア等の市民の皆様との協働で子どもの読書活動推進に取り組んだことを評価していただき、令和4年度子供の読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰を受けました。 ・出前講座として施設見学を9回、職場体験を5校受け入れることができました。 ・まいばら読書の日記念おはなし会や人形劇、おすすめ本展示、図書館すごろく、夏休み読書リレー、しおり作り体験、親子絵本づくり教室など、子どもたちの読書意欲を高める取組を行いました。 ・学校図書館を整備するため、中学校1校の学校図書館リニューアルを支援しました。また、学校教育課と連携し、図書主任・学校司書の研修会を1回開催しました。 ・絵本のセット貸出を行い、49セット・1,470冊を利用していただくことができました。 ・放課後児童クラブや子育て支援センター、子ども食堂へ団体貸出やPRを行い、地域と連携して子どもたちの身近に本のある環境づくりに努めました。 ・学校司書や先生と連携した「まいbooks」の発行、まいばら読書の日取組を紹介した「まい読通信」の発行等、まいばら読書の日を周知し、家族みんなでの読書習慣の形成に努めました。
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により縮小していた様々なイベントや取組を徐々に元通り開催できたことで、子どもたちの図書館利用を増やすことができました。今後も「まいばら読書の日」をきっかけとして、家族みんなで本に親しめるような取組を行い、図書館の児童サービスを更に充実させていきます。 ・学校図書館との連携を密にして子どもの読書活動を推進するとともに、地域や他自治体との連携も広げていきます。
----	---

4 市民と協働し、交流の場となる図書館を目指します

指標	現状	実績 (R4)	目標 (R8)
(15) ボランティアと活動した回数	66回 (R1) 12回 (R2)	13回	80回
(16) 行事・イベント開催回数	59回 (R1) 14回 (R2)	59回	70回

内部評価	(A～E 5段階評価)	C
------	-------------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌スポンサー制度について継続して実施し、市民に多種多様な雑誌を提供することができました。 ・図書館の環境整備やイベント準備、講演会などをボランティアの皆様にご協力いただき、実施することができました。 ・まいばら協働提案事業として関係団体と協働し、高齢者施設への読書支援を3施設に実施することができました。 ・びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業の1つとして、滋賀県立大学との連携により、学生の企画提案によって「本の湖（ほんのうみ）」を開催することができました。また、滋賀文教短期大学と連携し、「POPと本の帯のコンクール作品展」を開催することができました。
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちの交流の場となれるよう、利用者の声を大切にし、市民との連携・協力により今後も継続して市民力のある図書館運営に努めていきます。 ・コロナ禍によりボランティアとの活動が大幅に減少しましたが、おはなし会や図書の修理等の事業においてボランティアとの連携を少しずつ増やしていくことが課題です。また、他自治体と連携した事業も引き続き実施していくことが必要です。
----	--

5 山東図書館・近江図書館の個性を生かしたサービスを提供します

指標	現状	実績 (R4)	目標 (R8)
(17) 職員対応満足度	99.3% (R1) 98.5% (R2)	98.9%	100%
(18) テーマ特集展示回数	401回 (R1) 285回 (R2)	402回	370回

内部評価	(A～E 5段階評価)	B
------	-------------	---

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感や話題性のある本など、山東・近江2館で読書提案をするテーマ特集に取り組み、目標値を超えることができました。 ・「0～5歳向けおすすめ図鑑リスト」や、一杯のコーヒーに似合う本を紹介した「珈琲と本」、2022年度の主な文学賞や文化・学術賞等の受賞作品一覧「BOOK AWARD2022-2023」などの冊子を発行し、配布することができました。 ・若年層への取組として、新成人におすすめの本や図書館の利用案内を掲載したリーフレット『お祝い』を発行し、二十歳のつどいで配布することができました。 ・貸館が無い日にかたりべホールを学習室として開放し、施設を有効活用することができました。
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員対応満足度を更に上げるため、職員間のコミュニケーションを大切にするとともに、内部研修等により司書のスキルアップに努めるとともに、両館ともに同じレベルでバランスの取れたサービスを提供していくことが課題です。また、職員が外部研修等に参加できるような体制を維持することも必要です。
----	--